南アルプス市埋蔵文化財調査報告書　第24集

山梨県南アルプス市

平成20年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

２０１０．３

南アルプス市教育委員会

TRIAL EXCAVATION REPORT OF BURIED CULTURAL PROPERTIES，2008

例　　言

1．本書は山梨県南アルプス市において平成20年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。

2．本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。

3．調査は田中大輔、斎藤秀樹、保阪太一が担当した。

4．本書の執筆は第Ⅰ章および第Ⅱ章２、４、７、８は斎藤、第Ⅱ章１は田中、第Ⅱ章３、５、６は保阪が担当し、編集は斎藤、田中、保阪が行った。

5．整理作業には、飯室めぐみ、加藤由利子、神田久美子、小林素子、桜井理恵、古郡　明、穂坂美佐子、望月秀和、山路宏美が参加した。

6．本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。

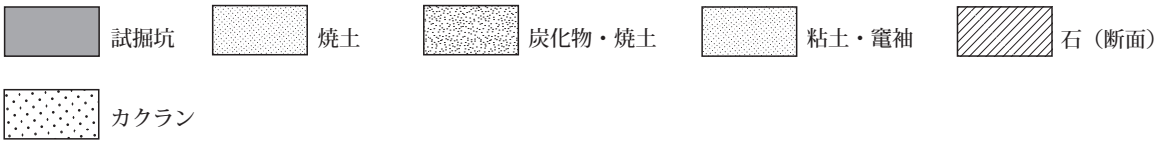
7．試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意としたい。（敬称略・五十音順）

野代幸和、畑大介、帝京大学山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

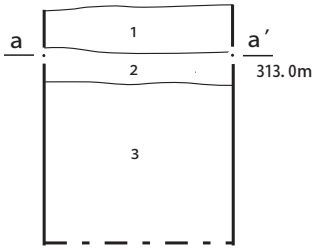
凡　　例

1．遺構および遺物の実測図の縮尺は、それぞれ図に明記しているが、原則として以下のとおりである。
　遺構　　平・断面図・・・・・・・1/20、1/40、1/50

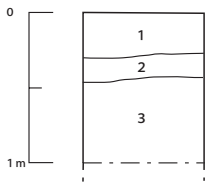
2．遺構図中で使用したスクリーントーンの凡例は以下のとおりである。



3．遺構の断面図、基本層序図における「313.0m」等の数値は標高を表す。また試掘調査時レベルを使用せず、地表から簡易的に測量した断面図には縦のスケールのみ表記した。



標高あり



標高なし

4．遺物分布図におけるドットは次の遺物を表す。
　土　器・・・・・・・●　　石　器・・・・・・・■
　獣　歯・・・・・・・△

5．試掘調査地位置図は都市計画図を基に作成し、縮尺は 1/5,000 である。トレンチ配置図の縮尺は建築範囲に合わせて決定しているため統一しておらず、それぞれスケールを明記した。

目　　次

例　言
凡　例
目　次
第Ⅰ章　平成20年度試掘調査概要――**1**
　1．南アルプス市概要――1
　2．調査概要――1
　3．今後の課題と展望――2
第Ⅱ章　平成20年度遺跡試掘調査概要――**5**
　1．東久保Ａ・東久保Ｂ・古屋敷遺跡――5
　2．坂ノ上姥神遺跡（第２地点）――15
　3．溝呂木道上第５遺跡――40
　4．東出口遺跡――42
　5．椿城跡――48
　6．江原遺跡――52
　7．在家塚・竹之花遺跡――54
　8．坂ノ上姥神遺跡（第３地点）――64

第Ⅰ章　平成 20 年度試掘調査概要

1．南アルプス市概要

平成 15 年 4 月 1 日に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の 4 町 2 村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06㎢、山梨県の面積の約5.9%を占めている。市西部は北岳（3,193 m）をはじめ、間ノ岳（3,189m）、仙丈ケ岳（3,033m）、鳳凰三山など 3,000 m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約 73%を占めている。一方市東部は南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御勅使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

2．調査概要

平成 20 年度の試掘調査は総数 29 件を数える（表 1）。昨年度の 24 件と比べると微増しているが、平成 18 年度以前と比べて少ない。これは蓄積したデータを活用し、より効率的な試掘調査を選択した結果でもあるが、平成 19 年度と同様に宅地造成や工場建設など開発事業自体が低調であったことに起因している。

公共事業、民間事業別で見ると、公共事業の割合は 34%で前年とほぼ横ばいである。件数は少ないながら、本年度も昨年度に引き続き道路建設および長期宿泊型農業施設など大規模な公共事業が計画され、それらに伴う試掘調査には時間、労力を要した。

調　査　原　因		15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	合　計
公共事業	道路	3	3	3	7	4	4	24
	学校	2	0	1	2	1	1	7
	公共施設	2	1	4	0	2	3	12
	範囲確認調査	0	0	0	0	0	2	2
	小　　計	**7**	**4**	**8**	**9**	**7**	**10**	**45**
民間事業	個人住宅	12	2	3	5	3	2	27
	個人住宅兼店舗	2	1	2	0	0	1	6
	集合住宅	1	4	5	5	7	5	27
	工場	0	2	4	3	1	2	12
	店舗	8	3	3	1	1	0	16
	宅地造成・分譲	13	13	16	13	5	3	63
	倉庫	1	2	1	0	0	0	4
	駐車場	1	0	2	0	0	0	3
	鉄塔	1	0	7	0	0	2	10
	その他	1	3	3	2	0	4	13
	小　　計	**40**	**30**	**46**	**29**	**17**	**19**	**181**
合　　計		**47**	**34**	**54**	**38**	**24**	**29**	**226**

第 1 表　平成 15 ～ 20 年度試掘調査原因一覧

第２表　平成 20 年度試掘調査一覧

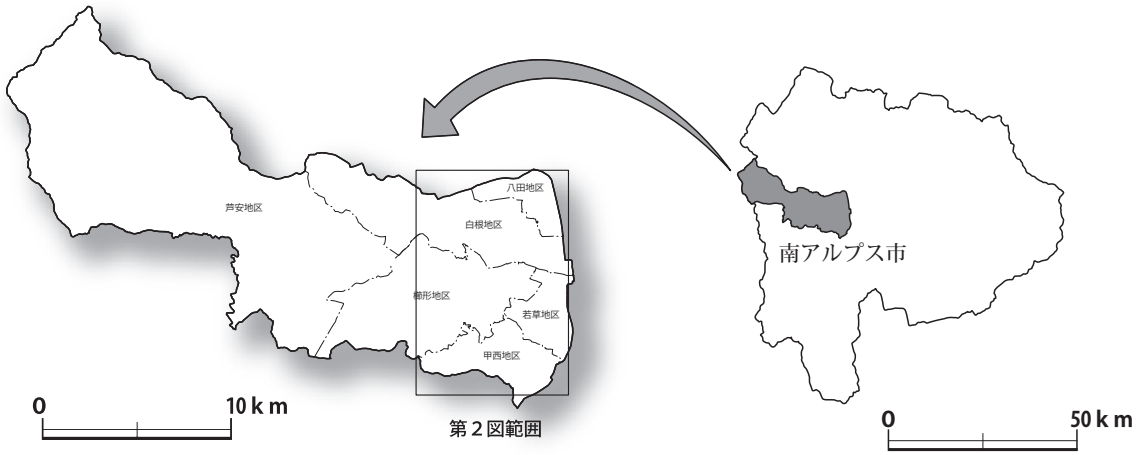
No.	遺跡名・試掘名	調査地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	トレンチ数	遺　構	遺物	調査期間	調査原因
1	今井前第４遺跡	寺部 1397、1401	849	8.12	2	なし	なし	2008 年 4 月 28 日	宅地造成（分譲住宅）
2	東久保 A・東久保 B・古屋敷遺跡	中野 2576 他	7,244	251.04	19	住居址、溝状遺構、土坑	縄文土器、土偶	2008 年 5 月 1 ～ 16 日、6 月 11 日	クラインガルテン
3	前御勅使川堤防址群	上高砂 897	459.81	3.00	1	なし	なし	2008 年 5 月 19 日	県道甲斐芦安線
4	有野 709-2	有野 709-2	27	3.28	1	なし	なし	2008 年 5 月 19 ～ 22 日	範囲確認調査
5	坂ノ上姥神遺跡（第２地点）	徳永 1717 他	3,163	122.69	7	住居址、溝状遺構、土坑	土師器、須恵器、かわらけ	2008 年 6 月 2 ～ 7 日 2008 年 11 月 19 日～ 12 月 11 日	私立小学校
6	曽根遺跡	上宮地 502-1	10,200	130	19	住居址、溝状遺構、土坑	縄文土器、弥生土器	2008 年 6 月 4 ～ 17 日	市道下市之瀬上宮地線
7	溝呂木道上第５遺跡	十日市場 1154	1,533	58.00	4	住居址、溝状遺構、土坑	土師器、須恵器	2008 年 6 月 5、6 日	社屋建設
8	徳永 262-1 他	徳永 262-1 他	1,240.3	5.32	1	なし	なし	2008 年 6 月 13 日	集合住宅
9	上宮地 502-1 他	上宮地 502-1 他	4,650	78.60	10	なし	なし	2008 年 6 月 18 日、7 月 7 日	市道山寺上宮地線
10	前御勅使川堤防址群	六科 1039-27	1,333.44	14.20	2	なし	なし	2008 年 7 月 14 日	集合住宅
11	鮎沢 1080 他	鮎沢 1080 他	5,588.44	96.52	5	なし	なし	2008 年 7 月 16、17 日、10 月 29 日	保育所建設
12	塚原 947	塚原 947	25.00	4.20	1	なし	なし	2008 年 7 月 23 日	携帯電話無線基地局
13	在家塚 1518	在家塚 1518	1,643.24	3.90	2	なし	なし	2008 年 8 月 5 日	配水池
14	東出口遺跡	下宮地 624、625-1	920.40	34.28	2	住居址、土坑	土師器、須恵器、羽釜	2008 年 8 月 11 ～ 13 日	病院建設
15	鋳物師屋古墳	下市之瀬 1499-3	10.00	3.00	1	なし	なし	2008 年 9 月 1 日	携帯電話無線基地局
16	加賀美条里遺構	藤田 66-1 他	1,460.00	12.00	1	なし	なし	2008 年 9 月 2 日	宅地造成（分譲住宅）
17	一の出し遺跡	小笠原 2078	493.71	3.50	2	なし	なし	2008 年 10 月 2 日	店舗兼住宅
18	鮎沢遺跡	鮎沢 500	592.00	23.70	1	溝状遺跡	なし	2008 年 10 月 6、7 日	焼却用土坑
19	椿城跡	上野 345-1	13.50	13.50	1	地下式坑	茶釜、かわらけ	2008 年 10 月 9 日、14 ～ 17 日、27 日、11 月 7 日	範囲確認調査
20	江原遺跡	江原 1269-1	363.00	40.00	10	土坑	土師器	2008 年 10 月 14、29 日、11 月 7 日	工場
21	野牛島 2172-1	野牛島 2172-1	1,075.00	19.00	1	なし	なし	2008 年 10 月 28 日	集合住宅
22	加賀美条里遺構	寺部 290-1 他	483.00	3.00	1	なし	なし	2008 年 11 月 17 日	市道若草 173 号線
23	在家塚・竹之花遺跡	在家塚 20、21	1,663.00	76.09	4	溝状遺構、土坑	かわらけ、擂鉢、鎌	2008 年 11 月 17、18 日、2009 年 1 月 27 ～ 30 日	宅地造成（分譲住宅）
24	榎原・南原遺跡	榎原 375	695.00	18.75	2	なし	なし	2008 年 11 月 19 日	集合住宅
25	前御勅使川堤防址群	野牛島 2330 他	1,486.93	6.02	1	なし	なし	2008 年 12 月 1 日	集合住宅
26	坂ノ上姥神遺跡（第３地点）	徳永 1729-3	500.00	10.00	3	住居址、溝状遺構、土坑	土師器	2009 年 1 月 8 ～ 17 日	個人住宅
27	湯沢 2602 他	湯沢 2602 他	28,000.00	236.40	16	なし	なし	2009 年 2 月 16 ～ 26 日	クラインガルテン
28	百々・上八田遺跡	上八田 53-1 他	58,574.00	279.00	7	住居址、溝状遺構、土坑	土師器	2009 年 2 月 25、26 日、3 月 2 日、11 日	工場誘致
29	飯野 721-2	飯野 721-2	281.00	3.36	1	なし	なし	2009 年 3 月 27 日	個人住宅

調査原因別にみると、集合住宅が昨年度に続き１位で５件、宅地分譲は２位で３件である。例年同様この二つが全調査原因に占める割合が高い。県全体での人口が減少する中で、市の人口は平成 20 年３月で 72､848 人、平成 21 年３月で 72,931 人と増加しており、合併後南アルプス市のイメージ効果による人口増加がその数値に反映していると考えられる。

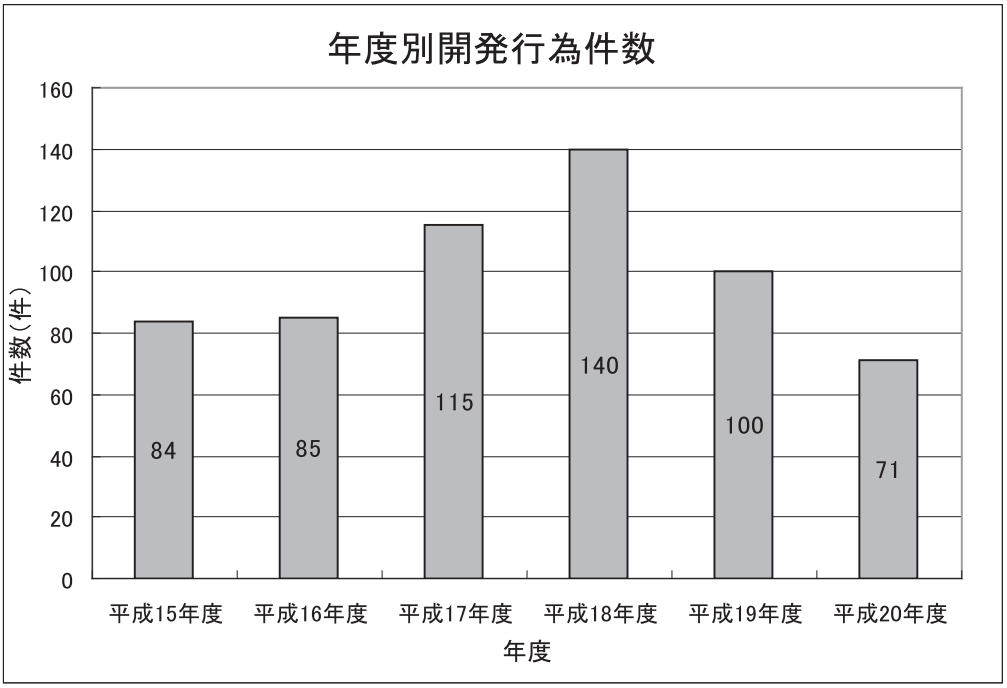
３．今後の課題と展望

本年度は、米サブプライムローン問題に起因した金融危機が世界へ連鎖的に広がり、日本経済も強い打撃をうけ、景気が大きく後退した。こうした社会・経済情勢を反映して開発行為件数は平成 18 年を

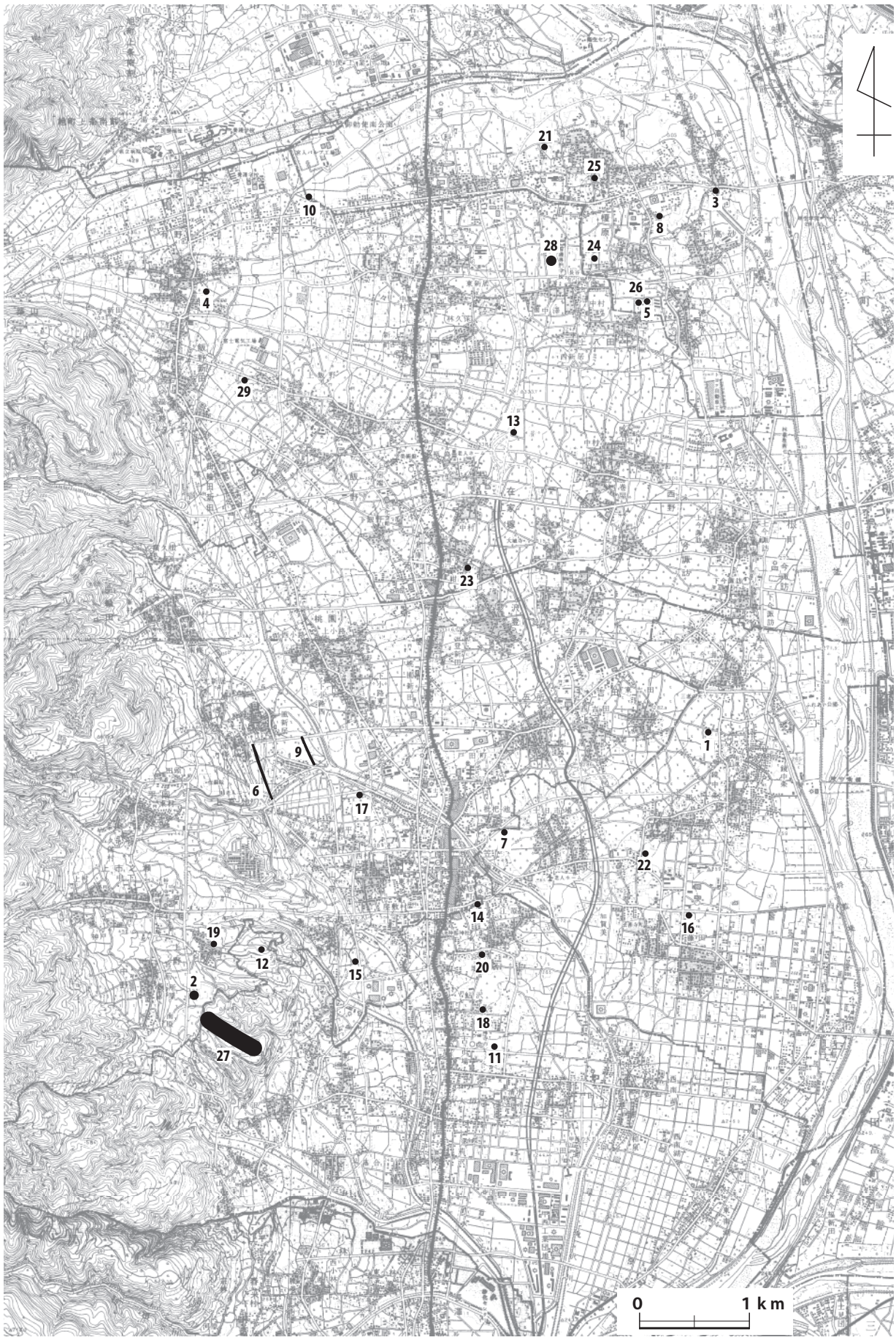
ピークに減少傾向にある。その一方で税収が落ち込む中、財源確保が市、県とも最優先課題の一つであり、とりわけ企業誘致等は当市の主要背策となっている。また各分野で大規模集約化が進められる傾向にあることから、当市において今後大規模開発が計画される可能性は潜在的に存在している。さらに景気対策として行われる公共事業の一時的な増加が予想されることから、試掘調査も増加する可能性がある。こうした各種開発から埋蔵文化財を適切に保護し、開発事業との円滑な調整を図るにはさまざまな規模、種別の工事に対し迅速に対応する調査体制の整備と充実が不可欠である。これまで行った試掘調査結果を検証し、精度の高い周知の埋蔵文化財包蔵地の把握に努め、その結果を広く周知する基本的な保護行政の繰り返しが、埋蔵文化財を保護する有効で確実な方法であろう。



第１図　南アルプス市位置図（1/40 万、1/200 万）



グラフ１　年度別開発行為件数

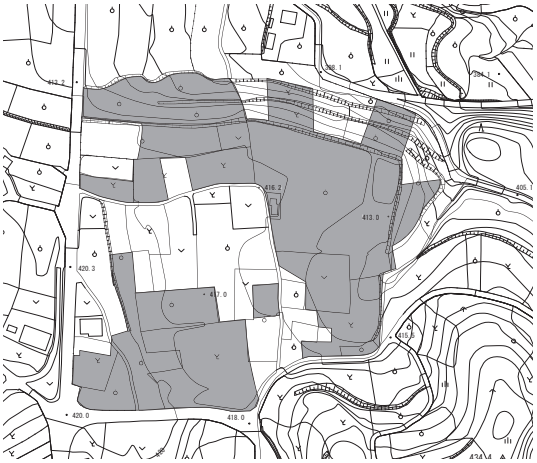


第２図　試掘調査地点位置図（1/50,000）

第Ⅱ章　平成 20 年度遺跡試掘調査概要

１．東久保Ａ・東久保Ｂ・古屋敷遺跡

調査地　　中野 2576 他
調査原因　農業関係（クラインガルテン
　　＝会員制滞在型市民農園）
調査期間　平成 20 年５月１～ 16 日、６月 11 日
対象／調査面積　7,244 ㎡／ 251.04 ㎡



第 1-1 図　調査地位置図

調査概要

遺跡は、市之瀬台地上、北側を堰野川、南側を北沢川に画される舌状台地上に位置する。

上記開発事業に伴う試掘調査は、平成 19 年度にも実施（遺構・遺物の検出は見られずそのまま着工）しているが、本年度は、その事業計画の拡大にともない引き続き試掘調査を実施することとなった。本年度の事業計画範囲と試掘坑の設定位置は第 1-2 図に示したとおりである。滞在型市民農園という事業の性格上、事業範囲に含まれてはいるが、斜面や耕地として従来どおり活用される部分なども多く、掘削を伴わず土地の現状を変更しない部分については、トレンチの設定は行わなかったため、事業計画地内におけるトレンチの設定密度に粗密がある。今回設定した 19 本のトレンチ（T）の概要は第 1-1 表に示した。

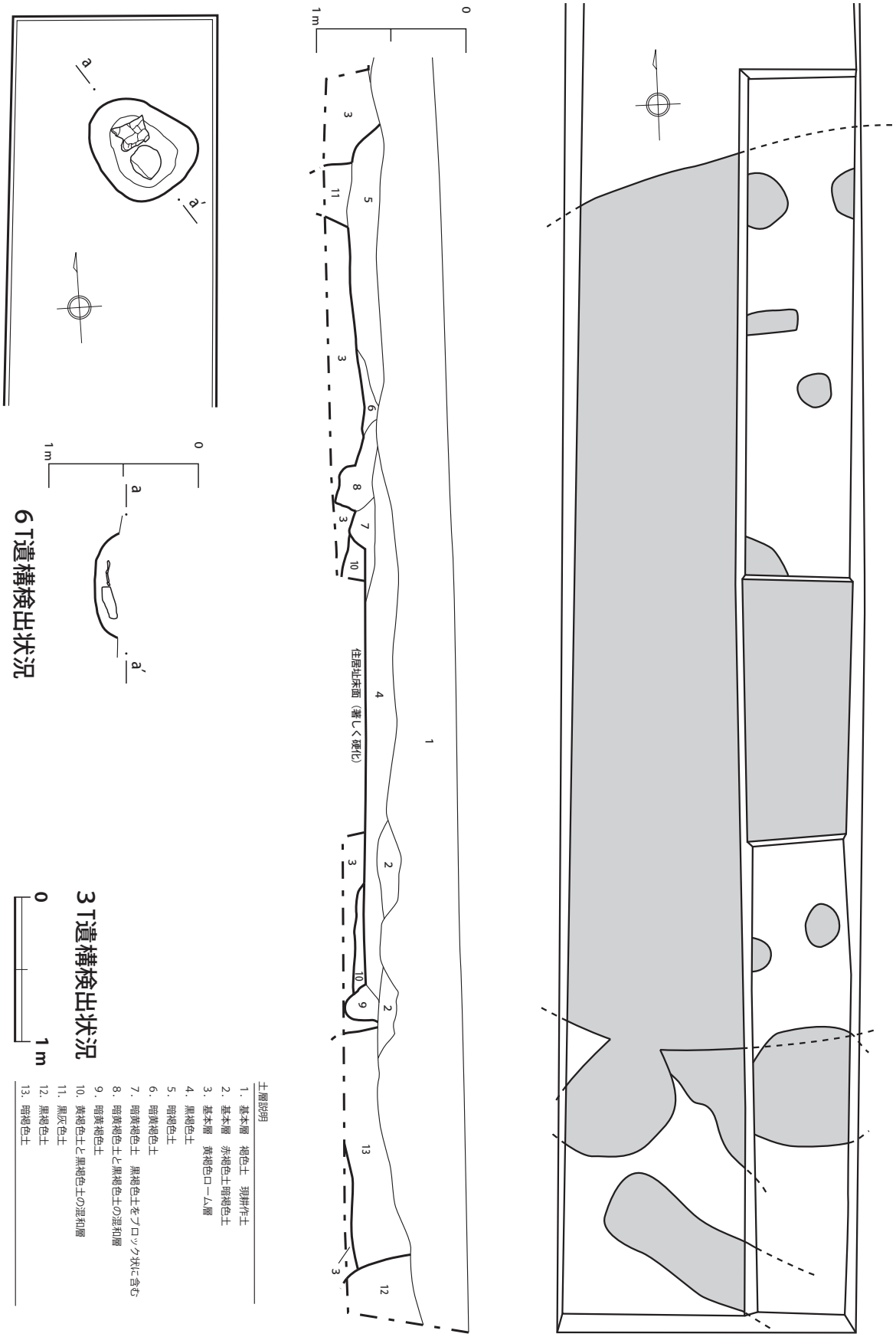
この内、おもな遺構が検出されたトレンチについては、その検出状況を第 1-3・4 図以下に示した。遺構プランの状況から、住居址・溝・土坑等の遺構が検出されたものと推察されるが、試掘調査という性格上、一部例外を除き、覆土を除去していないので殆どの遺構について、その性格や規模は明確にしえなかった。図示したとおり、遺構では３T、遺物においては３T および７T において顕著な集中がみられる。第 1-5 ～ 8 図にやむをえず取り上げた遺物を図示した。いずれも縄文時代中期後半の範疇でとらえ得る遺物と看取される。

このような試掘結果を元に、検出された埋蔵文化財の保護について、事業主体である南アルプス市農林商工部農林振興課に設計コンサルタントを加え協議した結果､規定の保護層が確保できた場合は勿論、確保できなかった地点においても、盛土を施すなど埋蔵文化財に配慮し、工法を変更して、全ての地点において規定の保護層を確保し、現状のまま遺跡の保全を図つことで合意し、開発が施行されるに至った。なお、施工中も随時工事立会いを実施し、遺跡の保全に努めた。

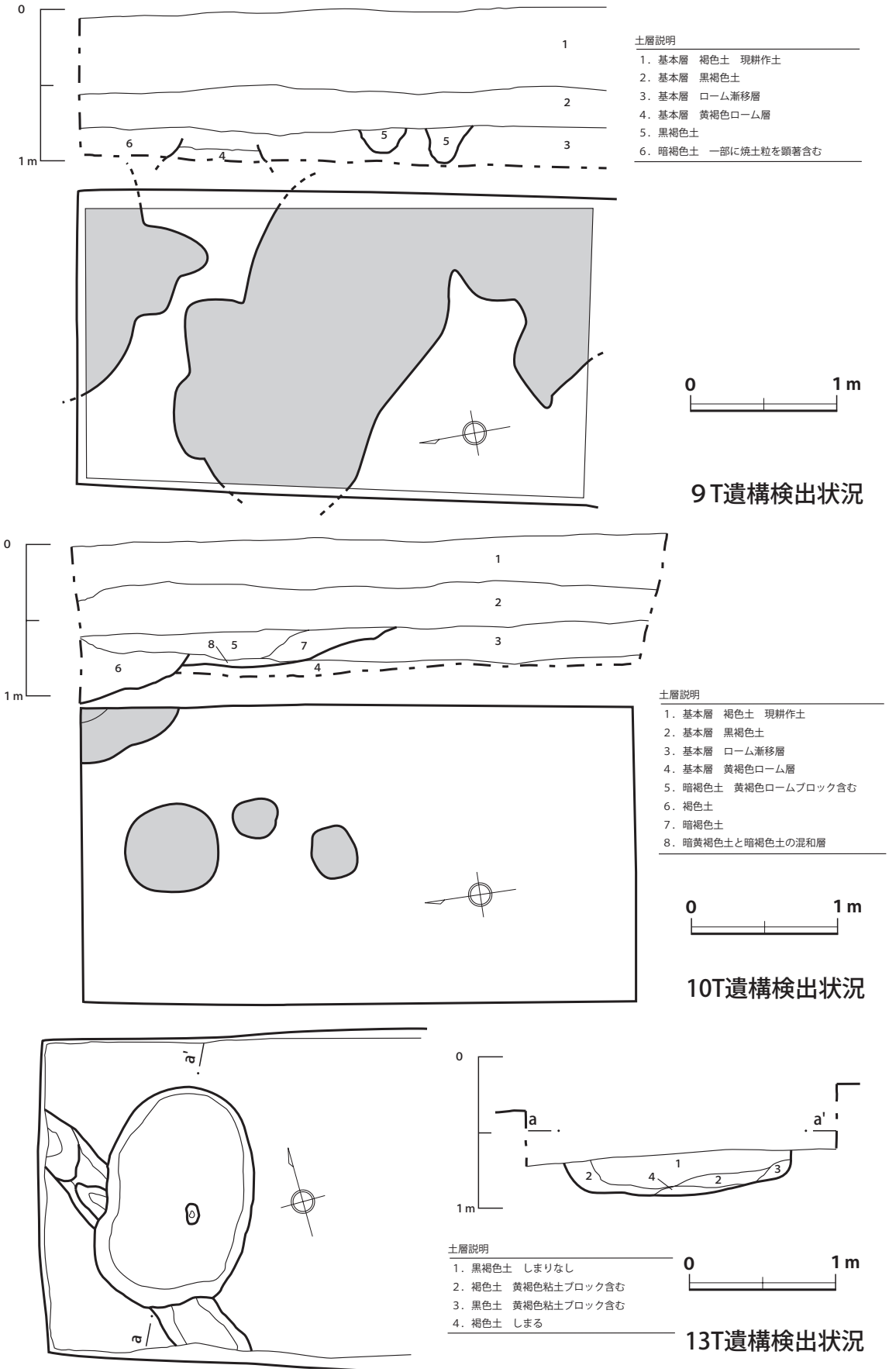
No	トレンチ規模（m）			遺構		遺物	
	幅	長さ	最大掘削深	種別	密度	種別	密度
1	2.00	13.00	0.75	なし	-	縄文中期後半	粗
2	2.00	12.00	0.85	ピット	粗	縄文中期後半	粗
3	2.00	12.00	0.75	住居址等	非常に密	縄文中期後半	非常に密
4	2.00	4.00	0.55	なし	-	縄文中期後半	粗
5	1.50	4.50	0.50	なし	-	なし	-
6	1.50	5.50	0.50	土坑	粗	縄文中期後半	粗
7	2.00	7.00	0.75	なし	-	縄文中期後半	非常に密
8	2.00	3.50	1.00	なし	-	縄文中期後半	粗
9	2.00	4.50	1.00	土坑等	密	縄文中期後半	非常に粗
10	2.00	4.00	0.95	土坑等	やや密	なし	-
11	2.00	4.00	1.10	土坑等	粗	縄文中期後半	非常に粗
12	2.25	10.50	0.45	なし	-	なし	-
13	2.45	6.00	0.40	土坑等	粗	縄文中期後半	非常に粗
14	2.25	7.00	0.50	なし	-	なし	-
15	2.25	6.50	0.40	なし	-	なし	-
16	2.25	6.00	0.50	なし	-	なし	-
17	2.25	3.50	1.10	なし	-	なし	-
18	2.00	5.00	0.75	なし	-	なし	-
19	2.00	4.00	1.40	土坑等	粗	縄文中期後半	非常に粗

第 1-1 表　調査トレンチの概要

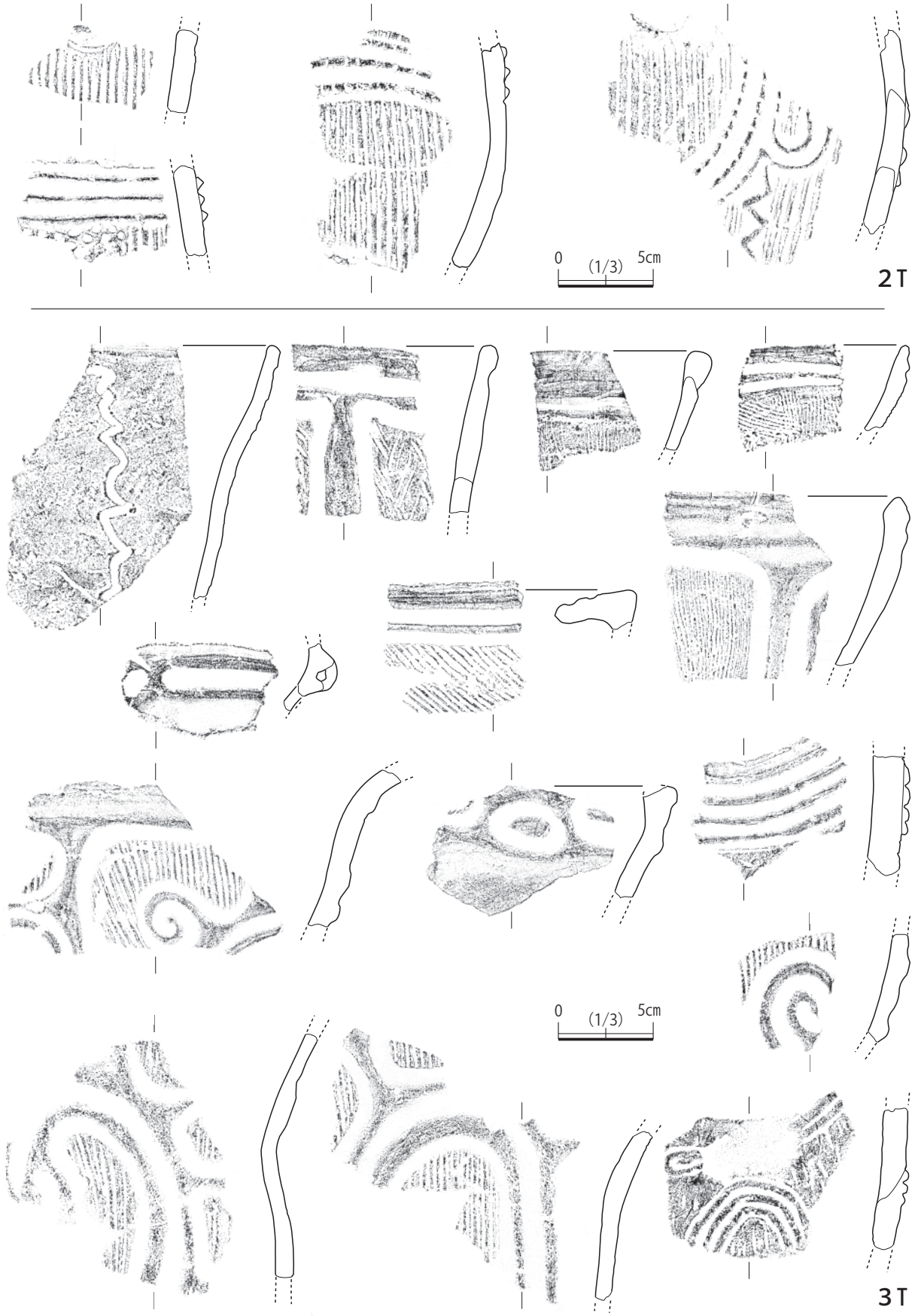
第 1-2 図　トレンチ配置図（1/2000）



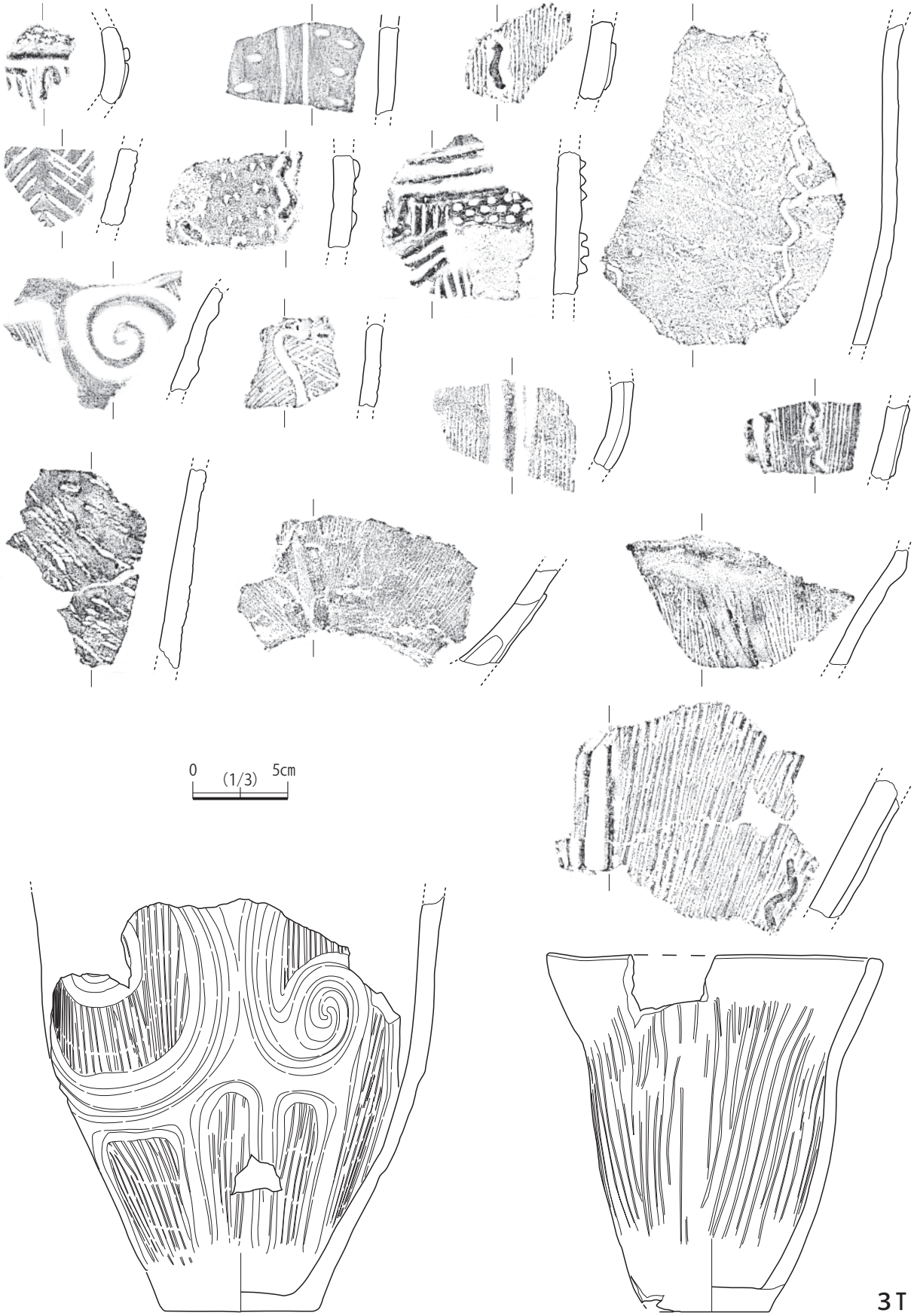
第 1-3 図　3T・6T 遺構検出状況（1/40）



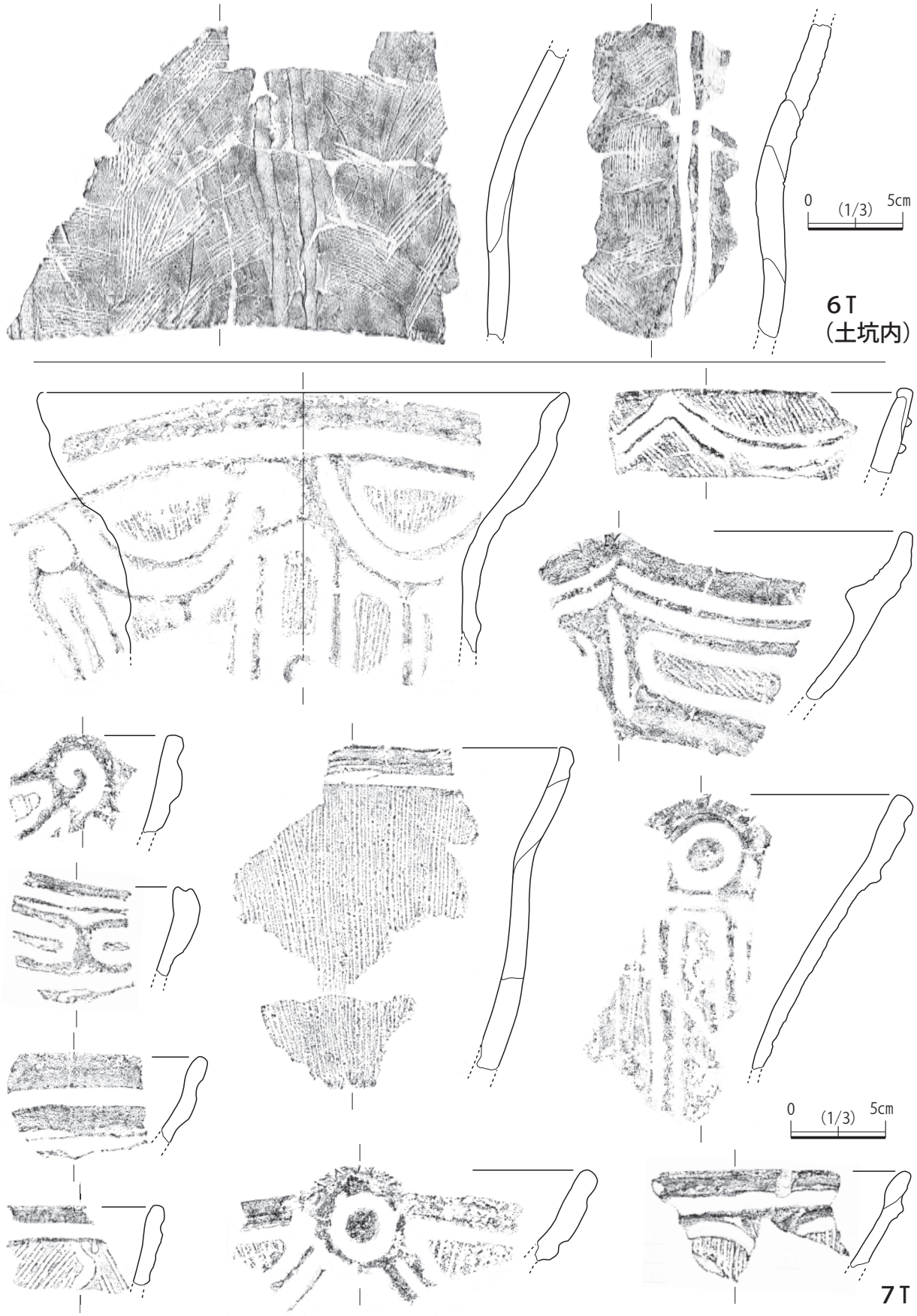
第 1-4 図　9T・10T・13T 遺構検出状況（1/40）



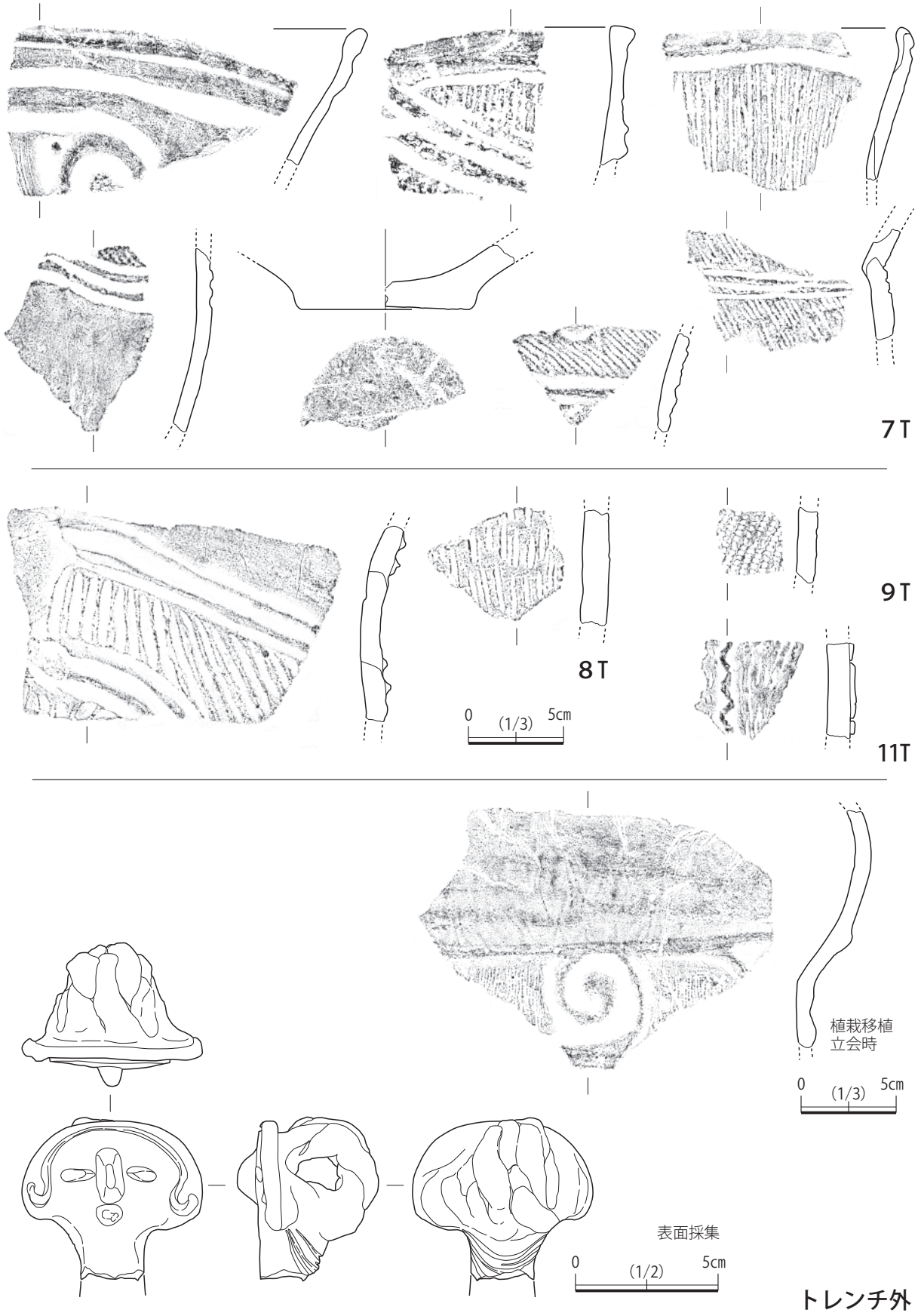
第 1-5 図　出土遺物 1 （1/3）



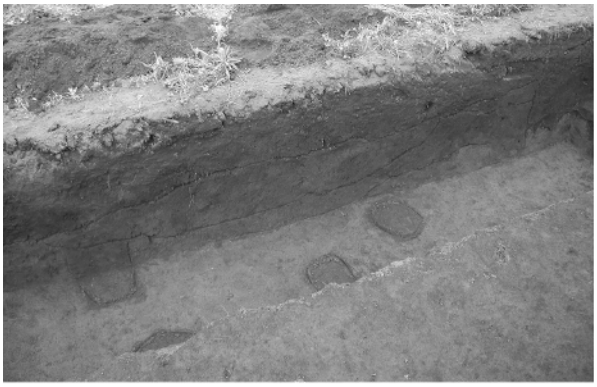
第 1-6 図　出土遺物 2（1/3）



第 1-7 図　出土遺物３（1/3）



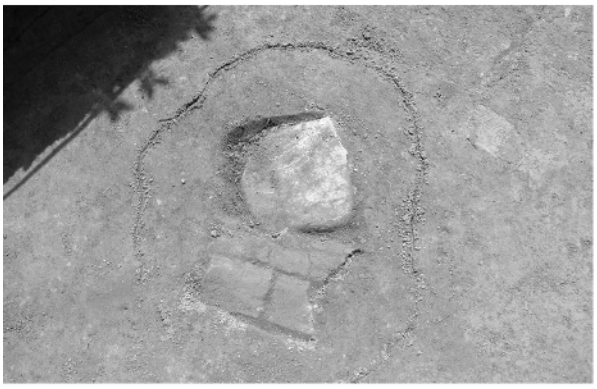
第 1-8 図　出土遺物４（1/2・1/3）



3T 遺構検出状況（北西から）

3T 施工時盛土立会状況

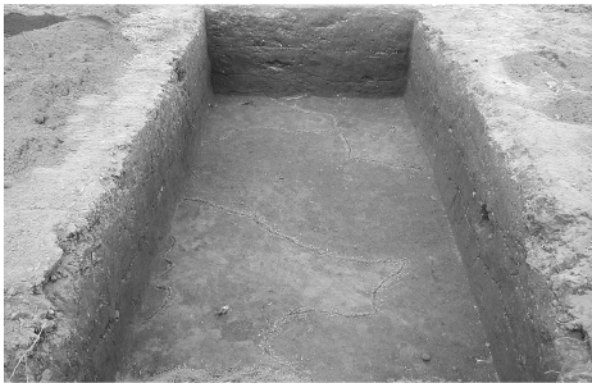
3T 遺構検出状況（南から）



6T 遺構検出状況

6T 調査状況（南東から）

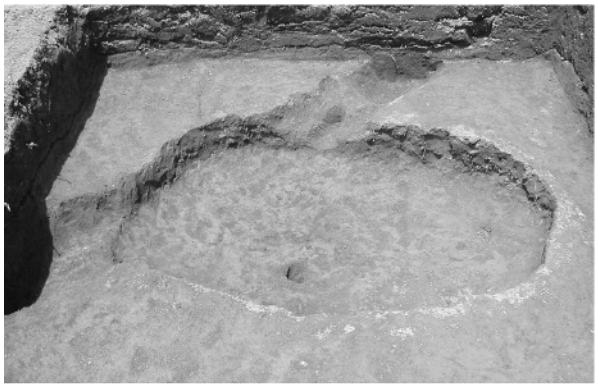
9T 遺構検出状況（南西から）



9T 遺構検出状況（南から）

10T 遺構検出状況（西から）

10T 調査状況（北東から）



13T 遺構検出状況（東から）

出土遺物（表採）

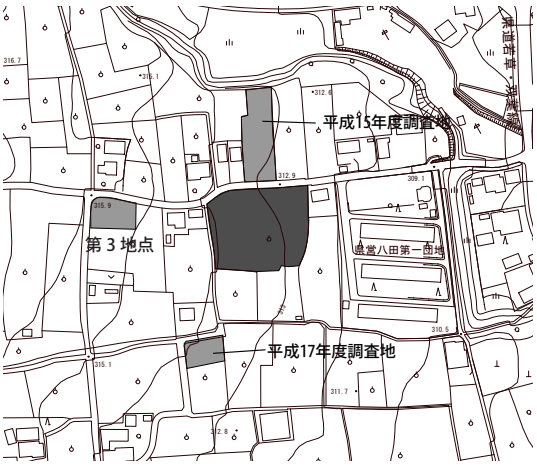
出土遺物（3T）

出土遺物（3T）

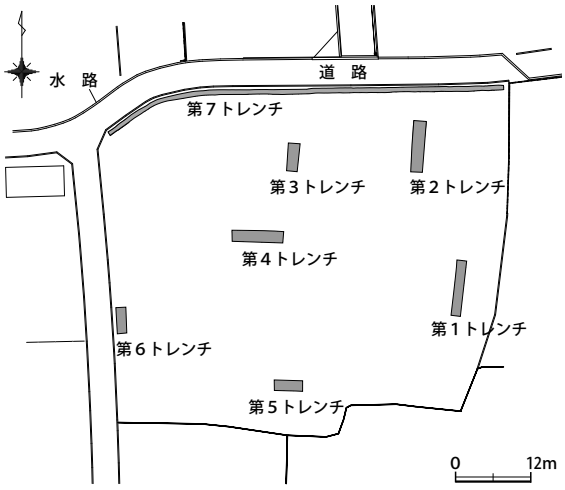
２．坂ノ上姥神遺跡（第２地点）

調査地　徳永 1717、1718、1720-1、1720-2
調査原因　私立小学校
調査期間　平成 20 年６月２～７日
　　平成 20 年 11 月 19 日～ 12 月 11 日
対象／調査面積　3,163 ㎡／ 122.69 ㎡
調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が集中する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。調査区の北側は宅地分譲工事に伴い、平成 15 年度に道路部分の発掘調査が行われ、奈良～平安時代初頭の集落跡が発見されている。一方南側では、平成 17 年度に個人住宅の浄化槽と浸透桝の設置に伴う調査が行われ、10 世紀前半の遺物を伴う竪穴住居址が検出された。調査区の南東には武田家の家臣であった金丸氏館跡（現在は曹洞宗寺院長盛院）が位置し、長盛院本堂の建替工事に伴う試掘調査により、時期は不明ながら基壇状の遺構が発見されている。さらに南側には徳永・御崎遺跡が広がり、集合住宅や個人住宅建設に伴う調査の結果から、古代の竪穴住居址や古墳時代後期の竪穴住居址、さらに下層から縄文時代後期の敷石住居址が検出されている。



第２- １図　調査地位置図



第２- ２図　坂ノ上姥神遺跡トレンチ配置図
（1/1,200）

本試掘調査は、私立小学校建設工事に伴うものである。調査は平成 20 年６月２日に調査に着手し、当時耕作中の果樹および畑かんを回避できる場所に任意寸法のトレンチを６箇所設定して調査を行い、同月７日に埋め戻しを行い調査を完了した。試掘調査終了後､同年 10 月に設計の計画変更があり､工事区域北側の道路沿いへ側溝が敷設される計画となった。側溝は掘削幅が１m以下の狭小な工事のため立会調査としたが、平成 20 年 11 月 19 日の調査時に遺構を発見したため、記録保存のための緊急調査を実施した。

整理作業の段階で、６月２～７日までの調査を一次調査、11 月 19 日～ 12 月 11 日までの調査を二次調査とし、二次調査における側溝部分の調査坑を第７トレンチとした。なお、遺構番号は第１トレンチ～第６トレンチまでで通し番号とし、第７トレンチは別途遺構番号を付与している。

発見された遺構と遺物

一次調査

第１トレンチ

地表から約 40 ～ 65cm の地点から竪穴住居址を１軒、土坑６基を検出した。調査時１号竪穴住居址とした遺構は、未発掘でありさらに調査区外へ続いているため遺構の特定はできない。覆土中から出土した遺物は中世のかわらけや鍋であり、竈をもつ他の古代竪穴住居址とは時期が異なる可能性が高い。周囲の遺構分布状況から溝状遺構の可能性も想定されるが、本試掘報告では遺物の整理作業上竪穴住居

址として報告する。

第２トレンチ

地表から約 50cm の地点から竪穴住居址を１軒、土坑を多数検出した。竪穴住居址は北側に竈が造られている。住居址南側には直径 15 ～ 60cm の土坑が密集しており、その南に東西に走る１号溝状遺構を検出した。１号溝状遺構は上端約 140 ～ 165cm を測る。１号溝状遺構の覆土は黒褐色土が主体で、暗褐色土を覆土の主体とする住居址や土坑など他の遺構と明瞭な違いがある。サブトレンチで確認したところ、確認面からの深さは約 18cm である。

第３トレンチ

地表から約 45cm の地点から東西に走る溝状遺構を１条、土坑３基を検出した。溝状遺構は第２トレンチで検出した１号溝状遺構と位置、方向、覆土がほぼ同一であることから同一遺構と考えられる。

第４トレンチ

地表から約 40cm の地点から竪穴住居址を２軒、溝状遺構２条、土坑を４基以上検出した。１軒の竪穴住居址は隅丸方形の形状を呈する。もう１軒は大部分が調査区外に続くため正確な形状は不明であるが、検出した遺構の形状からここでは竪穴住居址として報告する。

第５トレンチ

地表から約 40cm の地点から土坑を４基検出した。

第６トレンチ

地表から約 45cm の地点から南北に走る溝状遺構を１条、土坑１基を検出した。

二次調査

第７トレンチ

１号住居址

遺存　遺存状態はやや悪く、確認面から床面まで約 25cm である

形状　調査範囲が狭小で、遺構が調査区外へ延びるため形状は不明である。ただし、北竈である点や東西幅が約 5.3 mと古代の住居の中では長い点を考えると、長辺に竈が付くタイプである可能性がある。

床面　地山である明褐色土粘土層を床面とし、表面にはわずかな凹凸がある。顕著な硬化面は検出されなかった。

遺物　遺物量は少なく、小片のものが多い。１はほぼ完形の土師器坏で、竈内から出土した。他に土師器坏や甕、須恵器坏を検出した。

時期　１の土師器坏および２の土師器坏片から判断すると宮ノ前Ⅸ期と比定される。

竈　北壁中央に造られている。袖はほとんど残存しておらず、袖石などの構築材も検出されなかった。

２号住居址

遺存　遺存状態は良好で、確認面から床面まで約 30cm である。

形状　調査範囲が狭小で、遺構が調査区外へ延びるため形状は不明である。

床面　地山である明褐色土粘土層を床面とし、表面にはわずかな凹凸がある。顕著な硬化面は検出されなかった。

竈　東壁に造られている。天井部や袖の一部が崩れた崩落土が竈周辺に広がっており、意図的に竈が破壊された可能性が指摘できる。袖の北側では長軸約 20cm の袖石が立てられた状態で検出された。

ピット　住居のほぼ中央に作られている。不整形で長軸約 50cm、短軸約 40cm、深さ約 25cm を測る。覆土に焼土や袖構築材の明褐色土は含まれておらず、竈からの流れ込みは認められなかった。

第２- ３図　坂ノ上姥神遺跡トレンチ・遺構配置図（1/250）

遺物　遺物量は少なく、小片のものが多い。甲斐型の土師器坏や甕、須恵器の坏片を検出した。

時期　１の土師器坏や須恵器の出土から宮ノ前Ⅸ期と比定される。

３号住居址

遺存　遺存状態は良好で、確認面から床面まで約 35cm である。

形状　調査範囲が狭小で、遺構が調査区外へ延びるため形状は不明である。

床面　地山である明褐色土粘土層を床面とし、表面にはわずかな凹凸がある。顕著な硬化面は検出されなかった。

竈　検出されなかった。

ピット　住居のほぼ中央に２基検出した。ピット１は長軸約 30cm、短軸約 22cm、深さ約 12cm を測る。ピット２は長軸約 32cm、短軸約 22cm 深さ約 12cm を測る。覆土は明褐色土を含む暗褐色土で、住居址の覆土と同質のものであった。

遺物　遺物量は少なく、小片のものが多い。土師器の甲斐型坏と甕片が出土した。

１号溝状遺構

調査区の西端に位置し、調査区外へ遺構が延びているため、幅は不明である。床面から遺構確認面までの深さ約 65cm を数える。南北方向へ延び、第６トレンチで確認した溝とほぼ同一方向である。遺物は覆土中から甲斐型の土師器坏や甕、須恵器の坏や坏蓋、甕片そしてウシの歯を検出した。

２号溝状遺構

幅約 140cm、床面から遺構確認面までの深さ約 26cm を数える。南北方向へ延びており、同じ南北に延びる３号溝とは若干方向がずれている。断面は底が広い逆台形を呈し、底面の中央に幅約 25cm、深さ 1 cm の浅い溝が掘られている。遺物は覆土中から土師器の甲斐型坏や甕片が少量出土した。

３号溝状遺構

幅約 100cm、床面から遺構確認面までの深さ 60cm を数える。断面は底が狭い逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。現在の区画方向とほぼ同じ方向へ南北に走っている。覆土中から土師器の甲斐型坏や甕そしてウシの歯が出土した。

４号溝状遺構

調査区の東端に位置し、調査区外へ遺構が延びているため、幅や深さは不明である。他の遺構である可能性もあるが、ここでは溝状遺構として報告する。覆土中に約 18cm 以下の石や石器がまとまって出土した。遺物は覆土中から少量の須恵器甕片や中世の鍋片、石器が出土した。

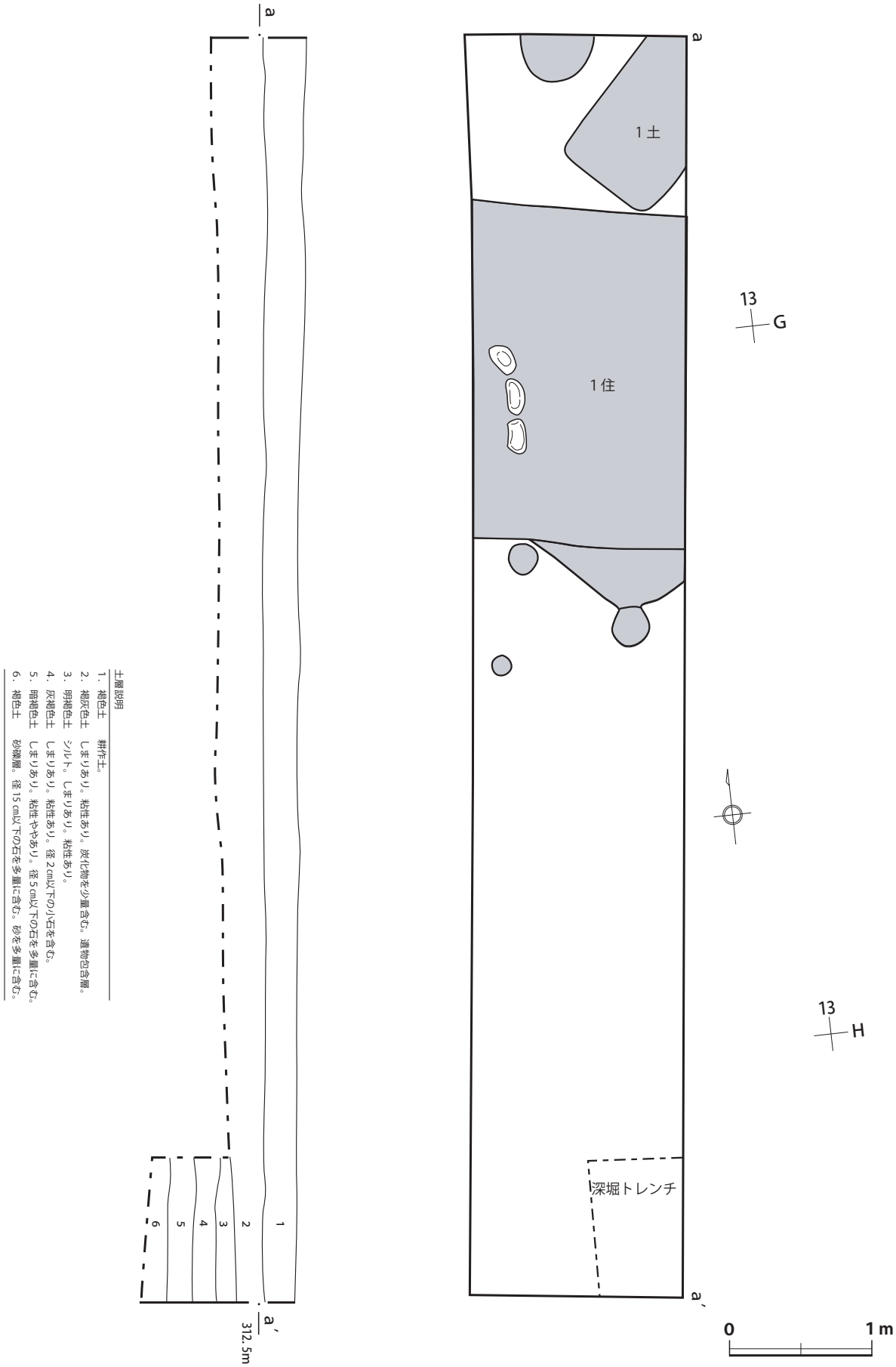
３．土坑

土坑は１号住居址より東側の調査区で集中して検出した。土坑については第 2-1 表を参照されたい。

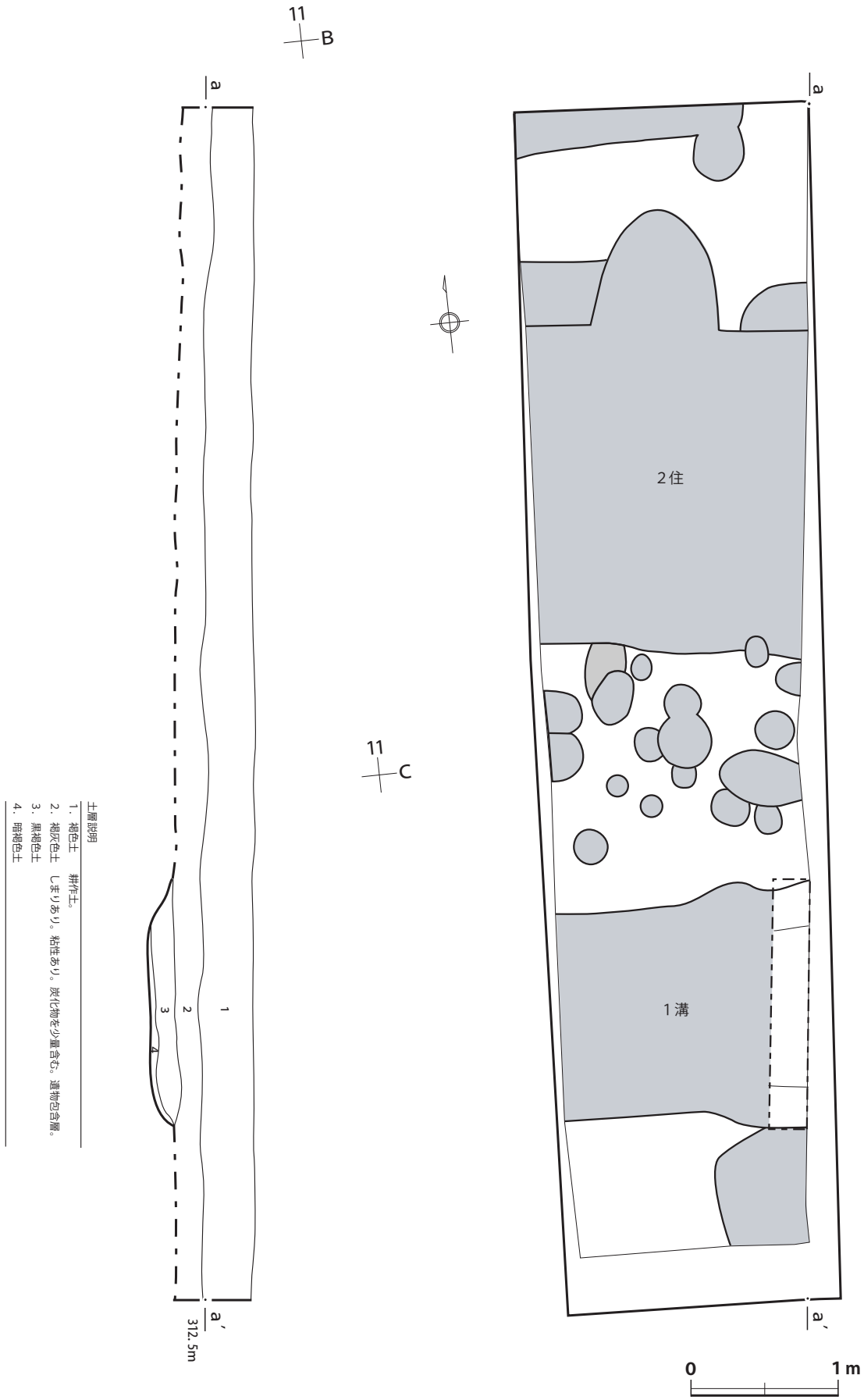
総括

本試掘調査の結果、第１～７すべてのトレンチから竪穴住居址を始めとする遺構が発見された。遺構は出土遺物からおおむね平安時代宮之前Ⅸ期に比定される。平成 15、17 年度の調査結果と合わせると御勅使川扇状地扇端部に早い段階から古代の集落が営まれ、中世まで継続して人々が居住したことが明らかとなった。

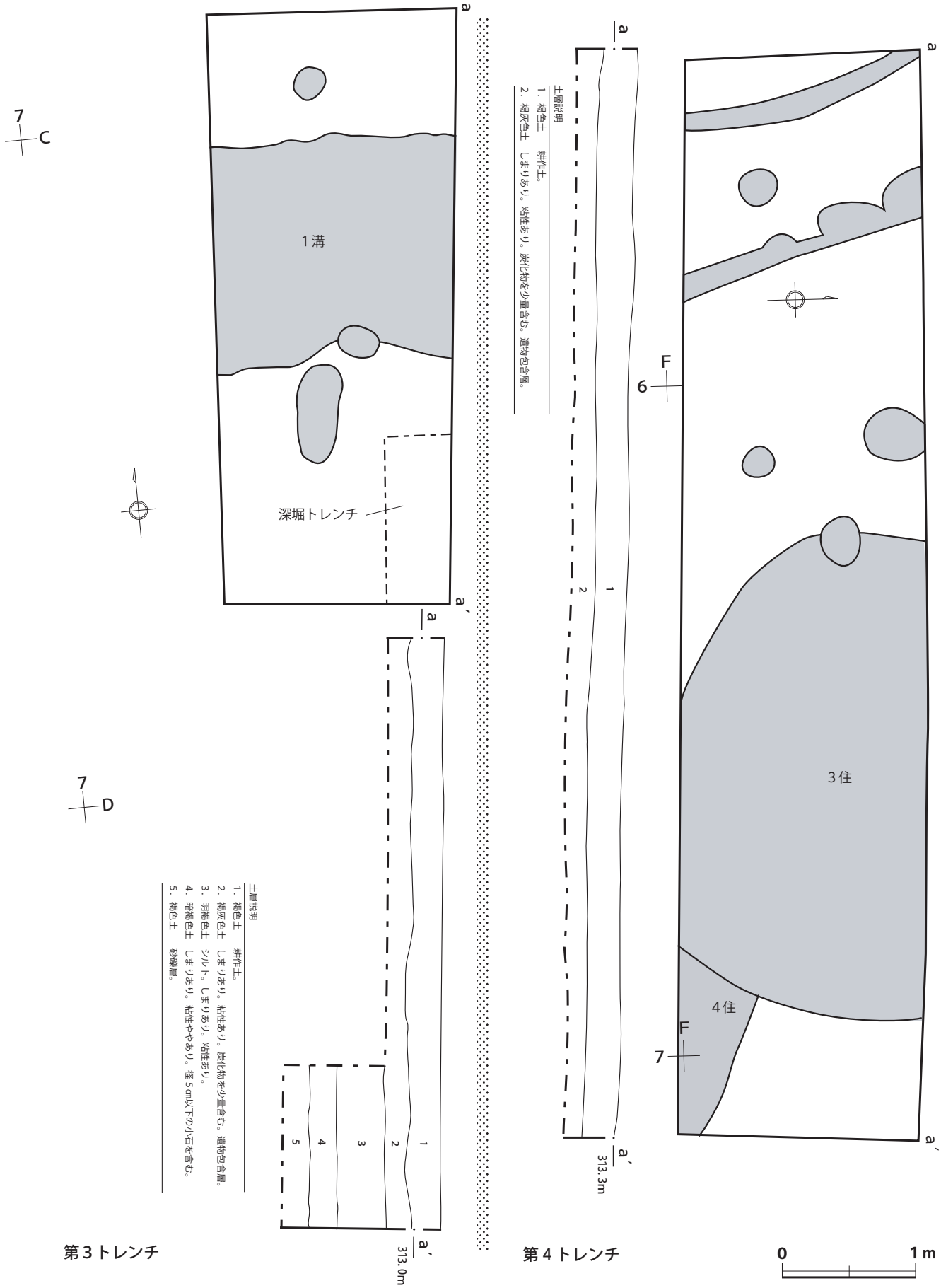
保護協議の結果、造成工事および校舎建設も含めて山梨県が規定する保護層を確保し遺跡を盛土保存することとした。工事区域西側の道路拡幅部分については平成 21 年度本調査を実施することで工事主体者と合意した。



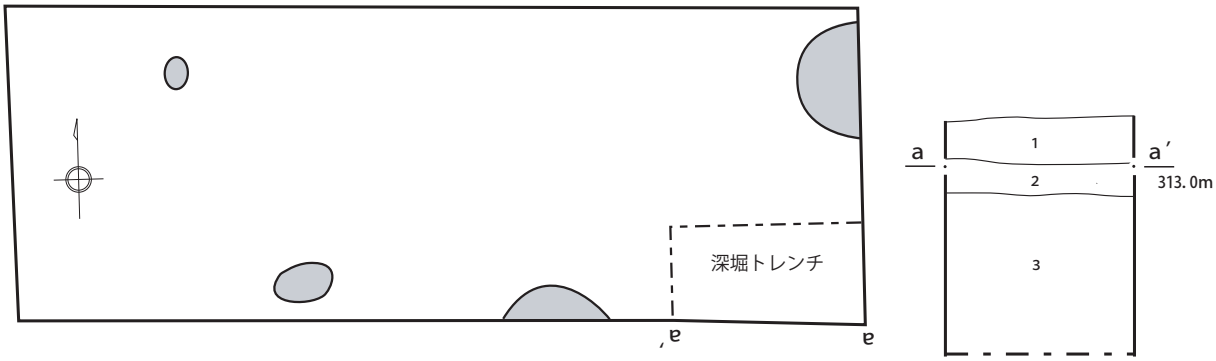
第2-4図　第1トレンチ平・断面図（1/40）



第2-5図　第2トレンチ平・断面図（1/40）



第2-6図　第3・4トレンチ平・断面図（1/40）



土層説明

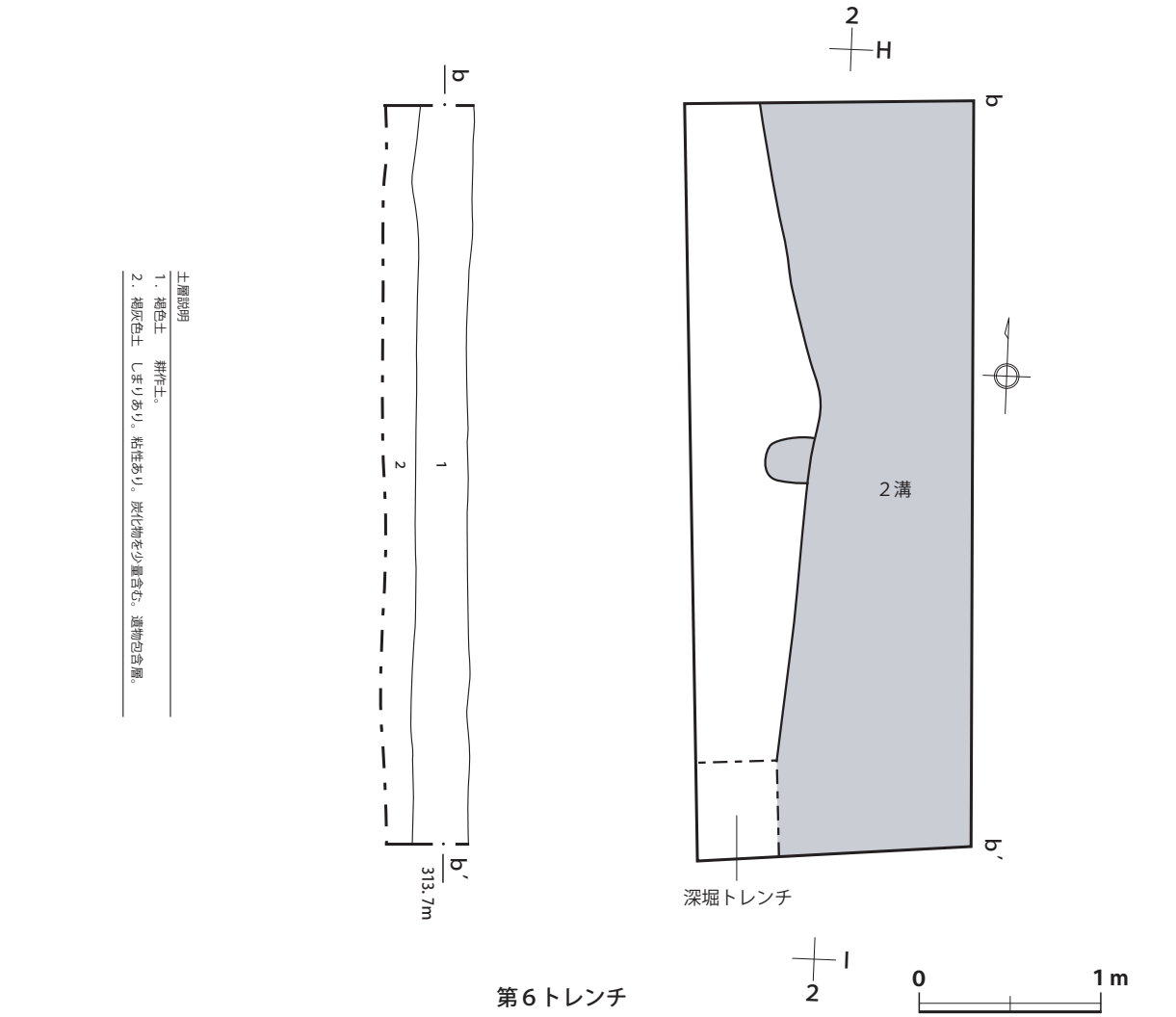
1．褐色土　耕作土。
2．褐灰色土　しまりあり。粘性あり。炭化物を少量含む。遺物包含層。
3．明褐色土　シルト。しまりあり。粘性あり。

K
7

K
8

第５トレンチ

0　1m



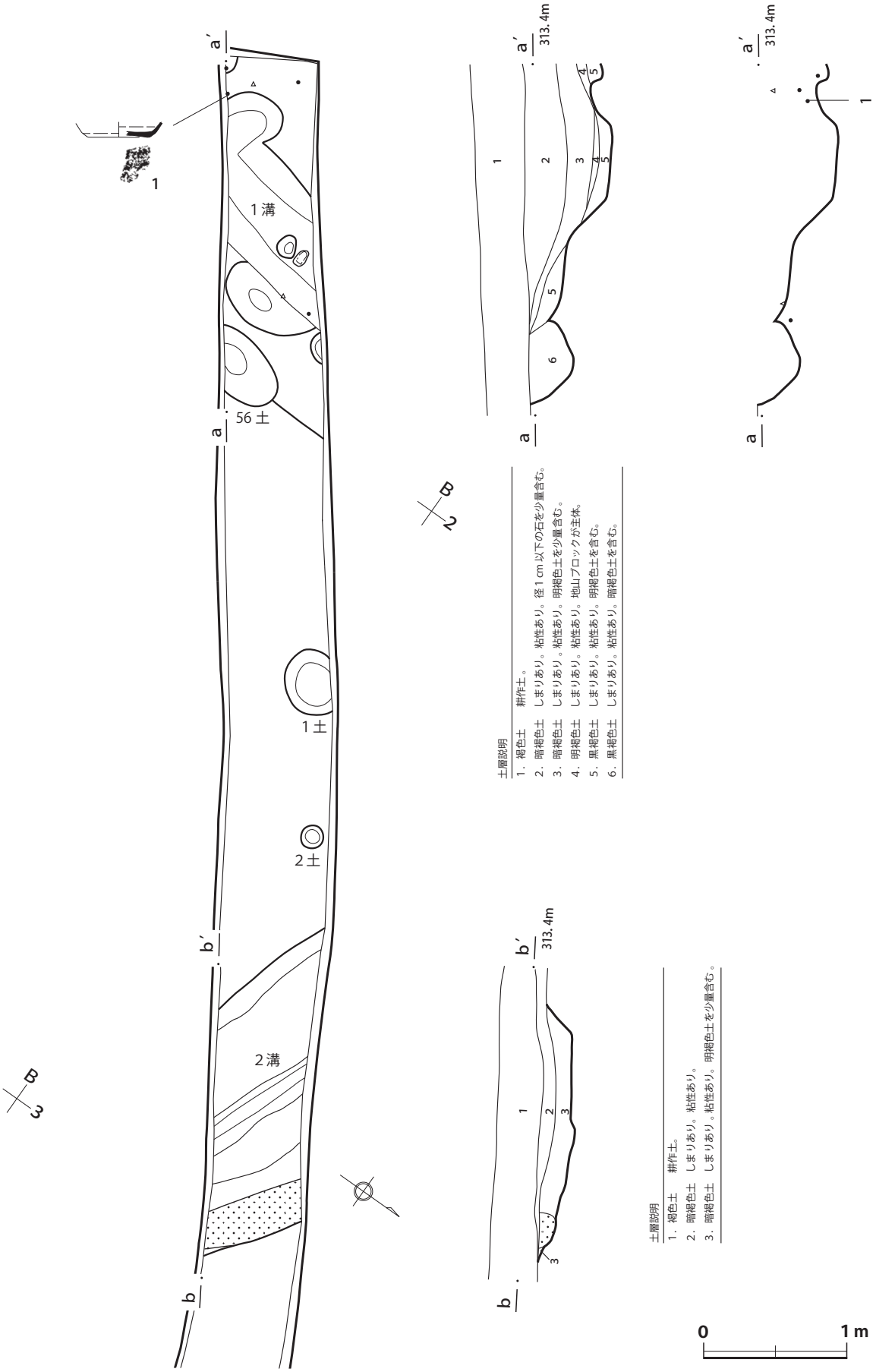
土層説明

1．褐色土　耕作土。
2．褐灰色土　しまりあり。粘性あり。炭化物を少量含む。遺物包含層。

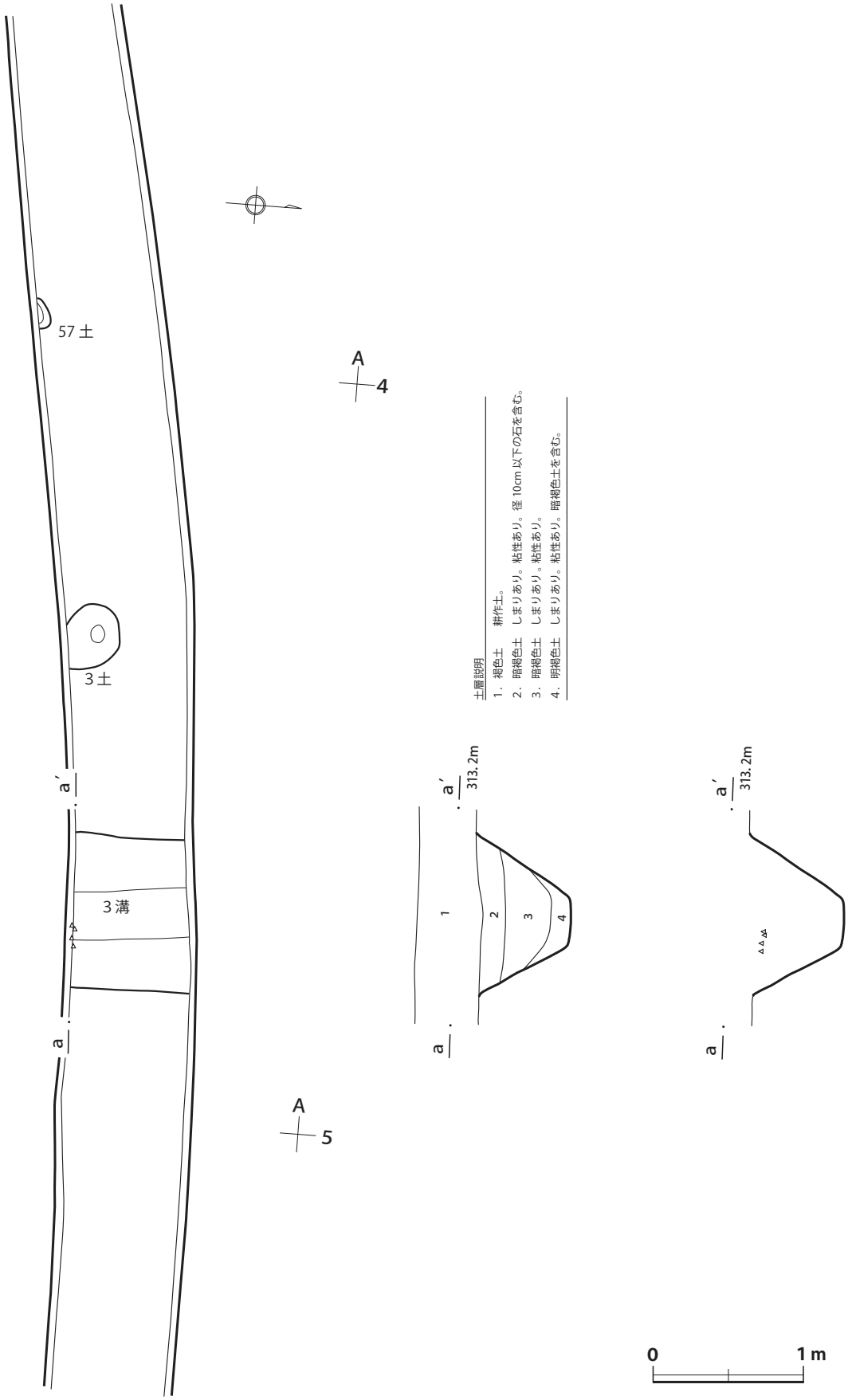
第６トレンチ

0　1m

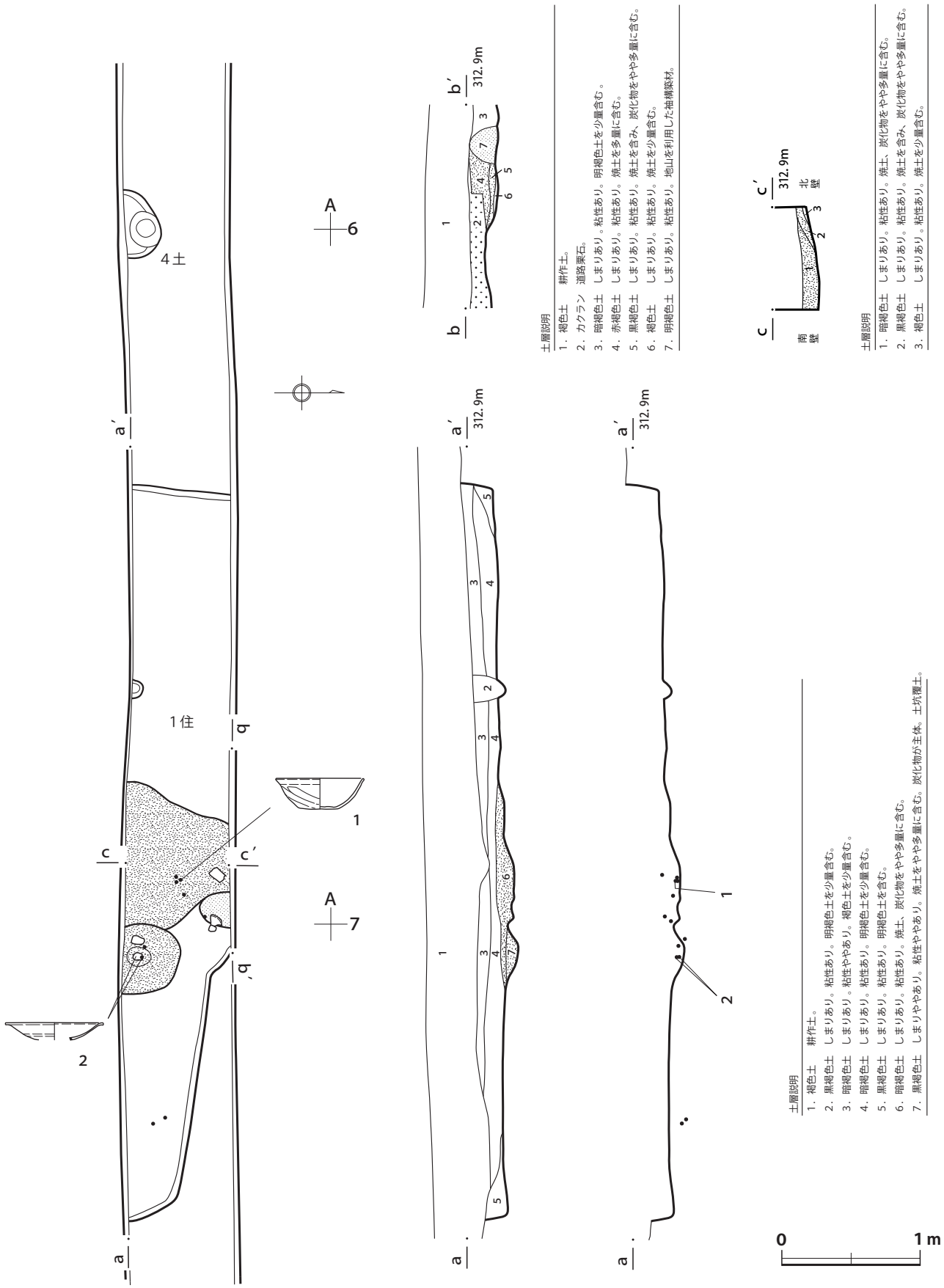
第２- ７図　第５・６トレンチ平・断面図（1/40）



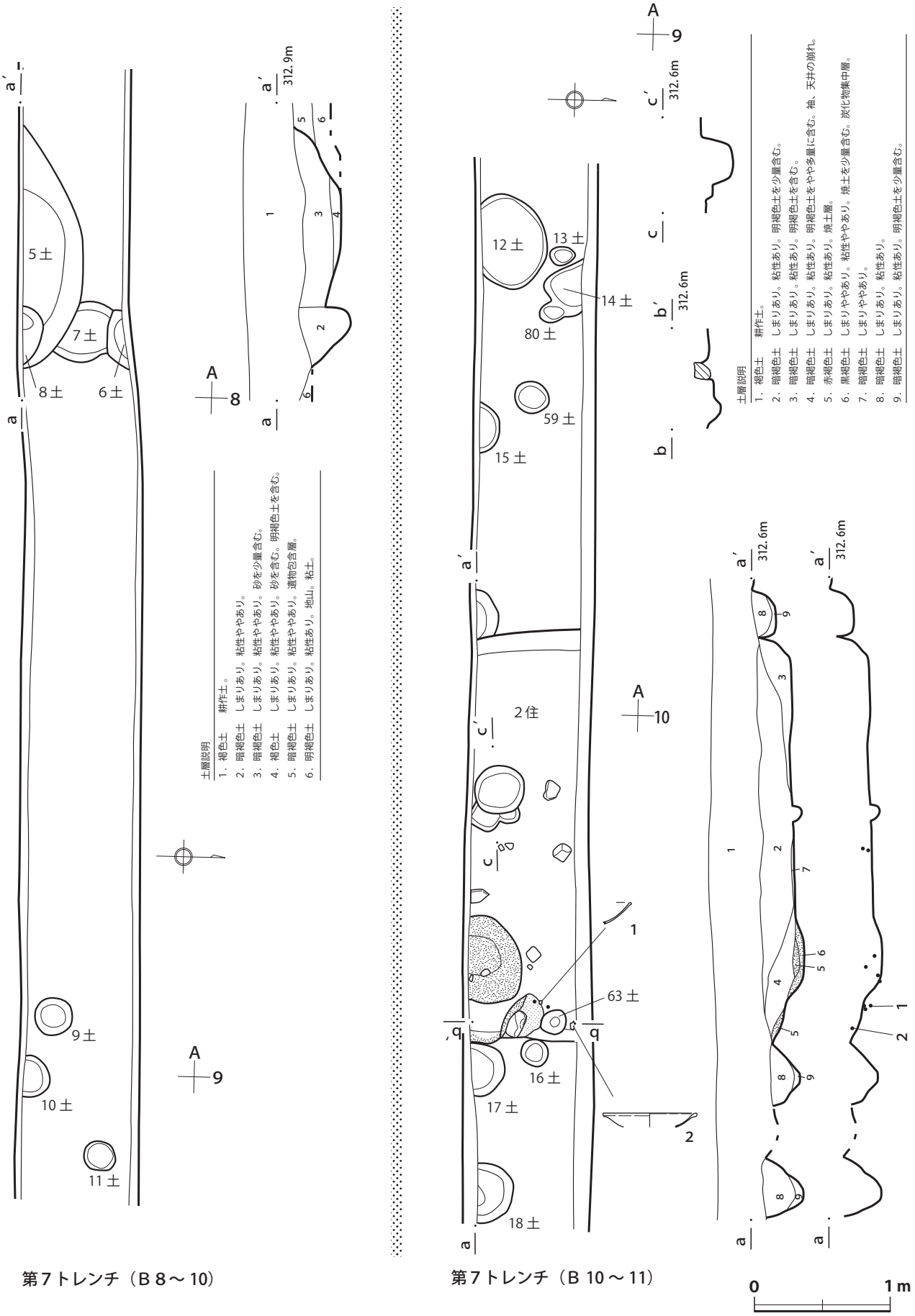
第2-8図　第7トレンチ（B3～4、C2～3）平・断面・エレベーション図（1/40）



第2-9図　第7トレンチ（B 4～6）平・断面・エレベーション図（1/40）



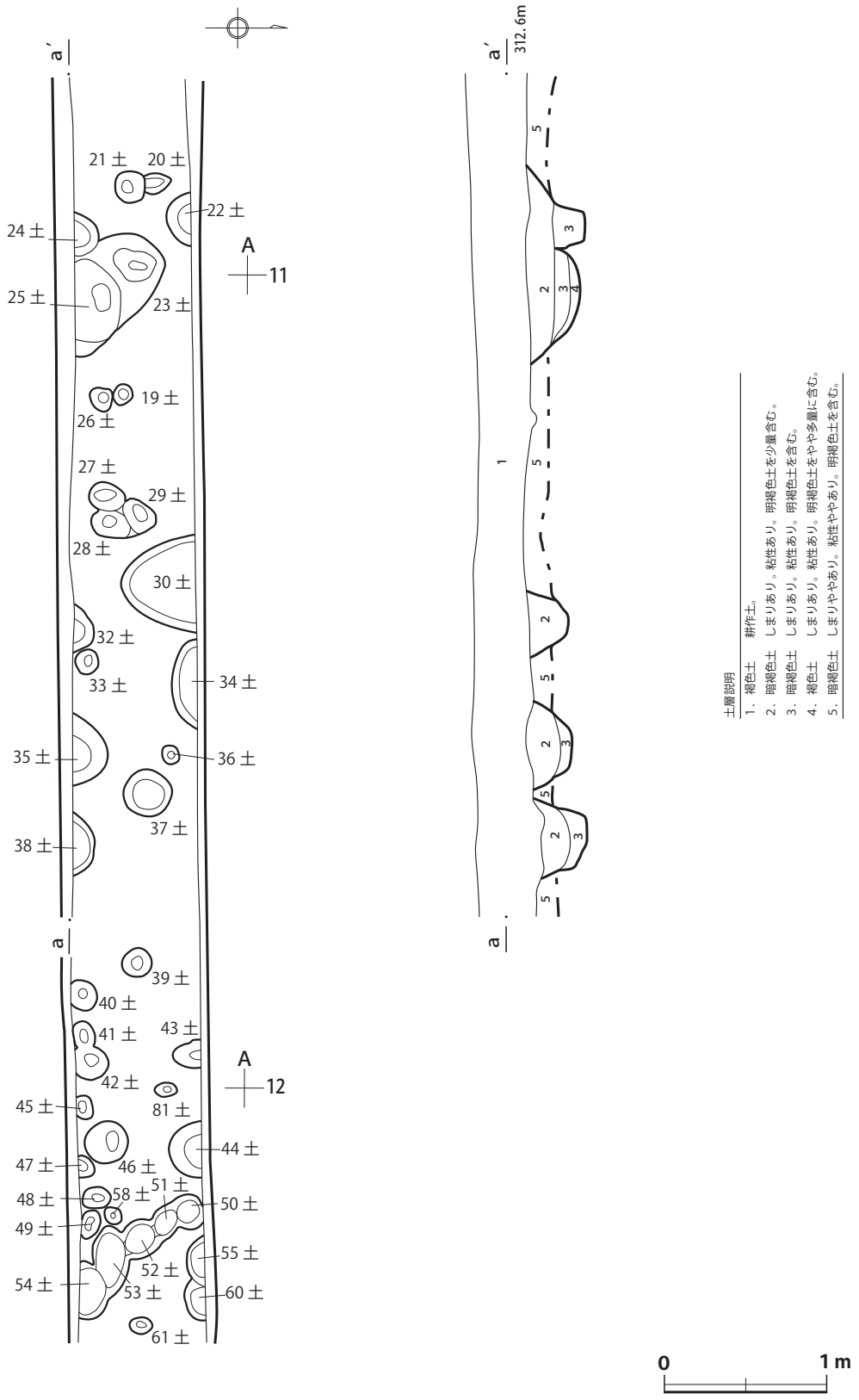
第2-10図　第7トレンチ（B6～8）平・断面・エレベーション図（1/40）



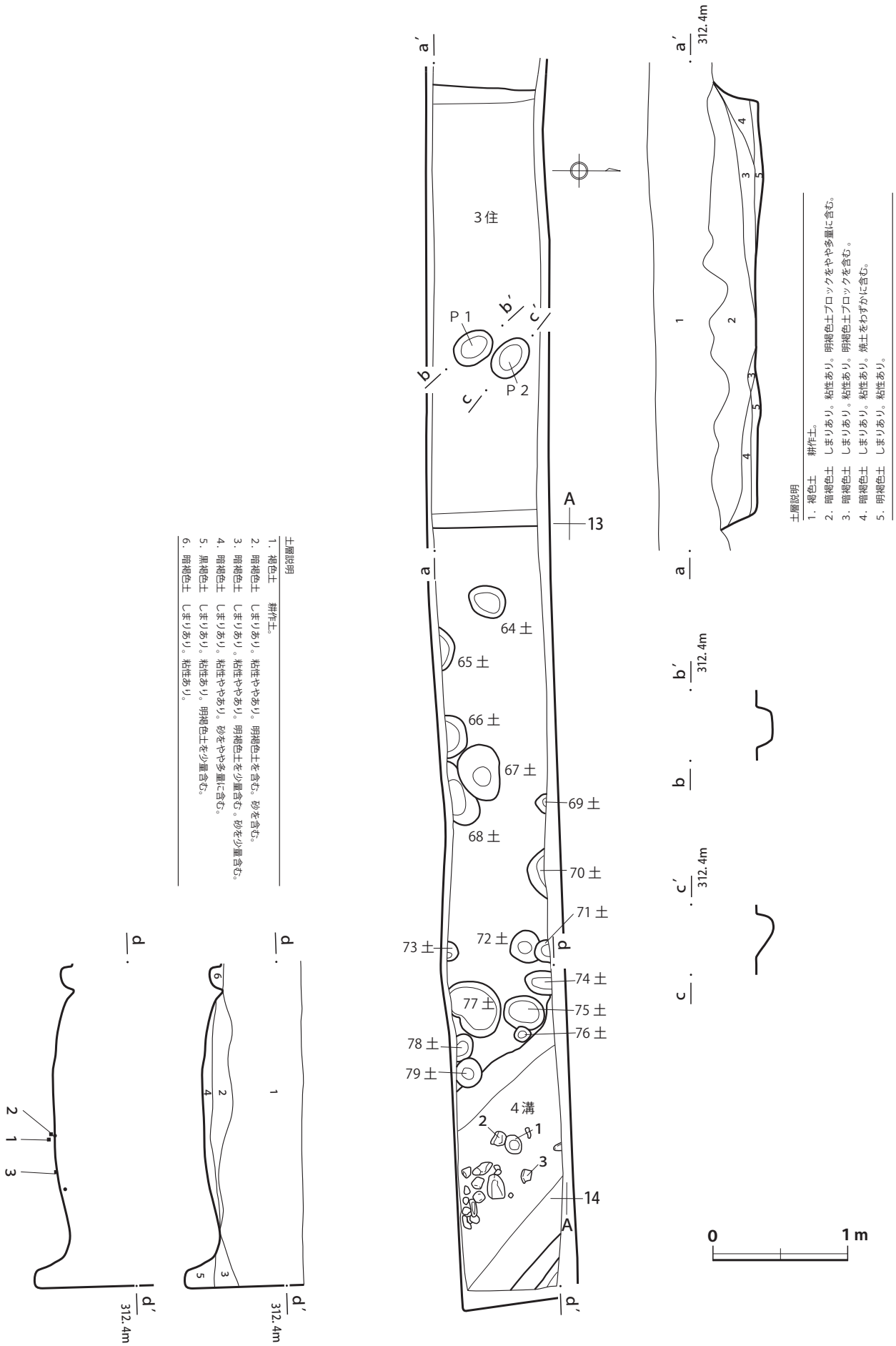
第７トレンチ（Ｂ８～10）

第７トレンチ（Ｂ 10～11）

第２-11 図　第７トレンチ（Ｂ８～10）・（Ｂ 10～11）平・断面・エレベーション図（1/40）



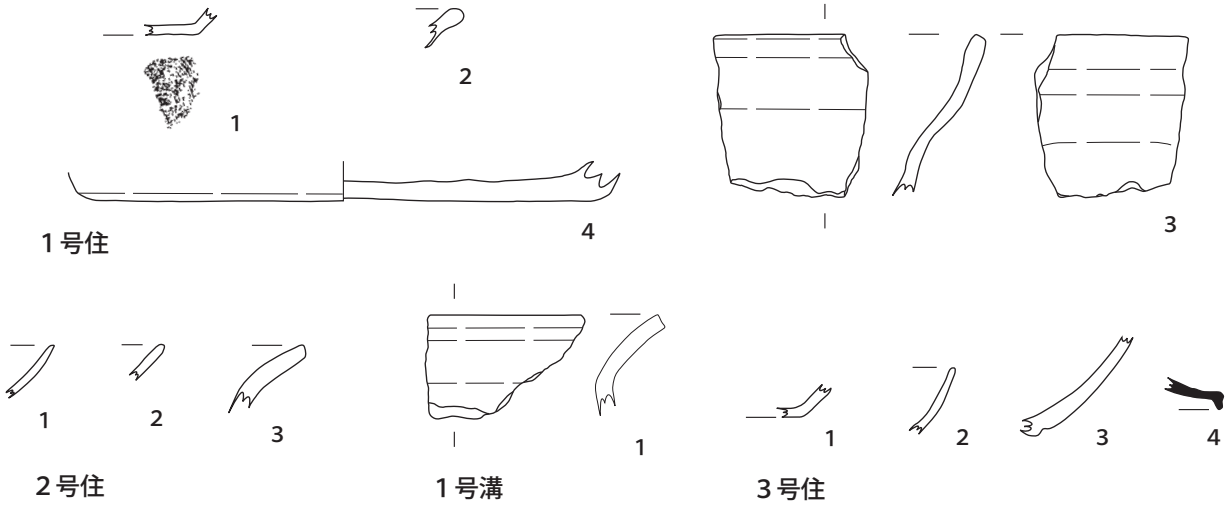
第２-12 図　第７トレンチ（B 11 ～ 13）平・断面図（1/40）



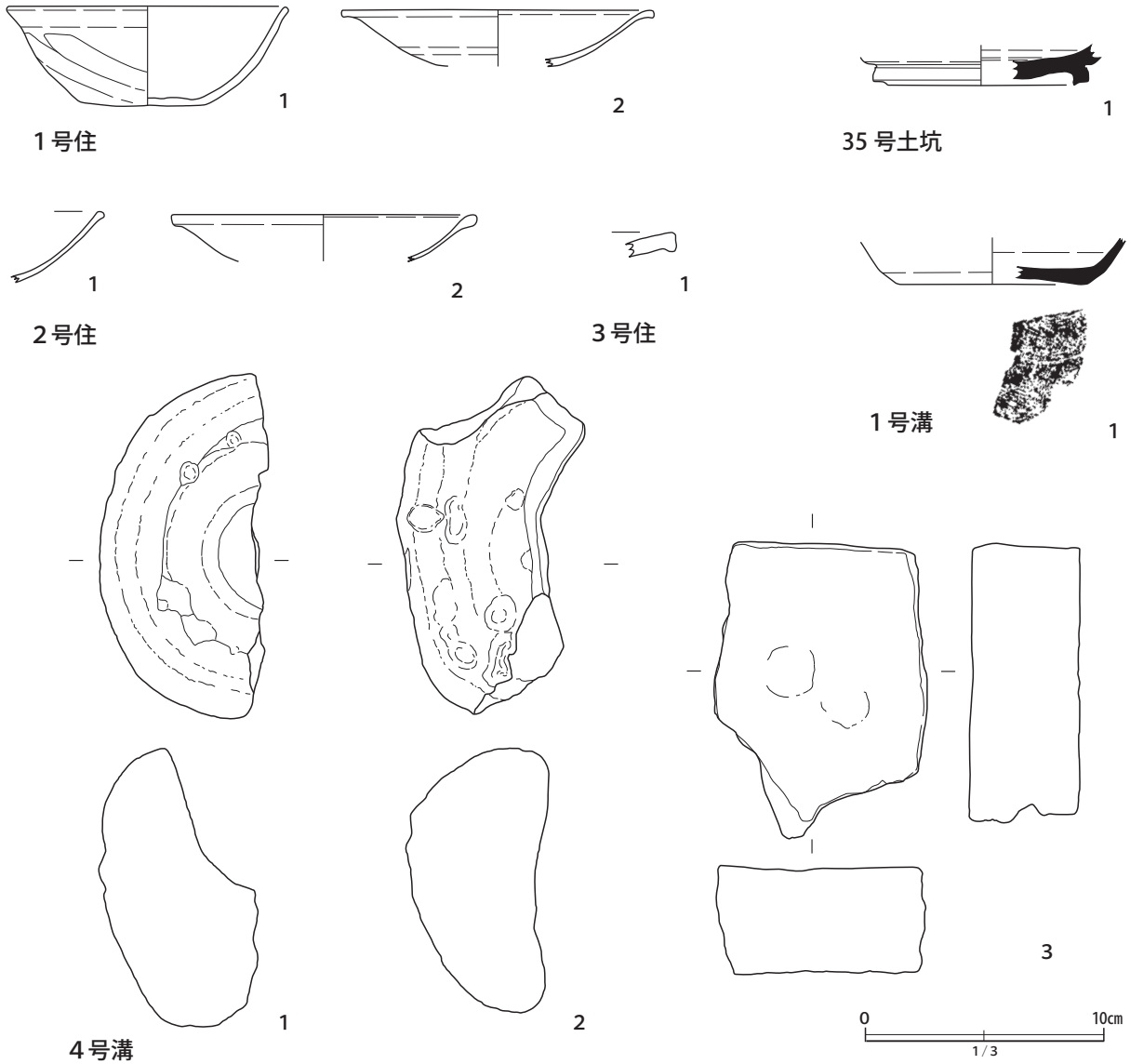
第2-13図　第7トレンチ（A 14～15、B 13～15）平・断面・エレベーション図（1/40）

第２- １表　坂ノ上姥神遺跡土坑計測表

土坑番号	グリット	形	径（cm）	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
1	B-3・C-3	楕円		45	―	29.8	
2	B-3	円形	16			6.6	
3	B-5	楕円		44	―	31	
4	B-6・B-7	楕円		50	―	23.5	
5	B-8	―		―	―	21	
6	B-8	―		―	―	10.6	
7	B-8	楕円		―	45	10.6	
8	B-8	―		―	―	27.8	
9	B-9	円形	27			42.5	
10	B-9・B-10	―		31	―	9.6	
11	B-10	円形	23			19	
12	B-10	楕円		73	―	6.2	
13	B-10	楕円		18	14	7.4	
14	B-10	―		―	40	6.7	
15	B-10	―		―	―	8.2	
16	B-11	円形	18			10.5	
17	B-11	―		―	(44)	21	
18	B-11	―		―	45	16.7	
19	B-12	円形	13			4.7	
20	B-11	楕円		―	14	3.7	
21	B-11	円形	20			20.6	
22	B-11	―		34	―	16.4	
23	B-11・B-12	―		―	47	26.5	
24	B-11	―		―	―	24	
25	B-11・B-12	―		―	―	21.5	
26	B-12	楕円		16	13	4.5	
27	B-12	楕円		21	16	7.4	
28	B-12	楕円		25	19	15.2	
29	B-12	楕円		24	15	8.1	
30	B-12	―		―	―	9.7	
31							欠番
32	B-12	―		―	―	14.4	
33	B-12	円形	17			27.9	
34	B-12	―		―	―	20.2	
35	B-12	―		―	―	13.5	
36	B-12	円形	11			9.4	
37	B-12	円形	29			8	
38	B-12	―		―	―	17.2	
39	B-12	円形	17			10.6	
40	B-12	円形	19			10.1	
41	B-12	円形	17			7.9	
42	B-12	円形	21			13	
43	B-12	―		―	―	6	
44	B-13	―		―	―	10	
45	B-13	楕円		15	12	8	
46	B-13	円形	26			13.7	
47	B-13	―		―	―	8.7	
48	B-13	楕円		20	12	6.2	
49	B-13	楕円		17	12	5.8	
50	B-13	円形	21			6	
51	B-13	楕円		―	18	7	
52	B-13	楕円		―	22	8.2	
53	B-13	楕円		―	―	9.8	
54	B-13	―		―	―	9.7	
55	B-13	―		―	―	24.8	
56	C-2・C-3	―		―	37	30	
57	B-4	―		20	―	11.5	
58	B-10	円形	10			2.9	
59	B-10	円形	25			5.4	
60	B-13	―		―	―	6	
61	B-13	楕円		15	10	4.2	
62							欠番
63	B-11	円形	17			19	
64	B-14	楕円		29	22	5	
65	B-14	―		―	―	6	
66	B-14	―		―	―	12	
67	B-14	楕円		44	31	12	
68	B-14	―		―	―	12.5	
69	B-14	―		―	―	6	
70	B-14	―		―	―	4	
71	B-14	―		―	―	15	
72	B-14	円形	24			5.5	
73	B-14	―		―	―	3	
74	B-14	―		―	17	8	
75	B-14	楕円		30	24	10	
76	B-14	円形	12			9	
77	B-14	不整形		47	35	8.5	
78	B-14	―		―	―	7	
79	B-14	円形	20			11	
80	B-10	―		―	―	2.5	
81	B-12・B-13	楕円		14	9	3.4	



第２-14 図　１次調査出土遺物（1/3）



第２-15 図　２次調査出土遺物（1/3）

第２- ２表　１次調査土器観察表

トレンチ 遺構名	番　号	種　別	器　種	法量（cm）			残存率	製作技法		胎土	含有物	色調 外 / 内	焼成	注記番号	備考
				口径	底径	器高		内側	外面						
１Ｔ １住	1	土　器	かわらけ	―	―	―	底部破片	ロクロナデ	ロクロナデ 回転糸切り	密	白色粒子	黒褐 / 浅黄橙	良	SU2.1T.1 住	内外面にすす付着
１Ｔ １住	2	土　器	かわらけ	―	―	―	口縁破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色・赤色粒子、金雲母	浅黄橙	良	SU2.1T.1 住	
１Ｔ １住	3	土　器	鍋	―	―	―	口縁破片	ロクロナデ	ロクロナデ	やや密	白色・赤色粒子	橙	良	SU2.1T.1 住	
１Ｔ １住	4	土　器	鍋	―	20.4	―	底部 1/2	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	白色粒子	橙 / 黒褐	良	SU2.1T.1 住	
２Ｔ ２住	1	土師器	坏	―	―	―	口縁破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子	橙	良	SU2.2T.2 住	
２Ｔ ２住	2	土師器	坏	―	―	―	口縁破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色・赤色粒子	橙	良	SU2.2T.2 住	
２Ｔ ２住	3	土師器	ロクロ甕	―	―	―	口縁破片	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	白色粒子・金雲母	灰褐～黒褐	良	SU2.2T.2 住 . カ	
２Ｔ １溝	1	土師器	ロクロ甕	―	―	―	破片	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	白色粒子・金雲母	にぶい赤褐 / 暗赤褐	良	SU2.2T. １溝	
４Ｔ ３住	1	土師器	坏	―	―	―	底部破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色・赤色粒子	橙	良	SU2.4T.3 住	
４Ｔ ３住	2	土師器	坏	―	―	―	口縁破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	赤色粒子	橙	良	SU2.4T.3 住	
４Ｔ ３住	3	土師器	坏	―	―	―	破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子	にぶい黄橙	良	SU2.4T.3 住	
４Ｔ ３住	4	須恵器	坏蓋	―	―	―	破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子	灰	良	SU2.4T.3 住	

第２- ３表　２次調査土器観察表

トレンチ 遺構名	番　号	種　別	器　種	法量（cm）			残存率	製作技法		胎土	含有物	色調 外 / 内	焼成	注記番号	備考
				口径	底径	器高		内側	外面						
７Ｔ １住	1	土師器	坏	11.8	5.3	4.2	完形 口縁一部欠損	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	密	白色・赤色粒子	橙	良	SU2.7T.1 住 .2	
７Ｔ １住	2	土師器	坏	(13.4)	―	―	1/3	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色・赤色粒子	橙	普通	SU2.7T.1 住 .7、11	
７Ｔ ２住	1	土師器	坏	―	―	―	口縁破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	赤色粒子	橙	普通	SU2.7T.2 住 .8	
７Ｔ ２住	2	土師器	坏	(13)	―	―	口縁 1/3	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色・赤色粒子	赤褐	良	SU2.7T.2 住 .10	
７Ｔ ３住	1	土師器	甕	―	―	―	口縁破片	ロクロナデ ヨコハケ	ロクロナデ	やや粗	白色粒子	明赤褐	良	SU2.7T.3 住	
７Ｔ 35 土	1	須恵器	坏	―	(9.2)	―	底部 1/3	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子	灰	良	SU2.7T.35 土	
７Ｔ １溝	1	須恵器	坏	―	(8.1)	―	底部 1/3	ロクロナデ	ロクロナデ 回転糸切り	密	白色粒子	灰	良	SU2.7T.1 溝 .3	

第２- ４表　２次調査石器観察表

トレンチ	遺構名	番号	種別	法量				石材	注記番号	備考
				最大長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
7Ｔ	4 溝	1		(14.8)	―	11.8	1,148		SU2.7T.4 ミゾ .1	
7Ｔ	4 溝	2		(14.4)	―	―	971		SU2.7T.4 ミゾ .2	
7Ｔ	4 溝	3		(12.6)	―	4.65	1,030		SU2.7T.4 ミゾ .3	

第１トレンチ１号住居址検出状況（北西から）

第１トレンチ東壁断面（西から）

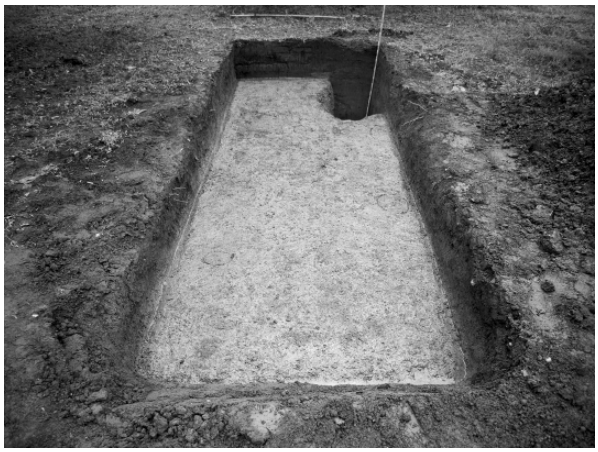
第２トレンチ全景（南東から）

第２トレンチ２号住居址検出状況（東から）

第３トレンチ１号溝検出状況（南から）

第４トレンチ全景（西から）

第４トレンチ３号住居址検出状況（南東から）



第５トレンチ全景（西から）

第６トレンチ溝状遺構検出状況（南から）

調査風景

第７トレンチ全景（西から）

第７トレンチ全景（西から）

第７トレンチ全景（東から）

第７トレンチ全景（東から）

第７トレンチ１号住居址（西から）

第７トレンチ１号住居址（東から）

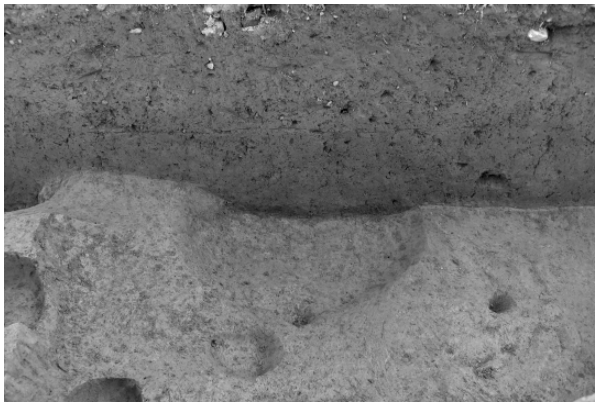
第７トレンチ１号住居址竈（南から）

第７トレンチ１号住居址遺物出土状況

第７トレンチ２号住居址竈（西から）

第７トレンチ２号住居址竈（西から）

第７トレンチ２号住居址完掘状況（北から）



第７トレンチ２号住居址竈断面（北から）

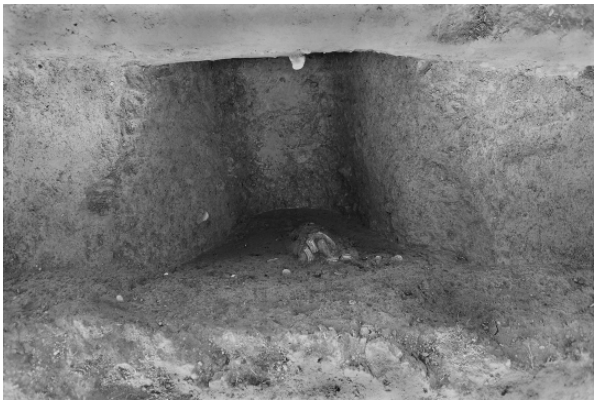
第７トレンチ２号住居址西壁（北から）

第７トレンチ３号住居址（西から）

第７トレンチ１号溝（北から）

第７トレンチ１号溝遺物出土状況

第７トレンチ２号溝（北から）



第７トレンチ３号溝

第７トレンチ３号溝遺物出土状況

第７トレンチ４号溝（南から）

第７トレンチ土坑（Ｂ９～11）（西から）

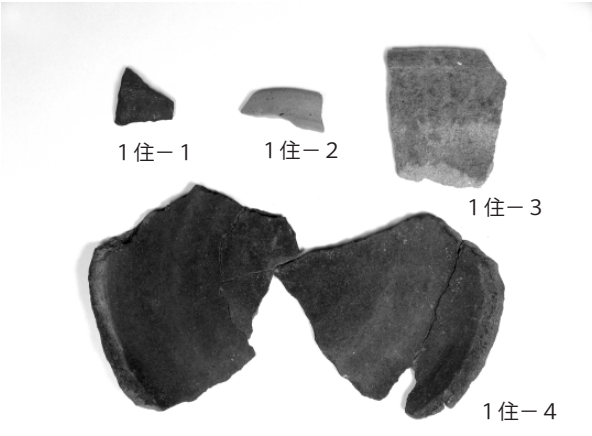
第７トレンチ土坑（Ｂ 11～14）（西から）

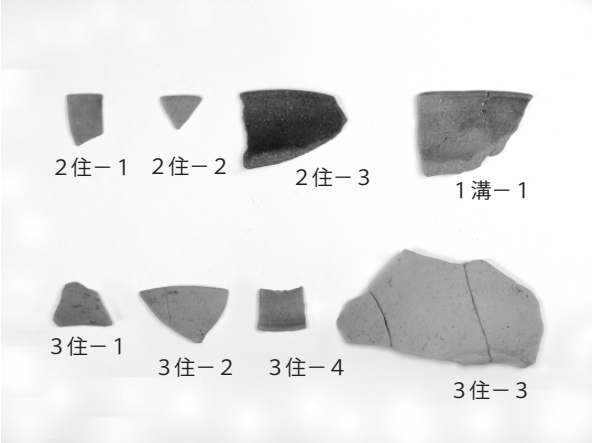
第７トレンチ土坑（Ｂ 11～13）（東から）

第７トレンチ土坑（Ｂ 14～15）（西から）

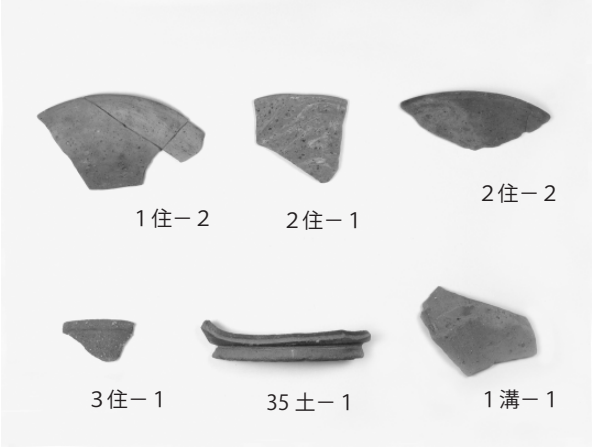
調査風景

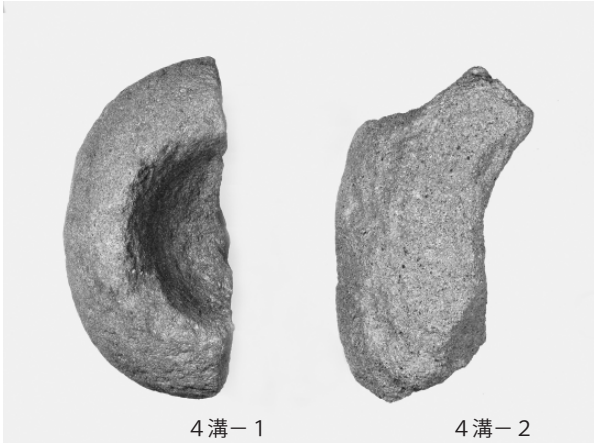
調査風景





1次調査出土遺物（1・2・4T）





2次調査出土遺物（7T）

３．溝呂木道上第５遺跡

調査地　　十日市場 1154
調査原因　社屋建設
調査期間　平成 20 年６月５、６日
対象／調査面積　1,533 ㎡／ 58.00 ㎡
調査概要

調査区は御勅使川扇状地末端の扇端部に程近く、また同時に南東方向へと流下する滝沢川によって造られた扇状地の扇頂部付近に位置する。御勅使川扇状地の扇端部には湧水点が点在し、本調査区周辺にも「三角池」や「枇杷が池」、「清明池」と呼ばれる湧水が存在する。

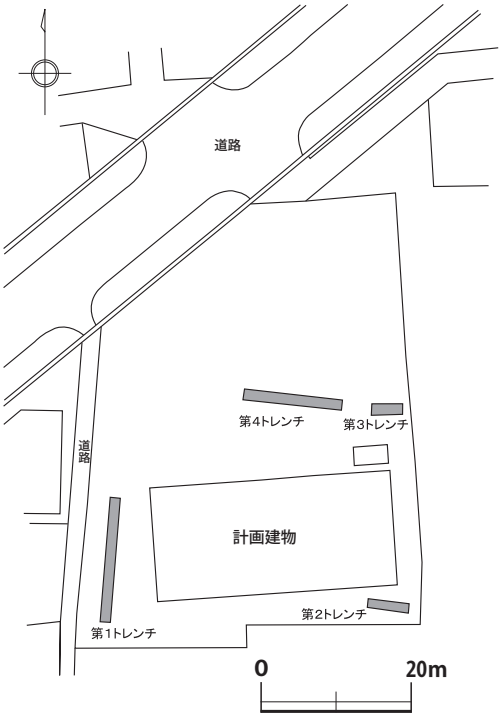
当該地周辺は溝呂木道上第５遺跡に該当し、近年では主要地方道韮崎南アルプス中央線の建設において本調査区に隣接する地点で本調査が実施されている。これまでの調査で弥生時代中期から、中世の集落跡の存在が確認されており、連綿と人々の暮らしが営まれてきたことが判明している。

調査区に隣接する主要地方道建設に伴う調査では、弥生時代後期から平安時代前半の住居址合計８軒が検出されており、本調査区においても当該期集落の広がりが予想された。

本試掘調査は社屋建設に伴うもので , 試掘調査の結果を勘案し設計を行う意向の元、平成 20 年５月 27 日付け試掘調査依頼書が提出され同年６月５日より試掘調査を実施した。

調査対象とした建設予定範囲の周辺部においては、ほぼ全体で遺物が出土するものの第 1、第 4 トレンチのみ遺構が検出され、敷地北西部ほど遺構の分布が密である傾向が確認された。

第３- １図　調査地位置図



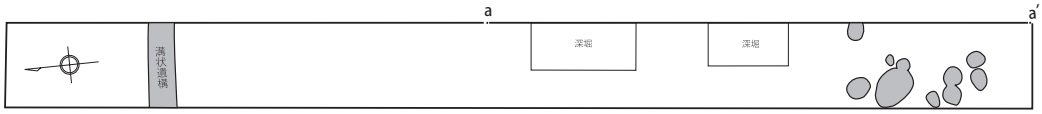
第３- ２図　溝呂木道上第５遺跡
トレンチ配置図（1/1,000）

遺構確認面の深さは現地表面より約 0.8 ～ 1.0 mの深度で、遺構の種類は竪穴住居址、溝状遺構、土坑などがある。

発見された遺物は、弥生時代後期の土器片から古墳時代初頭、平安時代の土器片まで多岐にわたる。敷地南東側では遺構が確認されなかったため、本地点周辺に展開した集落の範囲をうかがい知ることのできる点で注目される。

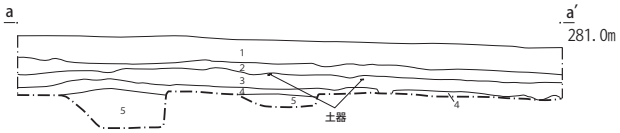
当地の計画においては、斜面地であるため盛土などの造成が計画されており、調査の結果協議を重ね、遺構が確認された敷地北西部を中心に遺構確認面上に 0.3 mの保護層を確保し、遺構の現地保存を行うことで双方同意した。着工となった同年 12 月 12 日現地立会いを行い埋蔵文化財の適正な取り扱いを確認している。

第１トレンチ

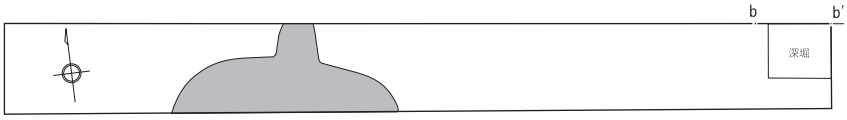


土層説明

1．暗黄褐色土層　耕作土。４cm以下の礫を含む。
2．暗黄褐色土層　しまりややあり。礫微量に含む。
3．暗褐色シルト層　粘性あり。遺物、炭化物含む。
4．暗黄褐色シルト層　粘性、しまりあり。遺構確認面。
5．暗褐色シルト層

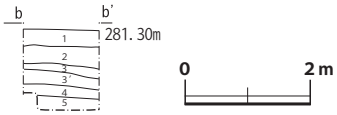


第４トレンチ

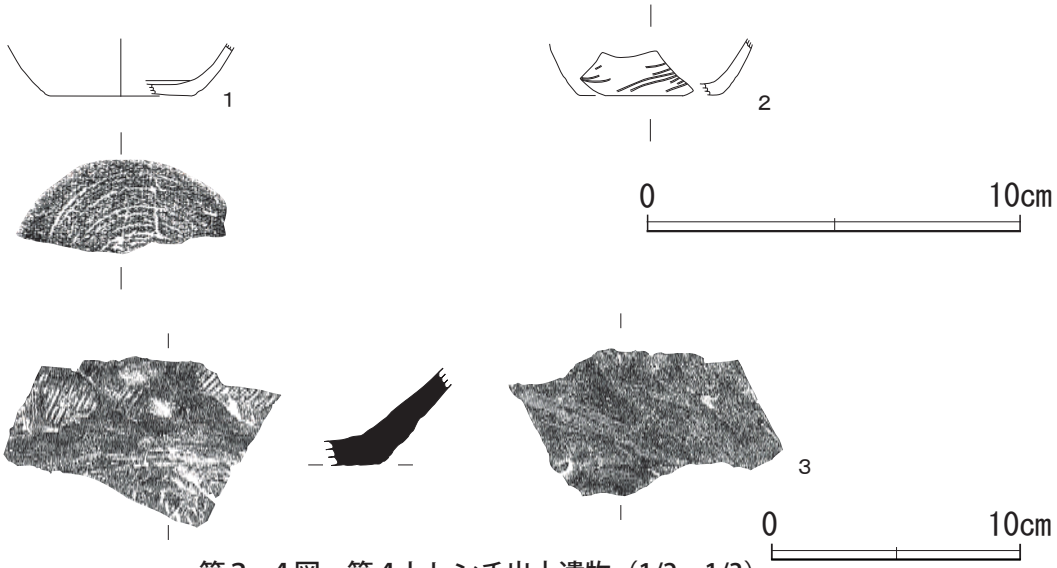


土層説明

1．暗黄褐色土層　耕作土。４cm以下の礫を含む。
2．暗黄褐色土層　しまりややあり。礫微量に含む。
3．暗褐色シルト層　粘性あり。遺物、炭化物含む。
3′．暗褐色シルト層　砂質あり。
4．黄褐色シルト層　粘性、しまりあり。遺構確認面。
5．暗灰色シルト層　３cm以下小礫多量に含む。



第３- ３図　第１・４トレンチ平・断面図（1/120）



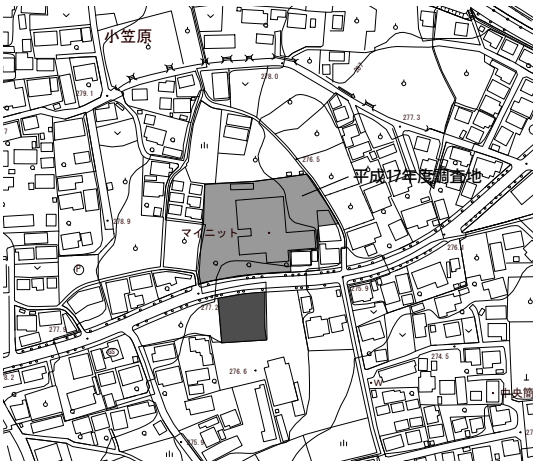
第３- ４図　第４トレンチ出土遺物（1/2、1/3）

第４トレンチ住居址検出状況

作業風景

４．東出口遺跡

調査地　　下宮地 624、625-1
調査原因　病院建設
調査期間　平成 20 年 8 月 11 ～ 13 日
対象／調査面積　920.40 ㎡／ 34.28 ㎡



第４- １図　調査地位置図

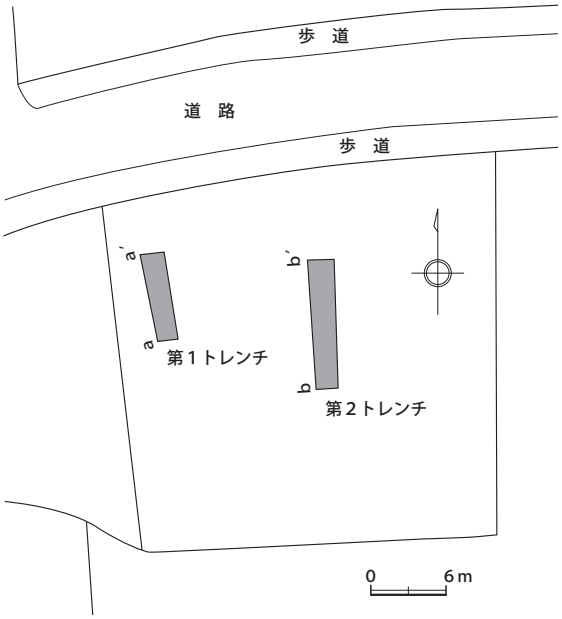
調査概要

調査区は滝沢川の右岸に位置し、御勅使川扇状地と滝沢川扇状地が重複する複合扇状地の微高地上に立地する。調査区周辺の扇状地扇端部は湧水地が点在し、弥生時代から平安時代までの遺跡が集中する地域である。道路を挟んで調査地の北側では、宅地分譲工事に伴い平成 17 ～ 18 年度に発掘調査が行われ、古墳時代前期および奈良～平安時代の竪穴建物跡（竪穴住居址）が重複した状態で 34 軒発見されている。

本試掘調査は病院建設工事に伴うものであり、２箇所トレンチを設定し遺構の確認調査を行った。

発見された遺構と遺物

第１、第２トレンチともに第３層である暗褐色土層から平安時代を中心とした遺物を検出した。第３層を除去しなければ遺構の検出が困難であるため、試掘調査では範囲を限定して包含層を取り除き第４層を遺構確認面として遺構の検出に努めた。竪穴住居址と推測される遺構を第１トレンチで現地表から約 90cm の深度で１軒、第２トレンチで現地表から 80 ～ 100cm の深度で２軒、その他土坑１基を検出した。しかし包含層を除去して確認した範囲が限定されるため、重複する遺構が存在する可能性にも留意する必要がある。



第４- ２図　東出口遺跡トレンチ配置図（1/600）

１号住居址

第１トレンチ南側で検出した。住居北壁付近には焼土が集中しており、竈と考えられる。カクランを利用して断面を観察したところ、床面から遺構確認面までは約 70 mを図る。遺物は平安時代の甕片が出土している。

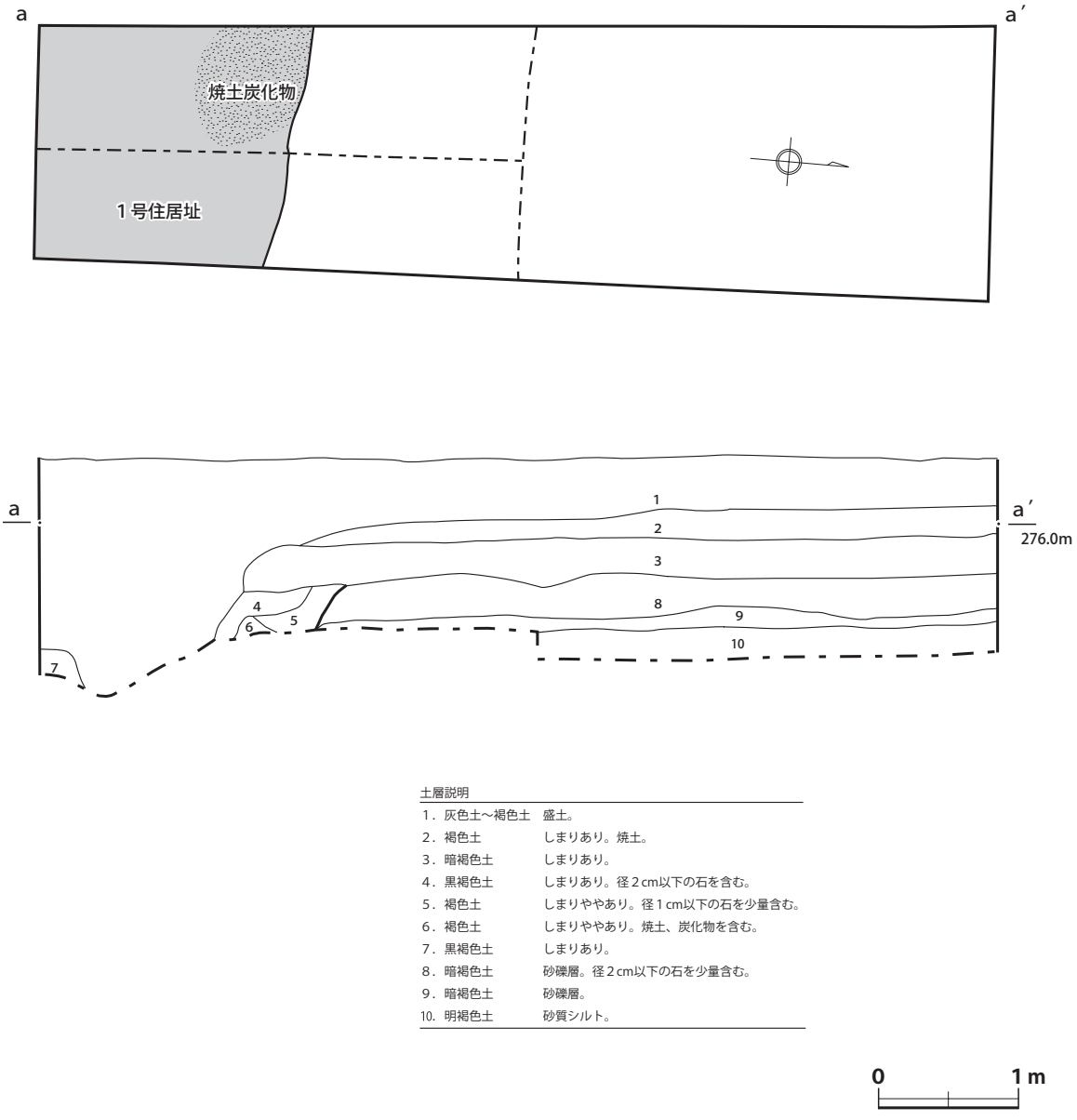
２号住居址

第２トレンチ北側で検出した。遺構上面はカクランによって削平されている。住居南壁付近から甲斐型の甕が焼土とともに出土しており、この地点が竈である可能性が高い。遺物は甕片の他、坏および羽釜片が出土している。

３号住居址

第２トレンチ南側で検出した。径 30cm 前後の石がまとまって出土している。調査した範囲では石の配列に規則性が認められず、覆土中であるため、住居廃絶時あるいは後に廃棄されたものと考えられる。遺物は甲斐型土師器の坏や須恵器坏片が出土した。

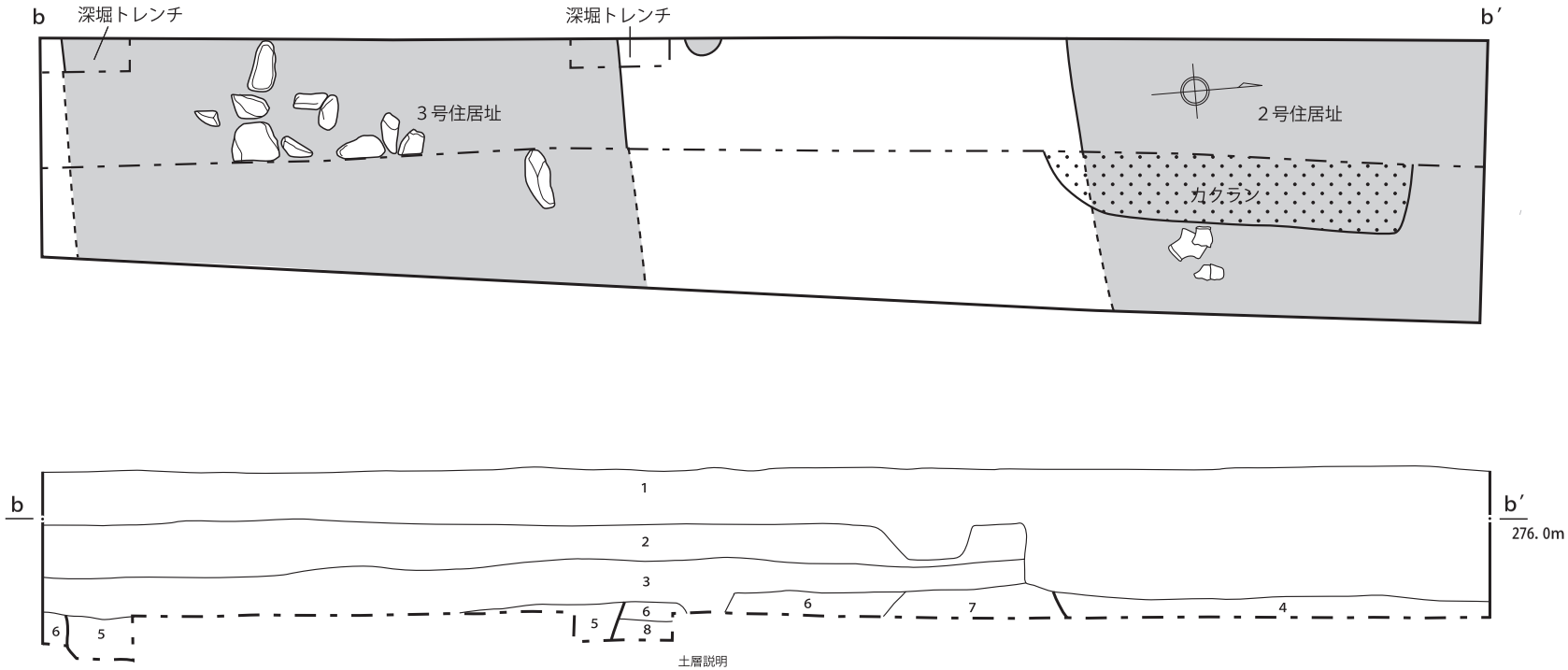
工事主体者との保護協議の結果、建物の基礎掘削と遺構との間に保護層を確保し、遺構を現状保存とすることで合意し、工事が着工された。



土層説明

1．灰色土～褐色土	盛土。
2．褐色土	しまりあり。焼土。
3．暗褐色土	しまりあり。
4．黒褐色土	しまりあり。径２cm以下の石を含む。
5．褐色土	しまりややあり。径１cm以下の石を少量含む。
6．褐色土	しまりややあり。焼土、炭化物を含む。
7．黒褐色土	しまりあり。
8．暗褐色土	砂礫層。径２cm以下の石を少量含む。
9．暗褐色土	砂礫層。
10．明褐色土	砂質シルト。

第４- ３図　第１トレンチ平・断面図（1/50）

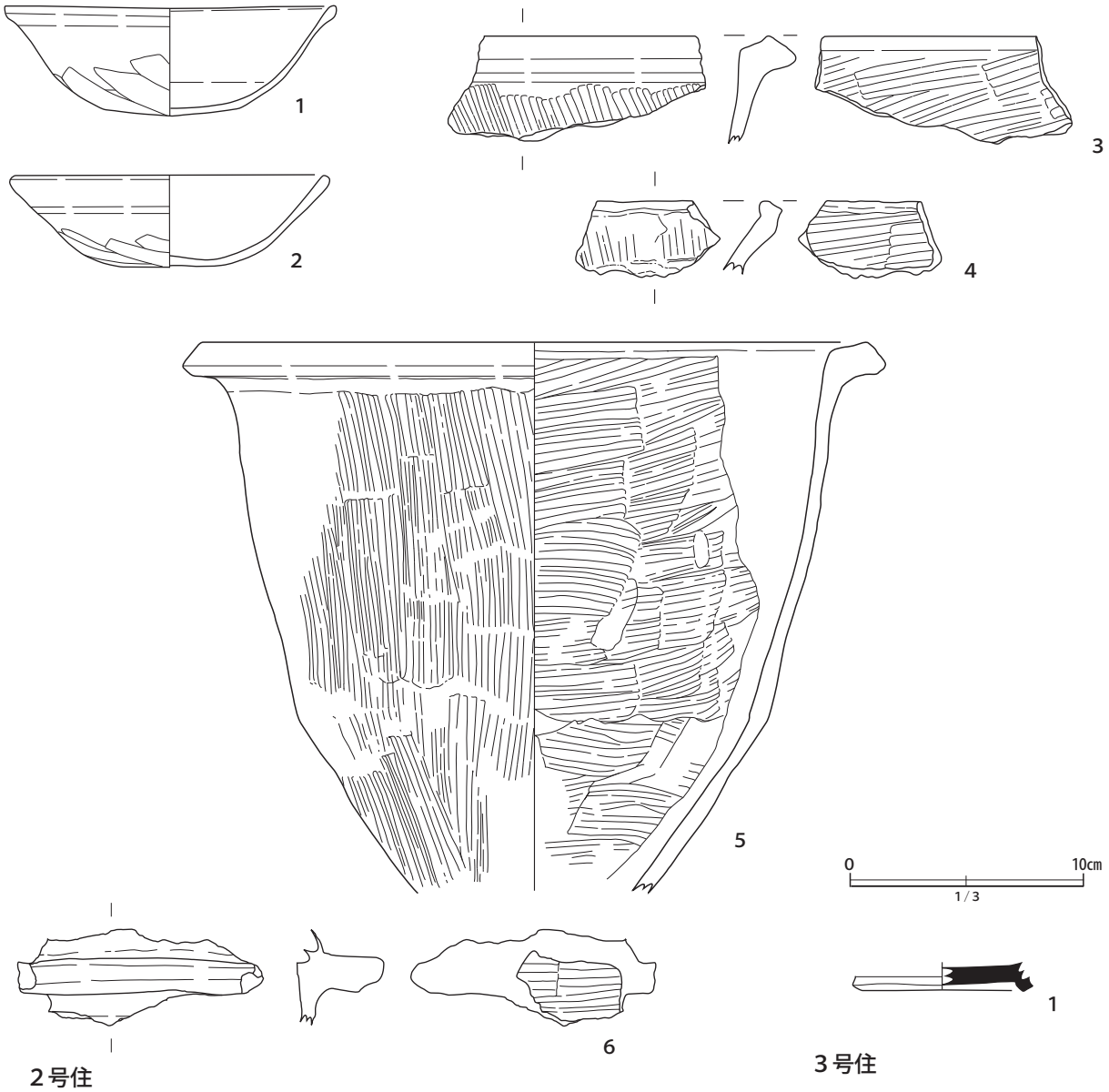


土層説明

1.	灰色土～褐色土	盛土。
2.	褐色土	しまりあり。焼土。
3.	暗褐色土	しまりあり。
4.	暗褐色土	しまりあり。径2㎝以下の石を含む。白色粒子を含む。2号住居址覆土。
5.	暗褐色土	しまりあり。径1㎝以下の石を含む。3号住居址覆土。
6.	暗褐色土	砂礫層。径2㎝以下の石を少量含む。
7.	明褐色土	砂礫層。径5㎝以下の礫主体。
8.	明褐色土	砂質シルト。

0　1m

第4-4図　第2トレンチ平・断面図（1/50）



第４- ５図　出土遺物（1/3）

第４- １表　東出口遺跡土器観察表

トレンチ	番号	種　別	器　種	法量（cm）			残存率	製作技法		胎土	含有物	色調 外 / 内	焼成	注記番号
				口径	底径	器高		内側	外面					
２Ｔ ２住	1	土師器	坏	（14.5）	5.8	4.7	1/2	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	密	赤色粒子	にぶい橙	良	HD2.2T.2 住 .1
２Ｔ ２住	2	土師器	坏	（14.0）	（4.8）	4.0	1/2	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ底部ヘラケズリ	やや密	白色・赤色粒子	黒褐	良	HD2.2T.2 住 . カ
２Ｔ ２住	3	土師器	甕	―	―	―	口縁破片	ヨコハケ	タテハケ	やや粗	白色粒子、金雲母	黒褐 / 褐灰	良	HD2.2T.2 住 .2
２Ｔ ２住	4	土師器	甕	―	―	―	口縁破片	ヨコハケ	タテハケ	やや粗	白色粒子	暗赤褐	良	HD2.2T.2 住
２Ｔ ２住	5	土師器	甕	（29.0）	―	―	口縁 1/2	ヨコハケ	タテハケ	やや粗	白色粒子、金雲母	赤褐～暗赤褐	良	HD2.2T.2 住、2 住 .2 3 住
２Ｔ ２住	6	土師器	羽釜	―	―	―	羽部分破片	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	白色粒子、金雲母	黒褐	良	HD2.2T.2 住
２Ｔ ３住	1	須恵器	高台坏	―	―	7.0	底部破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子	灰	良	HD2.2T.3 住

第１トレンチ全景（北西から）

第１トレンチ１号住居址検出状況（東から）

第２トレンチ全景（南から）

第２トレンチ全景（北から）

第２トレンチ２号住居址遺物検出状況

第２トレンチ３号住居址西壁断面（東から）

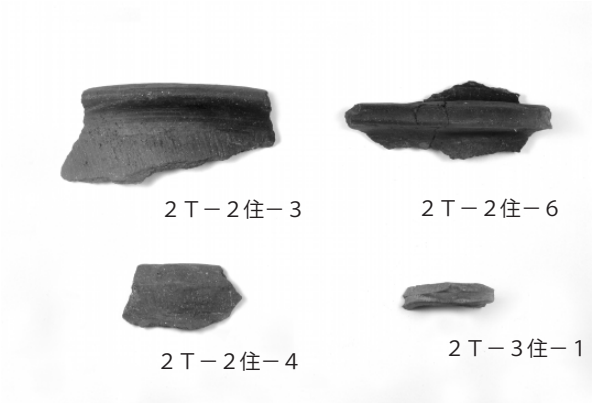
作業風景

作業風景

２Ｔ－２住－１

２Ｔ－２住－２

２Ｔ－２住－５



出土遺物

５．椿城跡

調査地　上野 345-1
調査原因　範囲確認調査
調査期間　平成 20 年 10 月９日、14 ～ 17 日、
27 日、11 月７日
対象／調査面積　13.50 ㎡／ 13.50 ㎡

第５- １図　調査位置図

調査概要

調査区は巨摩山地の麓に発達した市之瀬台地上、市之瀬川と堰野川とに挟まれた支丘に立地する。当調査区周辺は「上野城跡」に比定されており、「上野城」は古来より別名「椿城」とも呼ばれている。

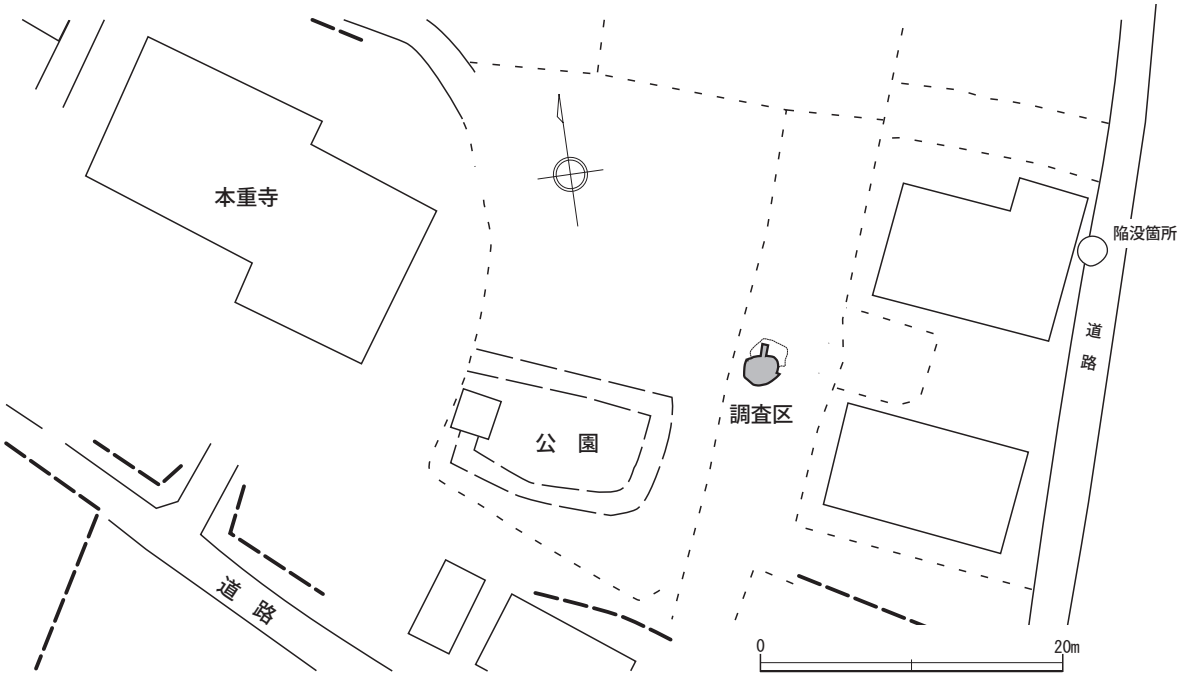
椿城跡は鎌倉期に当地域を本拠に活躍した武将小笠原長清の孫上野盛長が築いたもので、現在では僅かに土塁の痕跡、五輪塔群にその面影を見つけられる程度である。平成元年に当該地域一帯で地中レーダー調査を実施し、複数の溝や土塁、26 箇所もの地下式坑の存在が指摘されている（第５－４図）。

本重寺の庫裏には現在も地下式坑の再利用とみられる室が存在し、過去には畑で陥没があった地下式坑で確認調査を実施した例もある。周囲の畑で陥没が度々起こることから、古くより地元では椿城には地下道があると伝承されている。

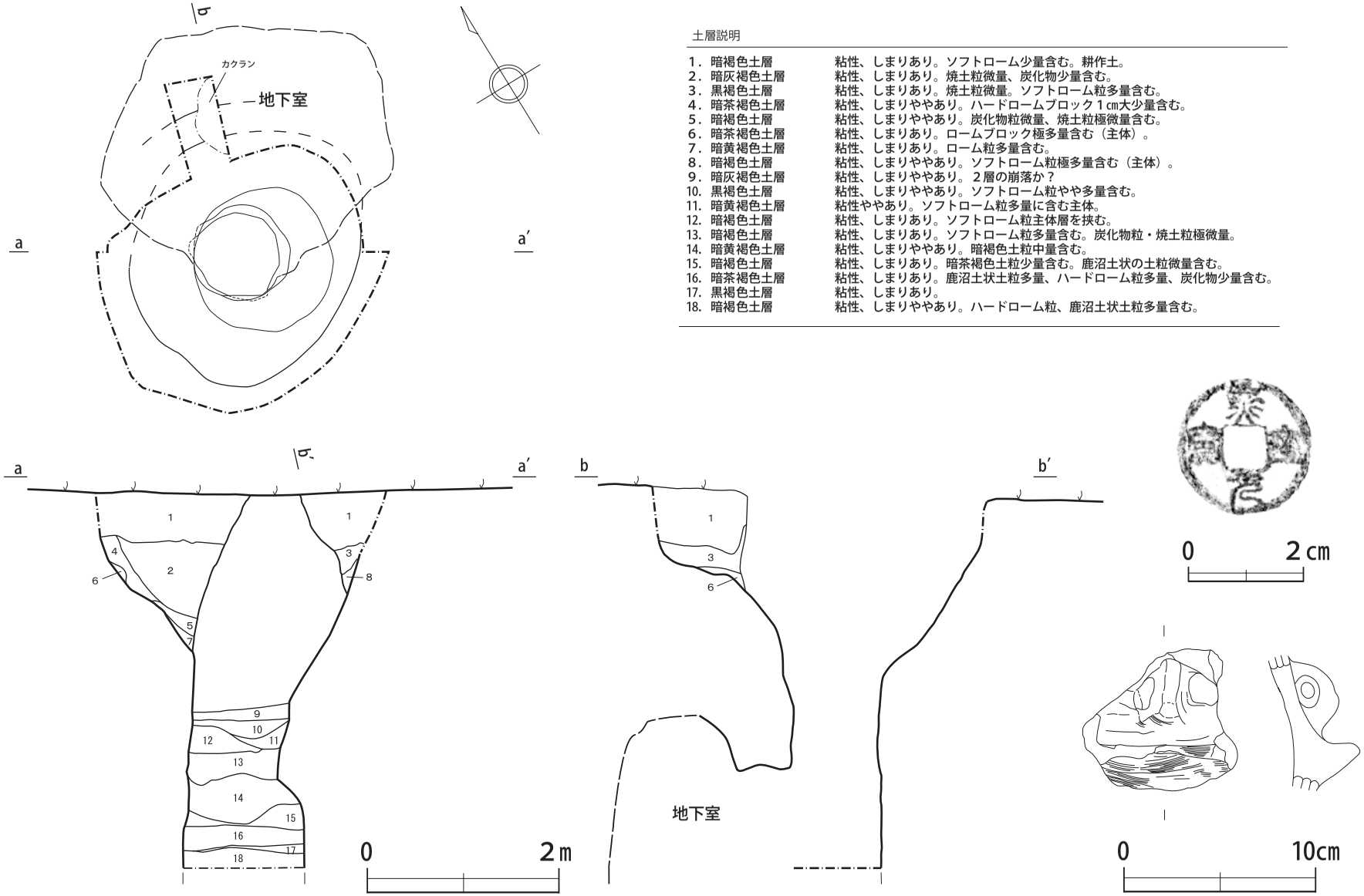
平成 20 年９月、これまで把握されていなかった箇所で陥没が起き、地中に空洞が確認できる旨土地所有者より連絡があった。土地所有者との協議により、安全の確保のために現状を維持することが難しいと判断されたため、埋め戻しなどの措置を施す前に地下式坑の規模・内容を把握すべく調査を行うこととなった。

検出された遺構と遺物

調査区はかつてはスモモ畑だった休耕地である。本来の遺構確認面となるソフトローム層へは約 0.5



第５- ２図　調査位置詳細図（1/500）



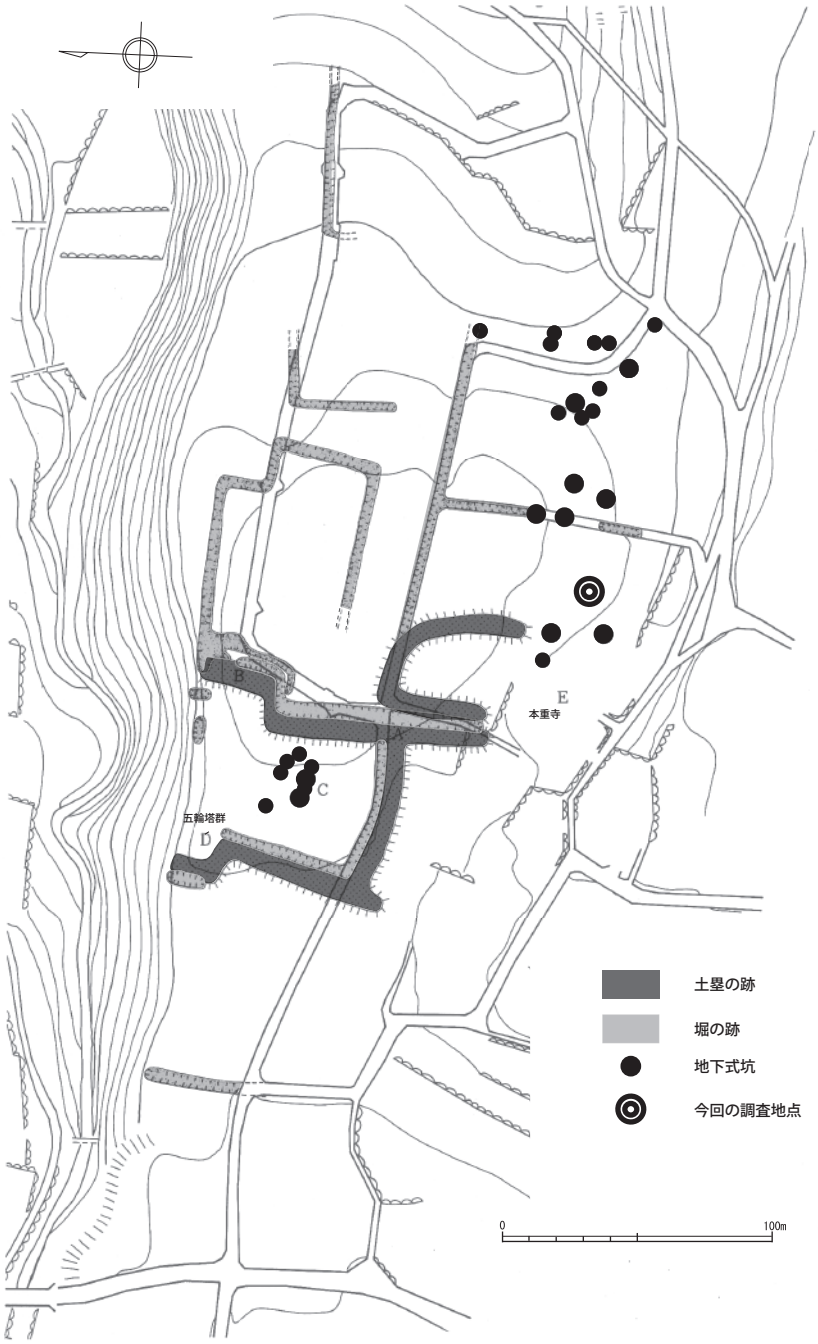
土層説明

1．暗褐色土層	粘性、しまりあり。ソフトローム少量含む。耕作土。
2．暗灰褐色土層	粘性、しまりあり。焼土粒微量、炭化物少量含む。
3．黒褐色土層	粘性、しまりあり。焼土粒微量。ソフトローム粒多量含む。
4．暗茶褐色土層	粘性、しまりややあり。ハードロームブロック１㎝大少量含む。
5．暗褐色土層	粘性、しまりややあり。炭化物粒微量、焼土粒極微量含む。
6．暗茶褐色土層	粘性、しまりあり。ロームブロック極多量含む（主体）。
7．暗黄褐色土層	粘性、しまりあり。ローム粒多量含む。
8．暗褐色土層	粘性、しまりややあり。ソフトローム粒極多量含む（主体）。
9．暗灰褐色土層	粘性、しまりややあり。２層の崩落か？
10．黒褐色土層	粘性、しまりややあり。ソフトローム粒やや多量含む。
11．暗黄褐色土層	粘性ややあり。ソフトローム粒多量に含む主体。
12．暗褐色土層	粘性、しまりあり。ソフトローム粒主体層を挟む。
13．暗褐色土層	粘性、しまりあり。ソフトローム粒多量含む。炭化物粒・焼土粒極微量。
14．暗黄褐色土層	粘性、しまりややあり。暗褐色土粒中量含む。
15．暗褐色土層	粘性、しまりあり。暗茶褐色土粒少量含む。鹿沼土状の土粒微量含む。
16．暗茶褐色土層	粘性、しまりあり。鹿沼土状土粒多量、ハードローム粒多量、炭化物少量含む。
17．黒褐色土層	粘性、しまりあり。
18．暗褐色土層	粘性、しまりややあり。ハードローム粒、鹿沼土状土粒多量含む。

第５- ３図　地下式坑平・断面図および出土遺物（1/60、1/1、1/3）

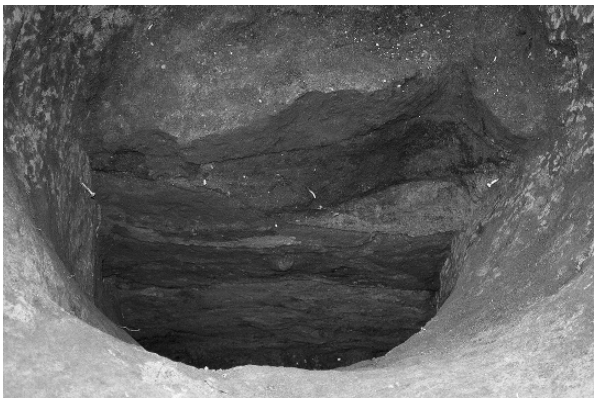
mの耕作土が堆積しており、根が張り巡らされていたが、休耕となったことで地下式坑の竪坑部分へ耕作土が崩落したものとみられる。直径約1mほどの竪坑は上部で崩落のため間口を広げており、この付近から茶釜の破片が出土している。竪坑は地表面から約3.8mの深度まで掘削し、古銭4枚が重なり出土したが床面に達せずこの深度で掘止めとした。古銭4枚のうち1枚は北宋銭の「熙寧元宝」(篆書体)であった。地表面から約2.8mの深度で北方向へ向かう地下室の入り口が確認でき、室部分は土壌ならびに天井の崩落物が堆積していた。室は奥行・幅ともに2.5mを測り、壁面には工具痕が確認できた。

土地所有者との協議により、今回の調査では安全面を配慮して遺構の完掘は行わず、規模の確認のみで埋め戻し、現地保存とした。なお、陥没防止のため山砂を充填し埋め戻しを行った。

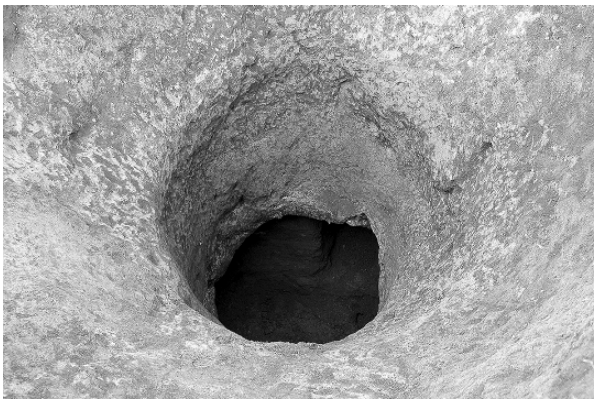


第5-4図　椿城想定図（任意縮尺・櫛形町文化財調査報告№6「椿城跡」第16図に加筆修正）

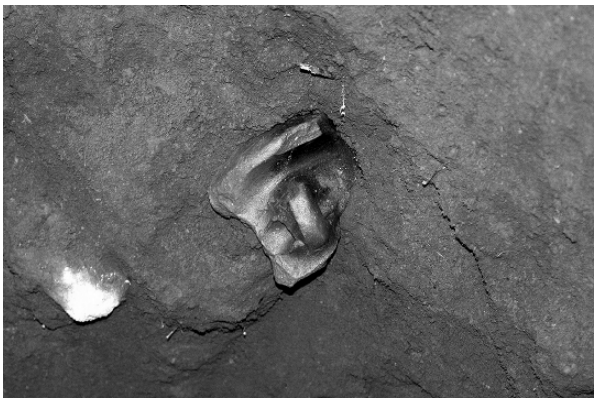
陥没部分半裁状況

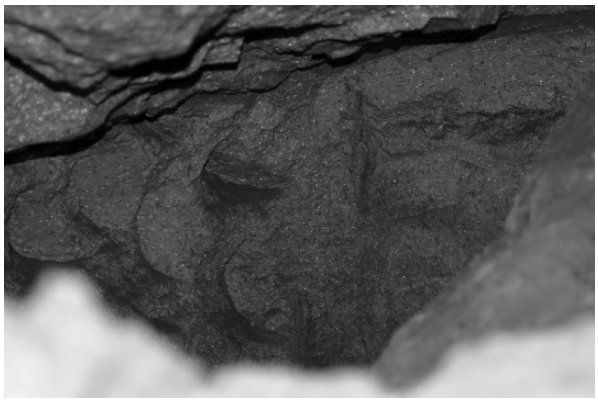

竪坑下部半裁断面

竪坑下部半裁状況


竪坑より室入口を望む

古銭出土状況


茶釜出土状況


室壁面にみられる工具痕

竪坑上部完掘状況

６．江原遺跡

調査地　　江原 1269-1
調査原因　工場
調査期間　平成 20 年 10 月 14 日、29 日、11 月７日
対象／調査面積　363 ㎡／ 40.00 ㎡
調査概要

第６- １図　調査位置図

調査地点は櫛形山を水源とする滝沢川によって造り出された扇状地上に立地する。

当該地は弥生時代～古代の遺物が出土することで知られる江原遺跡に該当し、調査地点の東には江原浅間神社があり、境内には当該周辺地域一帯を示す地名「大井」の名の由来といわれる「御手洗の池」がある。

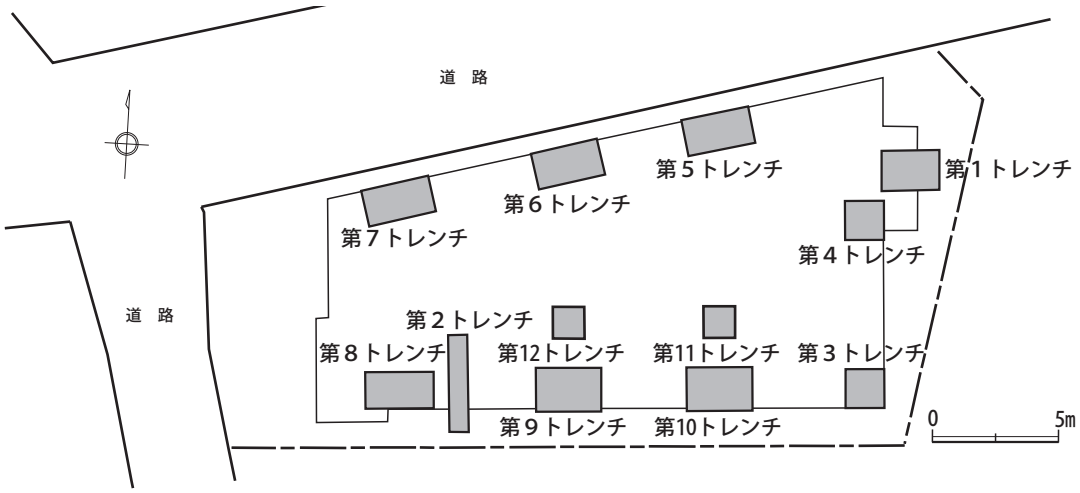
本試掘調査は工場建設に伴うもので、10 月 14 日、２本のトレンチを設定したところ第２トレンチで遺物が検出された。独立基礎に伴う掘削のみが遺構確認面にまで達することから、協議の結果、独立基礎部分のみ改めて試掘調査を実施することで同意が得られ、同 29 日再度試掘調査を実施した。

検出された遺構・遺物

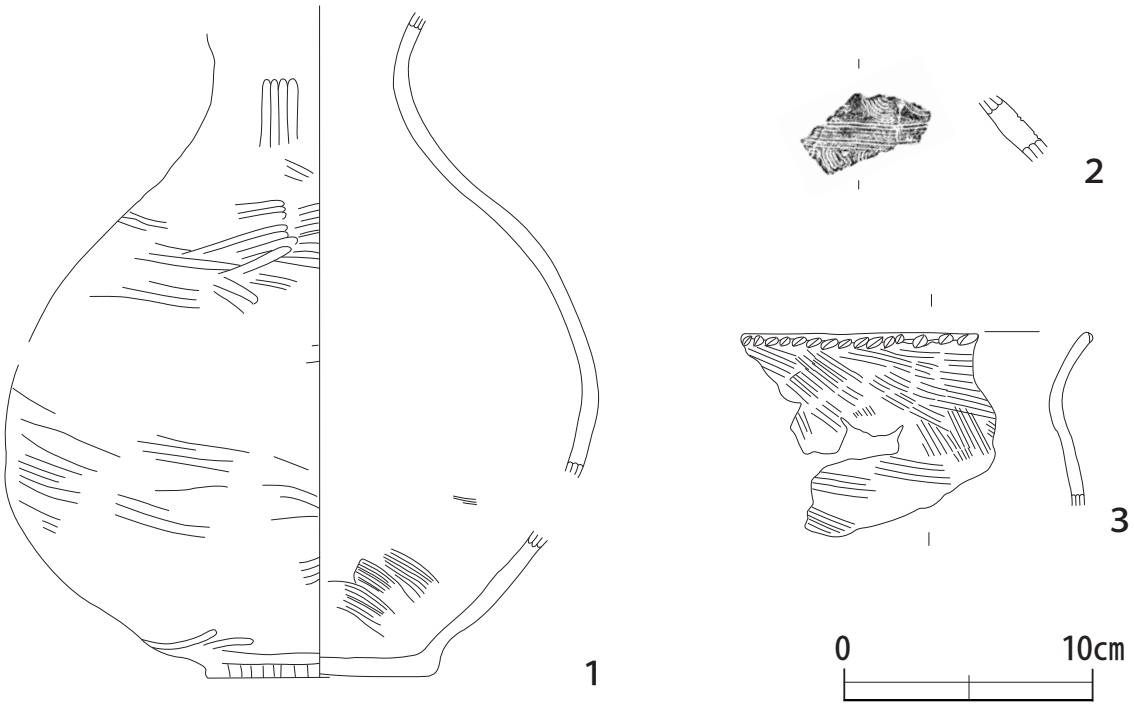
合計 12 箇所のトレンチを設定した。概ね敷地の北東半分は流路の存在を示す厚い砂礫層が堆積し、主に南西部において遺物包含層である黒褐色シルト層やその下面に遺構確認面となる暗褐色シルト層が確認された。深度は遺構や遺物が集中して検出された第９トレンチで概ね現地表面から 0.45 mであった。遺構は第９トレンチで土坑が検出され、また遺物は包含層を中心に弥生時代から古墳時代初頭の壷、甕、台付甕などが出土している。

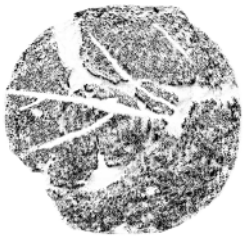
１の壷はほぼ完形である。外面は主に横方向のミガキが、内面はハケメがみとめられる。２は壷の肩部破片で櫛状工具により重弧文がみられ、内面はハケメ。３は刻み目口縁の甕で内外面ともにハケメがみとめられる。

調査の結果敷地南西部において多数の遺物が検出された。基礎により破壊される箇所については狭小であるため試掘調査において記録保存の措置を施したが、その他は建物下に現地保存されている。



第６- ２図　江原遺跡トレンチ配置図（1/300）





第６- ３図　出土遺物 (1/3)

作業風景

第９トレンチ遺物検出状況

第９トレンチ遺物検出状況

7．在家塚・竹之花遺跡

調査地　在家塚 20、21
調査原因　宅地造成（分譲住宅）
調査期間　平成 20 年 11 月 17 日、18 日
　　平成 21 年 1 月 27 ～ 30 日
対象／調査面積　1,663 ㎡／ 76.09 ㎡

調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇央部に位置する。近世において在家塚は「お月夜でも焼ける原七郷」と呼ばれるように、常習旱魃地域であった。試掘調査時、工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、平成 15 ～ 17 年に実施した遺跡詳細分布調査によって調査地点の約 250 m北側に中近世の遺物が採取できる神ノ木遺跡が発見されており、本試掘調査地点でも遺構を検出する可能性が想定された。

本試掘調査は宅地造成工事に伴うものであり、道路部分を中心に 3 箇所トレンチを設定した。平成 20 年 11 月 17 日に着手、すべてのトレンチで遺構を検出し、翌日の 18 日に調査を終了した。試掘調査終了後、下水道の設置箇所が決定されたため、新たに 1 箇所、第 4 トレンチを設定して試掘調査を実施した。その結果、遺構が発見されたため緊急調査を行った。

発見された遺構と遺物

第 1 トレンチ

地表から約 40cm の地点から土坑を 6 基検出した。

第 2 トレンチ

地表から約 40cm の地点から土坑、土坑墓および溝状遺構を検出した。トレンチ東端で検出した土坑墓は楕円形を呈し、短軸で約 75cm を測る。北端は調査区外へ続いている。土坑墓の遺構確認面上で破損した石臼や直径 18cm 前後の石が集中して出土し、さらにその下から人の頭蓋骨を確認した。

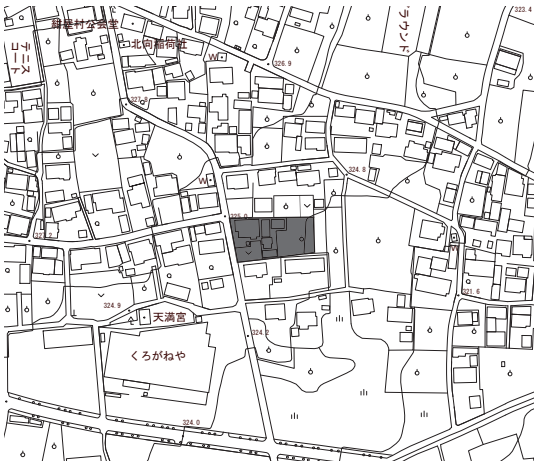
第 3 トレンチ

地表から約 40cm の地点から土坑を 21 基検出した。いずれも径 32cm 以下の小土坑である。

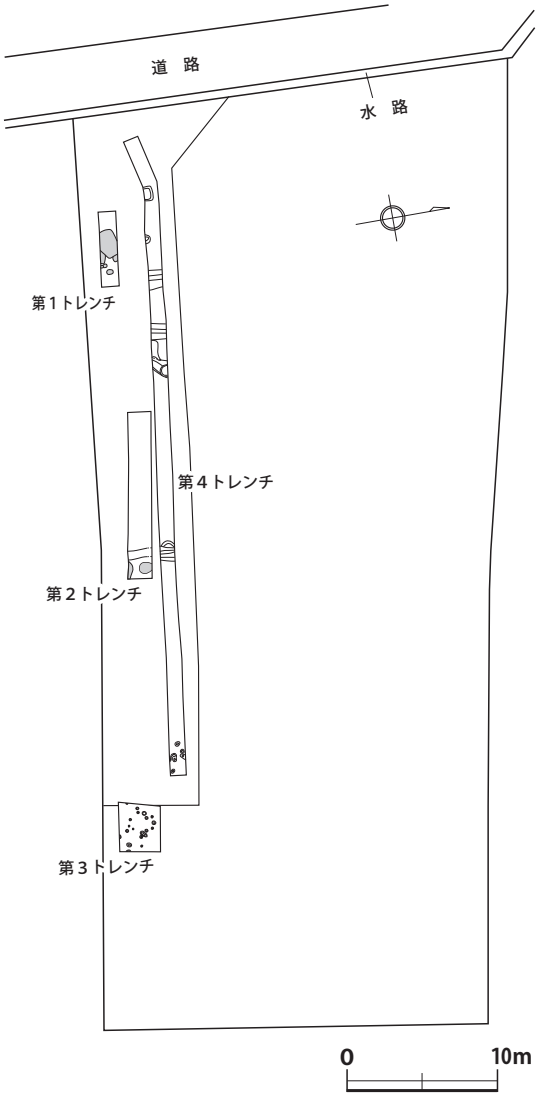
第 4 トレンチ

1 号溝状遺構

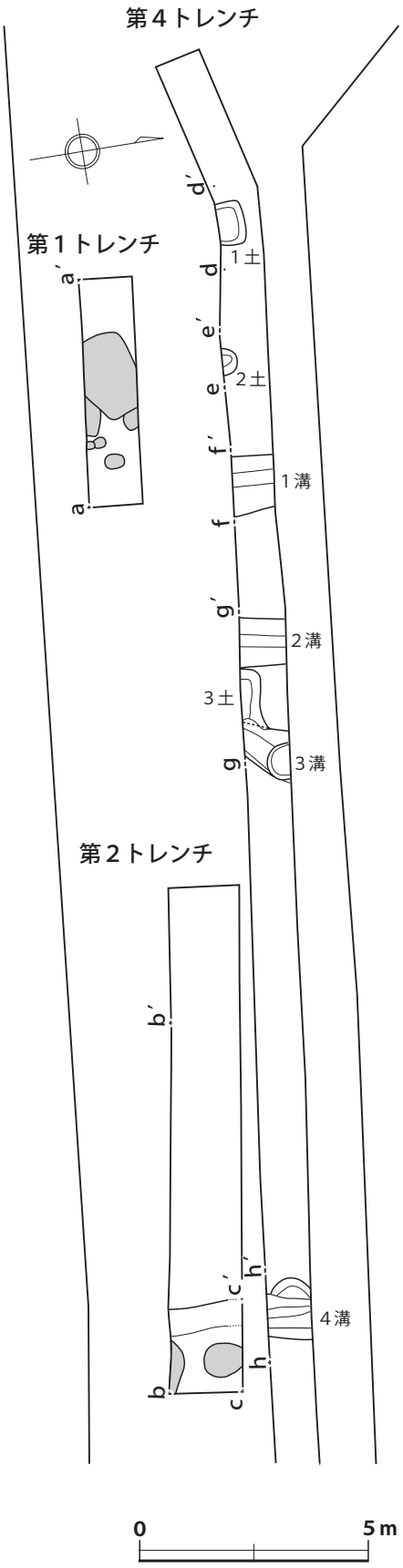
幅 112 ～ 132cm、床面から遺構確認面までの深さ約 22cm を数える。南北方向へ延びており、2、4



第 7 - 1 図　調査地位置図



第 7 - 2 図　在家塚・竹之花遺跡
トレンチ配置図（1/500）



第７- ３図　在家塚・竹之花遺跡遺構図（1/150）

号溝状遺構と方向がほぼ一致する。覆土には暗褐色土の砂礫層が堆積していた。

２号溝状遺構

幅約 110cm、床面から遺構確認面までの深さ約 42cm を数える。南北方向へ延びており、１、４号溝状遺構とほぼ方向が一致する。

３号溝状遺構

３号土坑を切って造られている。東側がカクランによって掘削されているため上端の幅は不明であるが、下端で約 40cm を測る。床面から遺構確認面までの深さ約 52cm を数える。カクランのためはっきりしないが、現状では北東から南西方向へ延びている。覆土中からかわらけ片や擂鉢片を検出した。

４号溝状遺構

幅 92 ～ 132cm、床面から遺構確認面までの深さ約 70cm を数える。南北方向へ延びており、１、２号溝状遺構とほぼ方向が一致する。断面はＶ字形を呈する。覆土中から完形の鉄製の鎌を検出した。

１号土坑

調査区の西端に位置する。調査区外へ遺構が延びているため、正確な形状は不明である。現状では隅丸方形を呈し、床面から遺構確認面までの深さ約 40cm を数える。

２号土坑

調査区の西側に位置する。調査区外へ遺構が延びているため、正確な形状は不明である。現状では楕円形を呈し、床面から遺構確認面までの深さ約 32cm を数える。

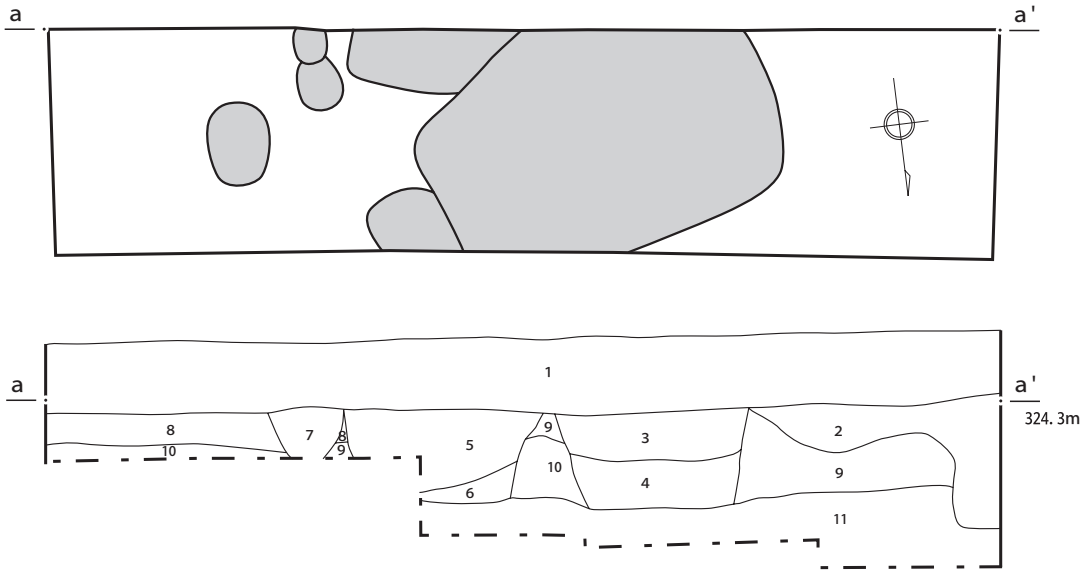
３号土坑

３号溝状遺構に切られている。調査区外へ遺構が延びているため、正確な形状は不明である。床面から遺構確認面までの深さ約 33cm を数える。

第４トレンチの東端では第３トレンチと同様に径約 38cm 以下の小土坑を７基検出した。調査地の東側には小土坑が密集して分布していることが明らかとなった。

総括

本試掘調査の結果、第１～４すべてのトレンチから土坑や溝状遺構を検出した。３号溝状遺構の出土遺物から、溝が廃棄されたのは中世の 15 ～ 16 世

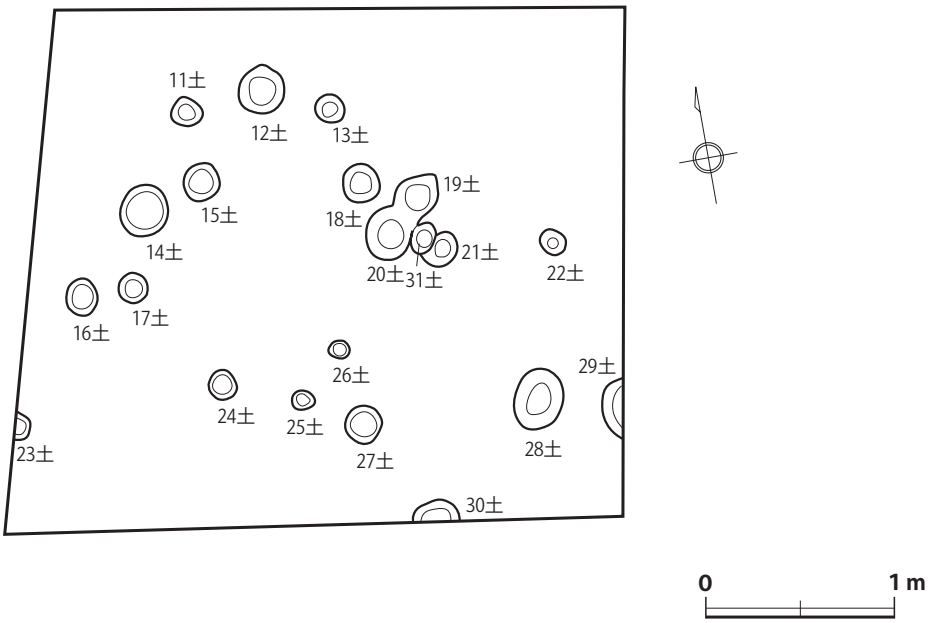


土層説明

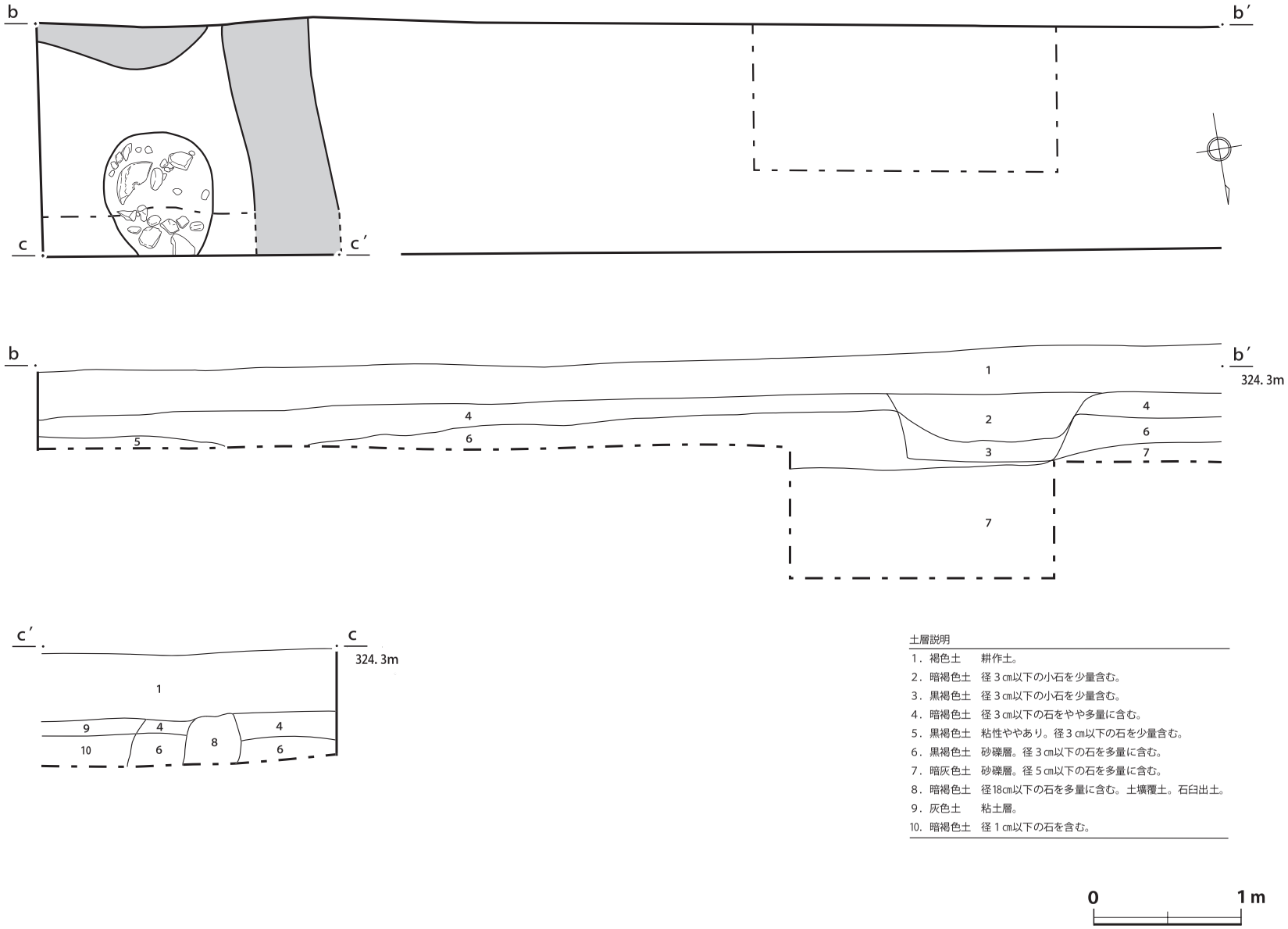
1．褐色土　耕作土。
2．暗褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。径１㎝の石を少量含む。
3．黒褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。径５㎝以下の石をやや多量に含む。
4．黒褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。
5．黒褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。径５㎝以下の石を少量含む。炭化物を少量含む。
6．黒褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。砂を含む。
7．暗褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。径２㎝以下の石を含む。
8．暗褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。径１㎝以下の石を含む。遺物包含層。
9．明褐色土　しまりややあり。粘性ややあり。シルト、砂、暗褐色土を少量含む。
10．褐色土　砂礫。径２㎝以下の石を多量に含む。
11．褐色土　砂礫。径３㎝以下の石を多量に含む。

0　1m

第７- ４図　第１トレンチ平・断面図（1/40）



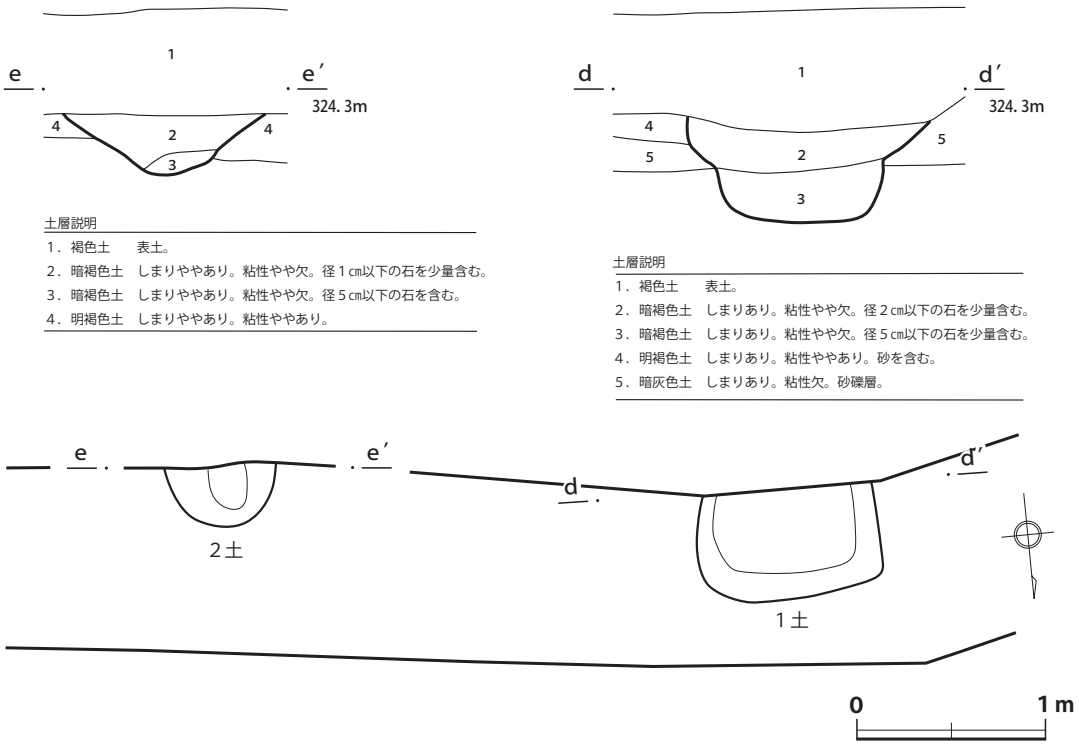
第７- ５図　第３トレンチ平面図（1/40）



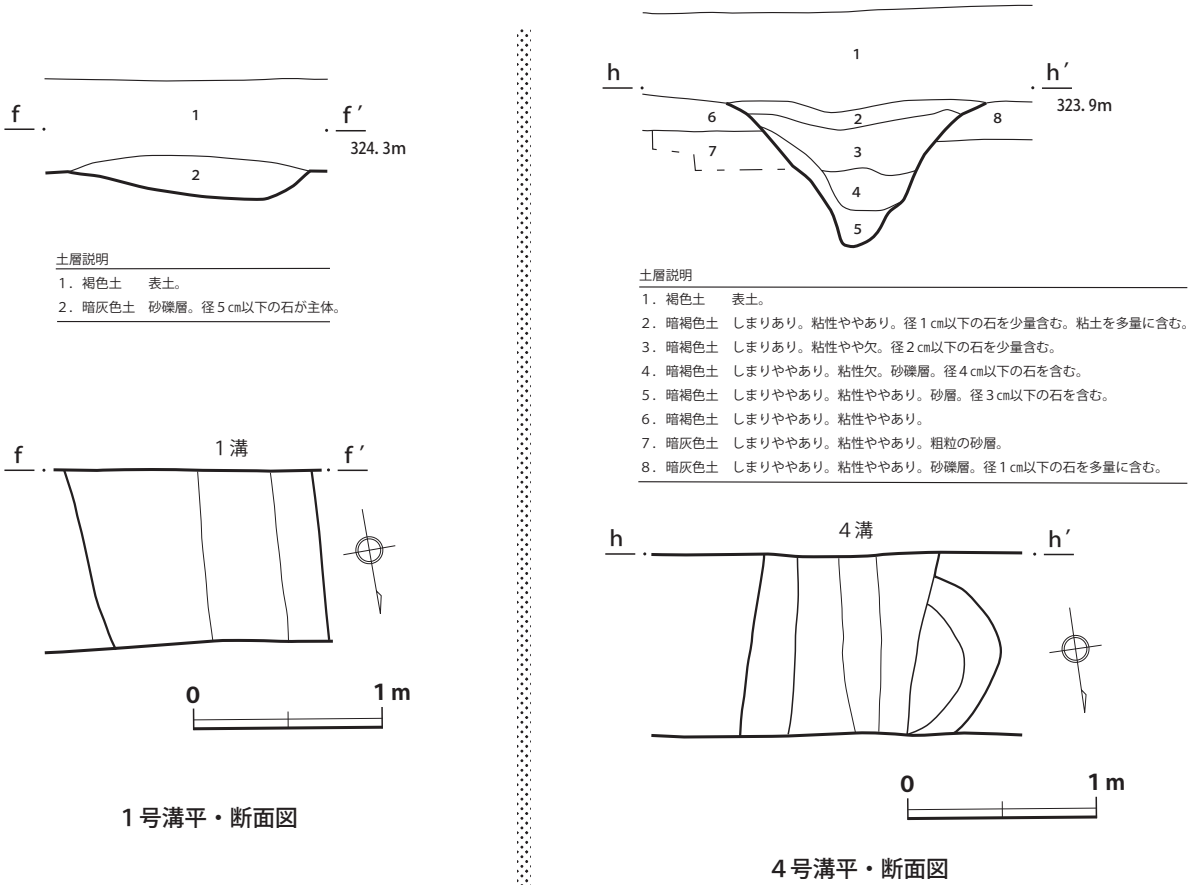
土層説明

1．褐色土　耕作土。
2．暗褐色土　径３㎝以下の小石を少量含む。
3．黒褐色土　径３㎝以下の小石を少量含む。
4．暗褐色土　径３㎝以下の石をやや多量に含む。
5．黒褐色土　粘性ややあり。径３㎝以下の石を少量含む。
6．黒褐色土　砂礫層。径３㎝以下の石を多量に含む。
7．暗灰色土　砂礫層。径５㎝以下の石を多量に含む。
8．暗褐色土　径18㎝以下の石を多量に含む。土壙覆土。石臼出土。
9．灰色土　粘土層。
10．暗褐色土　径１㎝以下の石を含む。

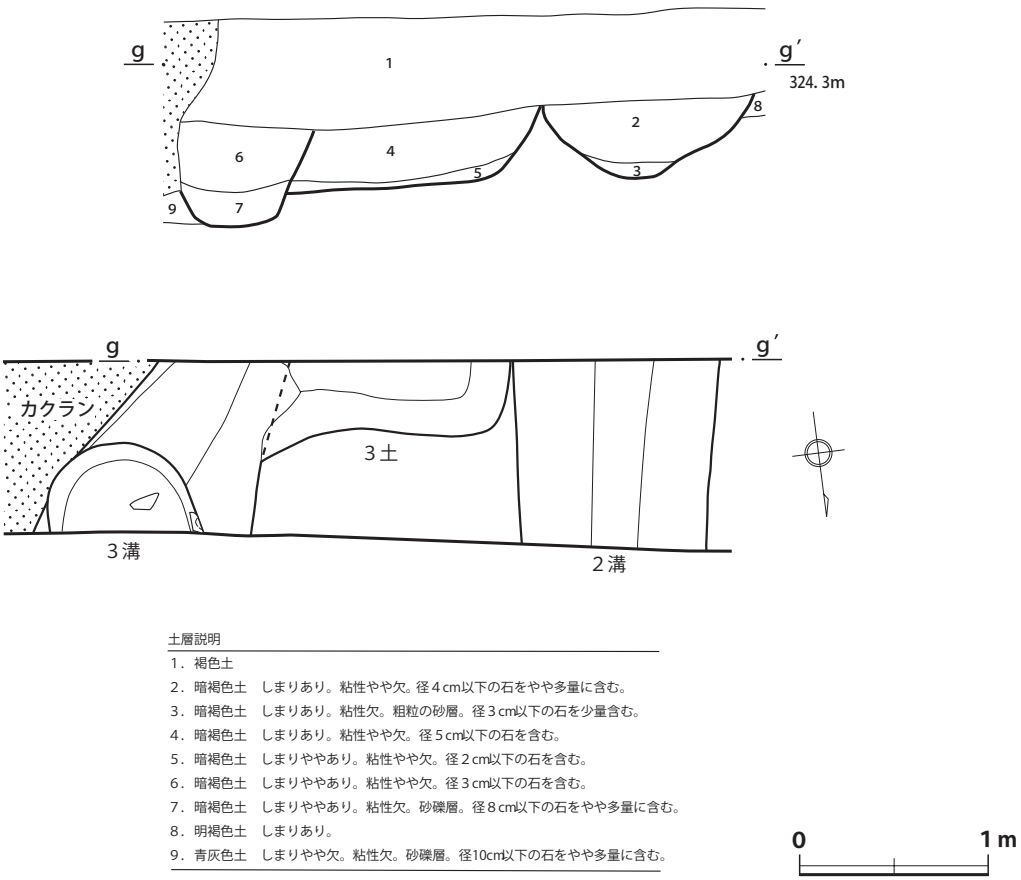
第７- ６図　第２トレンチ平・断面図（1/40）



第７- ７図　第４トレンチ１・２号土坑平・断面図（1/40）



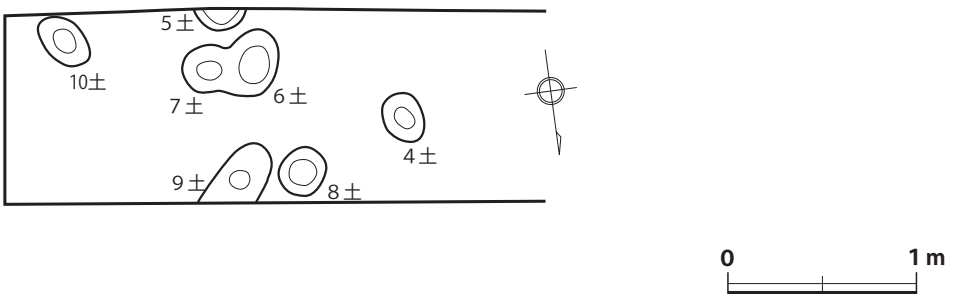
第７- ８図　第４トレンチ１・４号溝平・断面図（1/40）



土層説明

1．褐色土
2．暗褐色土　しまりあり。粘性やや欠。径４cm以下の石をやや多量に含む。
3．暗褐色土　しまりあり。粘性欠。粗粒の砂層。径３cm以下の石を少量含む。
4．暗褐色土　しまりあり。粘性やや欠。径５cm以下の石を含む。
5．暗褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。径２cm以下の石を含む。
6．暗褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。径３cm以下の石を含む。
7．暗褐色土　しまりややあり。粘性欠。砂礫層。径８cm以下の石をやや多量に含む。
8．明褐色土　しまりあり。
9．青灰色土　しまりやや欠。粘性欠。砂礫層。径10cm以下の石をやや多量に含む。

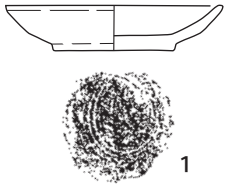
第７- ９図　第４トレンチ３号土坑および２・３号溝平・断面図（1/40）



第７-10 図　第４トレンチ土坑平面図（1/40）

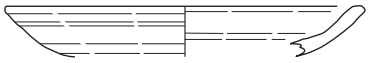
紀と推定される。調査地点の在家塚周辺では、確認されている遺跡が少なく、本試掘調査によって発見された遺構が中世の集落跡の初見であり、御勅使川の流路変遷と扇状地扇央部の集落展開、そして在家塚集落の歴史を考える上で重要な成果と言える。

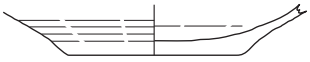
保護協議の結果、造成工事では山梨県が規定する保護層を確保し遺跡を盛土保存することで工事主体者と合意し、工事が着工された。

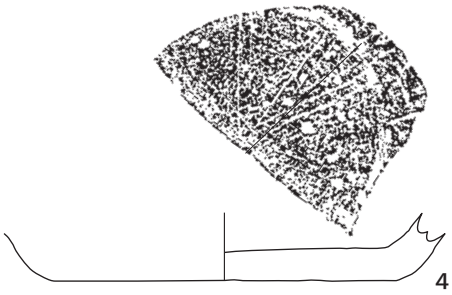


1Ｔ１号土坑

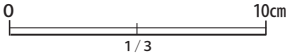
2Ｔ

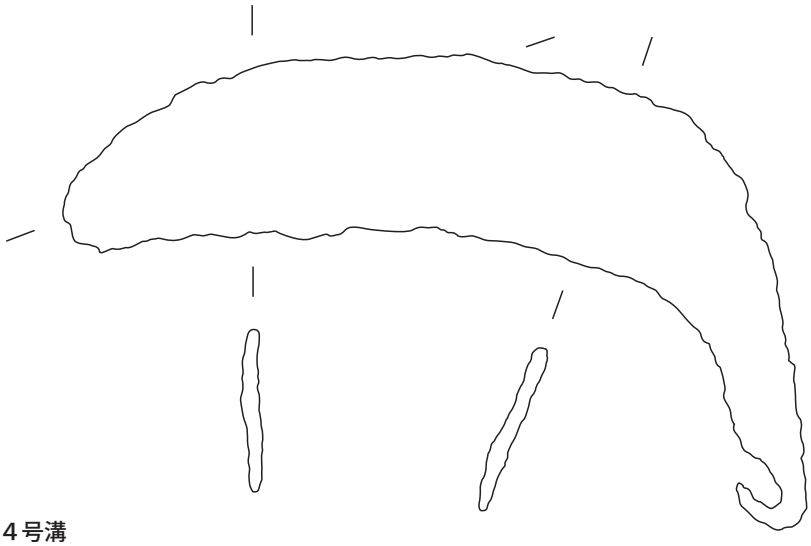




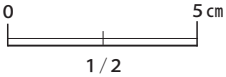


４Ｔ３号溝





４Ｔ４号溝



第７-11 図　出土遺物（1/2・1/3）

第７- １表　土坑計測表

土坑番号	形	径（cm）	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土坑番号	形	径（cm）	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
1	方形	―	―	―	32.9	17	円形	16	―	―	8
2	―	―	―	―	20.4	18	円形	20	―	―	10.5
3	―	―	―	―	42.8	19	楕円	―	30	20	10
4	楕円	―	27	22	6.9	20	楕円	―	28	24	11
5	―	―	―	―	10.5	21	円形	20	―	―	9
6	楕円	―	35	28	14.5	22	円形	14	―	―	9.5
7	円形	25	―	―	7.9	23	―	―	―	―	5
8	円形	25	―	―	11	24	円形	14	―	―	7
9	―	―	―	―	16.3	25	円形	12	―	―	3.5
10	楕円	―	32	22	7.8	26	円形	10	―	―	5.5
11	円形	16	―	―	8.5	27	円形	20	―	―	9
12	円形	24	―	―	7.5	28	楕円	―	34	24	20.5
13	円形	16	―	―	5	29	―	―	―	―	10.5
14	円形	26	―	―	8	30	―	―	―	―	6
15	円形	20	―	―	15.5	31	楕円	―	18	12	9
16	楕円	―	20	16	5.5						

第７- ２表　土器観察表

トレンチ遺構名	番　号	種　別	器　種	法量（cm）			残存率	製作技法		胎土	含有物	色調 外 / 内	焼成	注記番号	備考
				口径	底径	器高		内側	外面						
１Ｔ	1	土器	かわらけ	(8.6)	4.8	1.8	1/2	ロクロナデ	ロクロナデ 回転糸切り	密	白色粒子、金雲母	浅黄橙	良	ZT.1T.1 土	
２Ｔ	1	土器	すり鉢	―	―	―	破片			やや密	白色粒子、金雲母	黄橙	良	ZT.2T	
４Ｔ ３溝	1	土器	かわらけ	(14.2)	―	―	1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子、金雲母	橙	良	ZT.4T.3 ミゾ	
４Ｔ ３溝	2	土器	かわらけ	―	6.8	―	底部 1/2	ロクロナデ	ロクロナデ 回転糸切り	密	白色粒子、金雲母	赤褐	良	ZT.4T.3 ミゾ、３ミゾ -2	
４Ｔ ３溝	3	土器	すり鉢	―	―	―	破片			やや密	白色粒子、金雲母	橙	良	ZT.4T.3 ミゾ	
４Ｔ ３溝	4	土器	すり鉢	―	14	―	底部 1/2			やや密	白色粒子、金雲母	橙	良	ZT.4T.3 ミゾ -1	

第７- ３表　鉄製品観察表

遺構名	番号	種類	法量（cm）			重量（g）	残存率	備考	処理番号
			長さ	幅	厚さ				
４Ｔ４溝	1	鎌	21.5	4.8	0.7	150	完存	先端部がやや湾曲	34886

第１トレンチ全景（北東から）

第１トレンチ断面（北から）

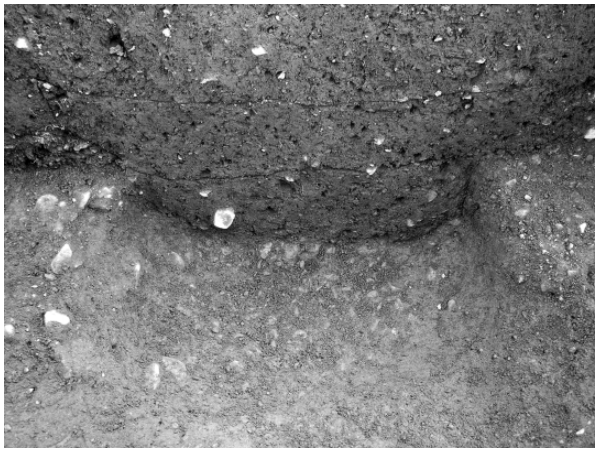
第２トレンチ全景（東から）

第２トレンチ遺物出土状況

第３トレンチ全景（東から）

第１トレンチ作業風景

第４トレンチ全景（西から）



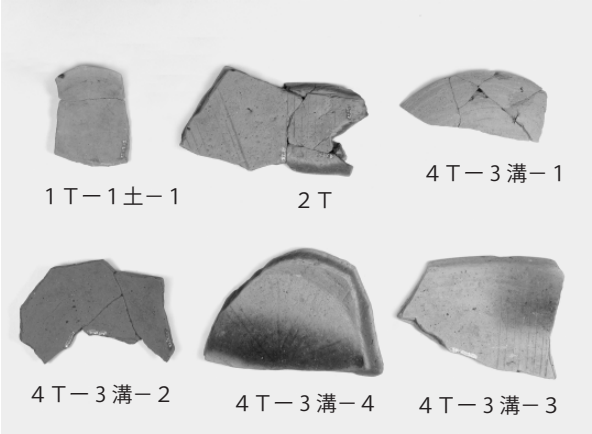
第４トレンチ１号土坑（北から）

第４トレンチ３号溝（北から）

第４トレンチ４号溝（上から）

第４トレンチ土坑群（北から）

第４トレンチ作業風景



４Ｔ－４溝

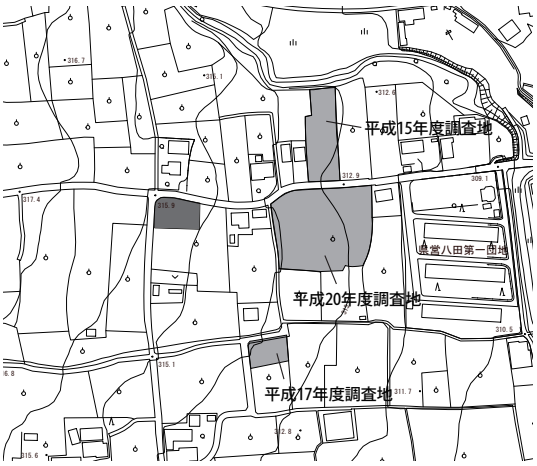
出土遺物

８．坂ノ上姥神遺跡（第３地点）

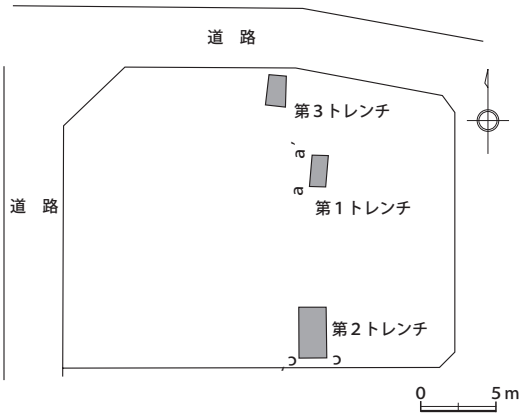
調査地　　徳永 1729-3
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 21 年１月８～ 17 日
対象／調査面積　500 ㎡／ 10.00 ㎡
調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が集中する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。調査区の北東側に平成 15 年度計画された宅地分譲工事や平成 20 年度に調査区東側に計画された私立小学校建設工事に伴い、奈良～平安時代初頭の集落跡が発見されている。

本試掘調査は、個人住宅建設工事に伴うものである。個人住宅部分は遺構との保護層が確保できるため、調査は掘削深度が深い浄化槽および浸透桝部分を対象にトレンチを設定した。調査の結果、第１・２トレンチで遺構を確認したため、本発掘調査を実施した。



第８- １図　調査地位置図



第８- ２図　坂ノ上姥神遺跡トレンチ配置図
（1/500）

発見された遺構と遺物

第１トレンチ

第１トレンチでは、地表から約１ｍの地点から竪穴住居址を１軒、溝状遺構を１条検出した。

１号住居址

遺存　遺存状態は比較的良好で、確認面から床面まで約 45cm を数える。

形状／規模　遺構が調査区域外に延びるため正確な形状および規模は不明であるが、南東角の形状から隅丸方形を呈すると推測される。

床面　地山の明褐色土粘土層を利用している。顕著な硬化面は検出できなかった。

竈　東壁に造られている。北側の袖を一部検出しただけで、ほかの袖部および天井部は検出していない。竈内には厚さ約８cm の火床面が形成されていた。竈中央から直径 10cm、深さ６cm を測る土坑を検出した。位置関係から支脚痕と推測される。

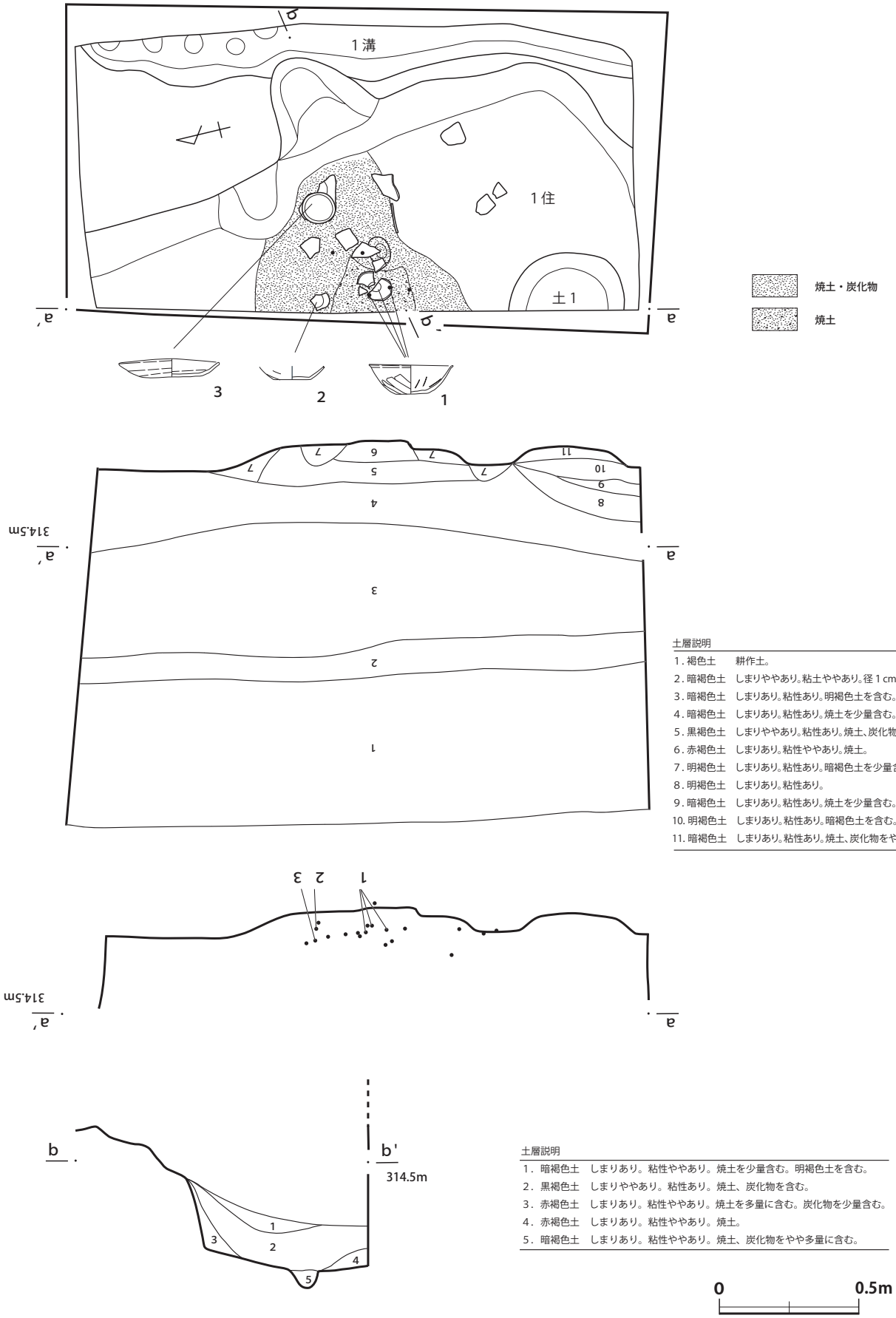
土坑　住居址南側に造られている。検出した範囲で長さ 40cm、深さ８cm を測る。覆土は暗褐色土で焼土、炭化物を多量に含む。竈からの流入と考えられる。

遺物　竈内を中心に甲斐型の坏、皿、甕片が出土した。１、２は土師器の坏である。３は土師器の皿で竈の中央に伏せられた状態で検出した。４は甕の口縁部片である。

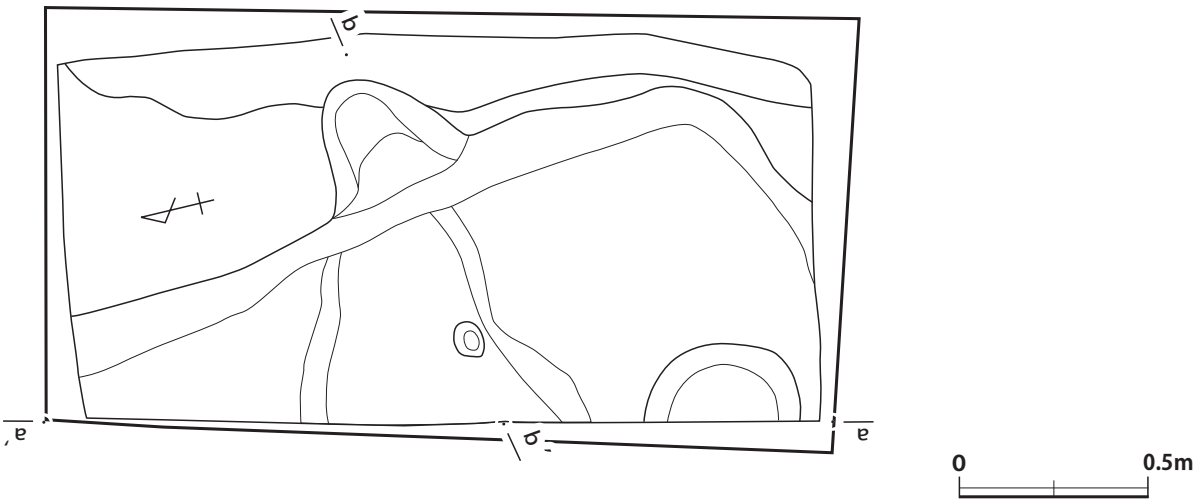
時期　土師器の坏１と２および皿の３から宮ノ前Ⅷ期、９世紀末から 10 世紀初頭に比定される。

溝状遺構

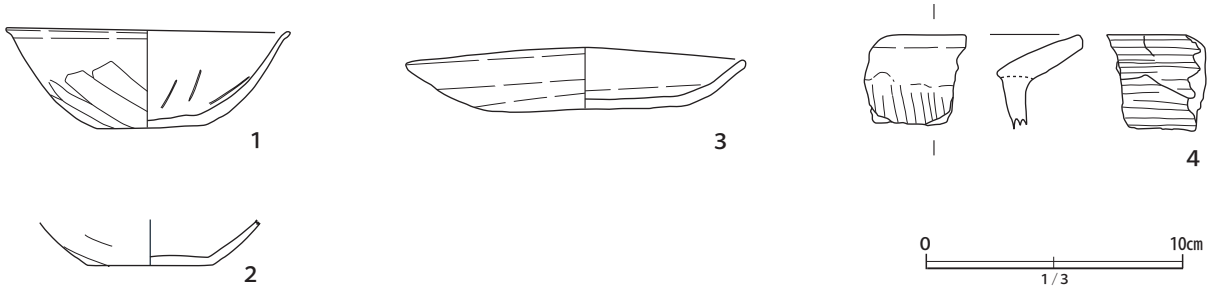
検出した部分が一部であるため、遺構の全体像は不明である。土坑が連続している可能性があるが、南北へ伸びるその形状から本報告では溝状遺構とした。遺構のほとんどの部分が調査区外にあるため、



第８- ３図　第１トレンチ平・断面・エレベーション図、１号住居址竈断面図（1/20）



第８- ４図　第１トレンチ１号住居址掘方平面図（1/20）



第８- ５図　第１トレンチ出土遺物（1/3）

第８- １表　坂ノ上姥神遺跡土器観察表

トレンチ遺構名	番号	種　別	器　種	法量（cm）			残存率	製作技法		胎土	含有物	色調 外 / 内	焼成	注記番号	備考
				口径	底径	器高		内側	外面						
１Ｔ １住	1	土師器	坏	11.1	4.3	4	完形、口縁一部欠損	暗文	ロクロナデ、ヘラケズリ	密	赤色粒子	明赤褐	良	SU3.1T. 住 .8.17.18	
１Ｔ １住	2	土師器	坏	―	5	―	1/4		ロクロナデ、ヘラケズリ	密	赤色粒子	橙	良	SU3.1T. 住 .3	
１Ｔ １住	3	土師器	皿	13.3	5.2	2.5	完形	ロクロナデ	ロクロナデ	密	赤色粒子	橙	良	SU3.1T. 住 .1	歪みあり
１Ｔ	4	土師器	甲斐型甕	―	―	―	破片	ヨコハケ	タテハケ	やや粗	黒色粒子、金雲母	赤褐	普通	SU3.1T	

形状、規模、深さは不明である。遺物は検出していない。

第２トレンチ

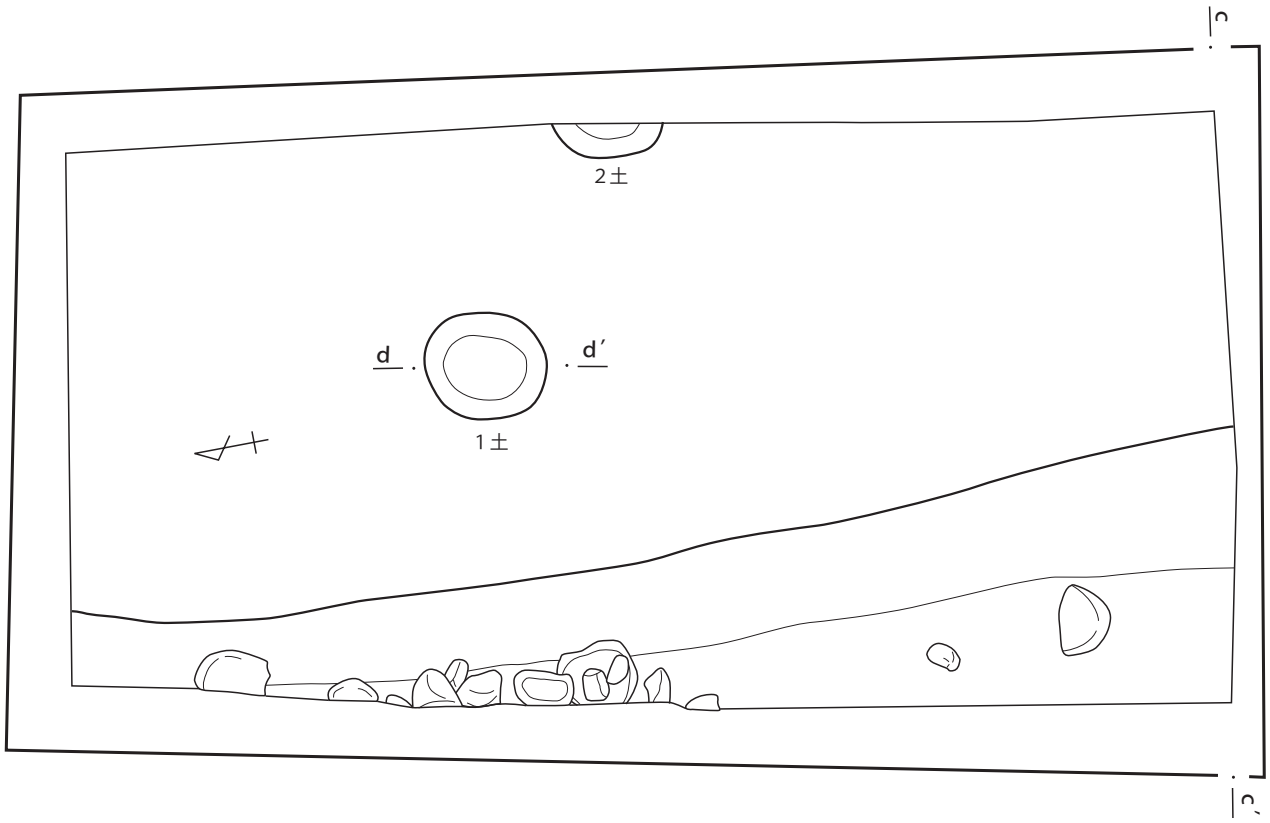
第２トレンチでは、地表から 80m の地点から溝状遺構を１条、土坑を２基検出した。

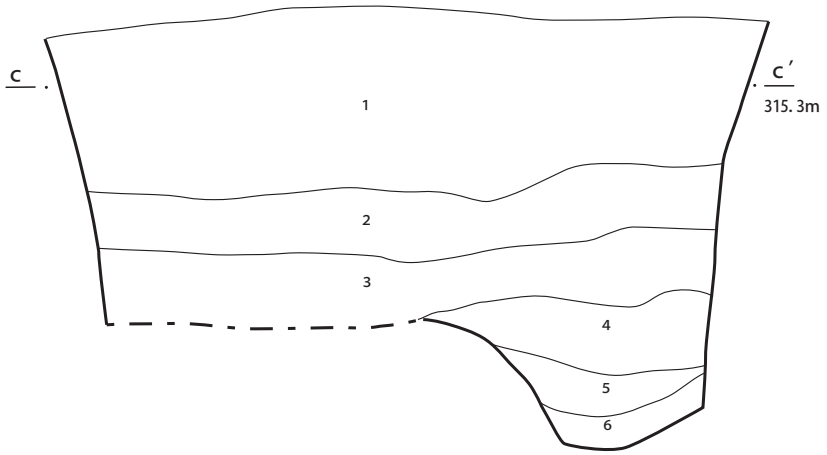
溝状遺構

溝状遺構は南北へ走っている。北・南側が調査区外へ延びているため、その形状や規模は不明であるが、底面から確認面までの深さは約 32cm を数える。遺構の北側の覆土中には約８～ 22cm の石が集中して出土し、その中で人獣判別不明の骨片を検出した。溝状遺構の覆土は暗褐色土である。

第８- ２表　土坑計測表

土坑番号	形	径（cm）	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備考
1	円形	30	―	―	13.7	
2	―	―	―	―	（8.1）	





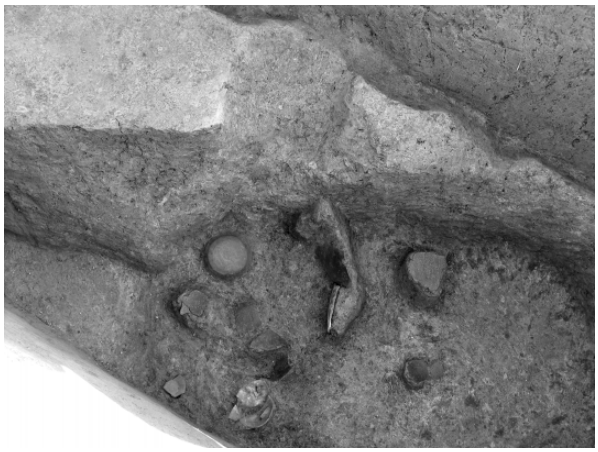
土層説明

1. 褐色土　耕作土。
2. 暗褐色土　しまりややあり。粘性あり。径１㎝以下の石を含む。
3. 暗褐色土　しまりあり。粘性あり。明褐色土をわずかに含む。
4. 暗褐色土　しまりあり。粘性あり。明褐色土、ブロックを含む。
5. 暗褐色土　しまりあり。粘性あり。明褐色土を少量含む。
6. 暗褐色土　しまりあり。粘性あり。明褐色土をやや多量に含む。

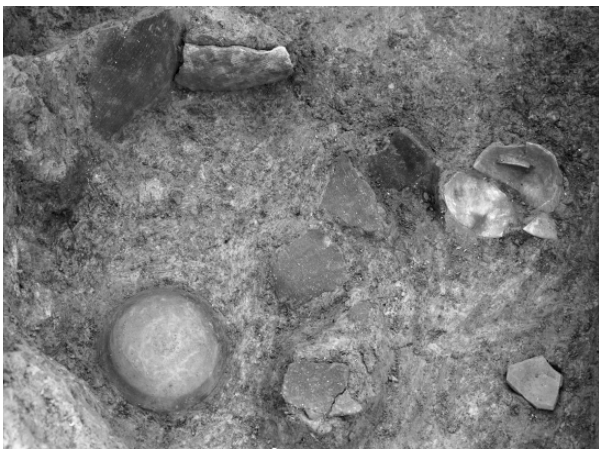
0　0. 5m

第８- ６図　第２トレンチ平・断面図、 土坑エレベーション図（1/20）

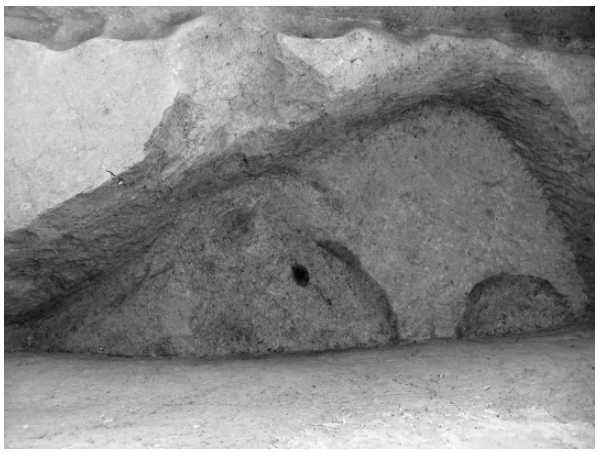
第１トレンチ１号住居址全景



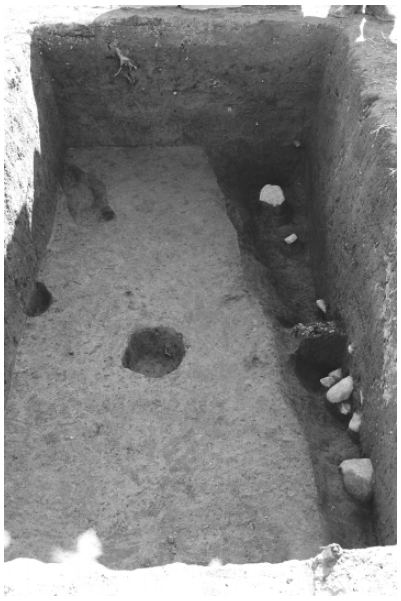
第１トレンチ１号住居址竈



第１トレンチ１号住居址竈遺物出土状況



第１トレンチ１号住居址掘方全景

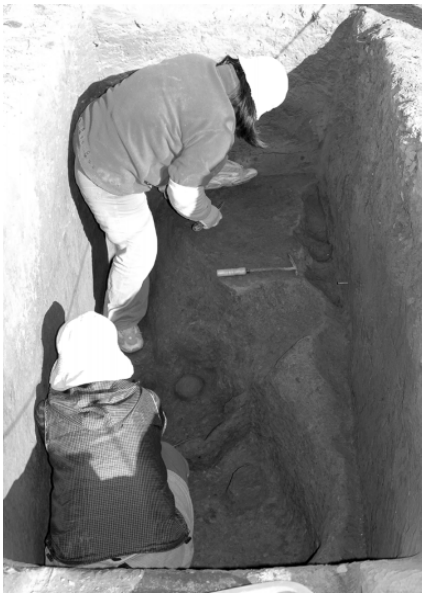


第２トレンチ全景（北から）

第２トレンチ溝状遺構完掘状況（北から）

第２トレンチ溝状遺構断面（北から）

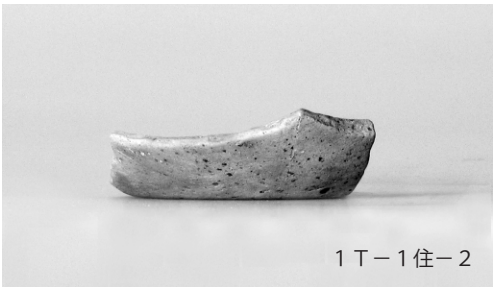
第２トレンチ溝状遺構（東から）



作業風景

作業風景

１Ｔ－１住－１



１Ｔ－１住－２

１Ｔ－１住－３

１Ｔ－４

出土遺物

報　告　書　抄　録

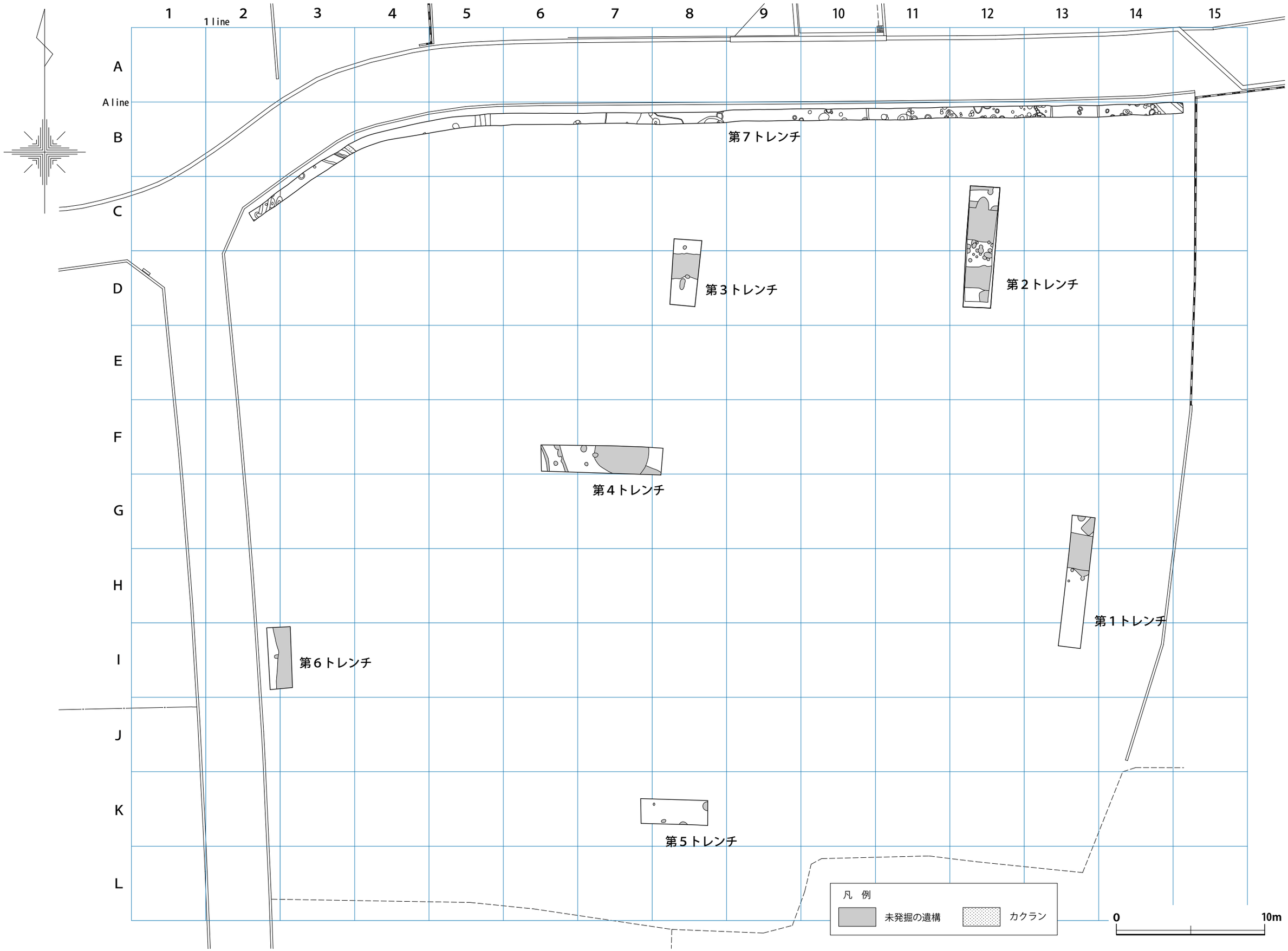
ふ　り　が　な	へいせい 20 ねんどまいぞうぶんかざいしくつちょうさほうこくしょ
書　　名	平成 20 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
副　書　名	各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第 24 集
編　著　者　名	斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一
編　集　機　関	南アルプス市教育委員会
所　在　地	〒 400-0492　山梨県南アルプス市鮎沢 1212　TEL055-282-7269
発 行 年 月 日	2010 年 3 月 29 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °　′　″ （世界測地系）	東経 °　′　″ （世界測地系）	標高 （m）	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号						
東久保A・東久保B・古屋敷遺跡（ひがしくぼエー ひがしくぼビー ふるやしきいせき）	中野（なかの）2576 他	19208	KG－223、KG－224、KG－234	35°　35′　50″	138°　26′　30″	414	2008 年 5 月 1 ～ 16 日、6 月 11 日	251.04	クラインガルテン
坂ノ上姥神遺跡（さかのうえうばがみいせき）（第 2 地点）	徳永（とくなが）1717 他	19208	HT－40	35°　39′　15″	138°　29′　13″	313	2008 年 6 月 2 ～ 7 日、2008 年 11 月 19 日 ～ 12 月 11 日	122.69	私立小学校
溝呂木道上第 5 遺跡（みぞろぎみちうえだいごいせき）	十日市場（とおかいちば）1154	19208	WK－83	35°　36′　39″	138°　28′　20″	281	2008 年 6 月 5、6 日	58.00	社屋建設
東出口遺跡（ひがしでぐちいせき）	下宮地（しもみやじ）624、625-1	19208	KG－139	35°　36′　18″	138°　28′　11″	276	2008 年 8 月 11 ～ 13 日	34.28	病院建設
椿城跡（つばきじょうあと）	上野（うえの）345-1	19208	KG－222	35°　35′　48″	138°　26′　25″	412	2008 年 10 月 9 日、14 ～ 17 日、27 日、11 月 7 日	13.50	範囲確認調査
江原遺跡（えばらいせき）	江原（えばら）1269-1	19208	KS－27	35°　36′　3″	138°　28′　11″	272	2008 年 10 月 14 日、29 日、11 月 7 日	40.00	工場
在家塚・竹之花遺跡（ざいけづか たけのはないせき）	在家塚（ざいけづか）20、21	19208	SN－26	35°　37′　55″	138°　28′　7″	324	2008 年 11 月 17、18 日、2009 年 1 月 27 ～ 30 日	76.09	宅地造成（分譲住宅）
坂ノ上姥神遺跡（さかのうえうばがみいせき）（第 3 地点）	徳永（とくなが）1729-3	19208	HT－40	35°　39′　15″	138°　29′　9″	315	2009 年 1 月 8 ～ 17 日	10.00	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東久保A・東久保B・古屋敷遺跡	散布地・集落地	縄文中期	住居址、溝状遺構、土坑	縄文土器、土偶	縄文中期後半の縄文集落。
坂ノ上姥神遺跡（第 2 地点）	散布地	奈良・平安時代 中世	住居址、溝状遺構、土坑	土師器坏、甕 須恵器坏蓋、かわらけ	御勅使川扇状地の末端部の奈良・平安時代および中世の集落。
溝呂木道上第 5 遺跡	散布地	弥生～平安時代	住居址、溝状遺構、土坑	土師器坏、須恵器甕	御勅使川扇状地の末端部の集落。
東出口遺跡	散布地	平安時代	住居址、土坑	土師器坏、甕、羽釜 須恵器高台坏	御勅使川扇状地および滝沢川扇状地上の平安時代集落。
椿城跡	城館跡	中世	地下式坑	茶釜	中世城址、寺院に分布する地下式坑群。
江原遺跡	散布地	弥生～古墳	土坑	土師器	滝沢川扇状地上の古墳～平安時代中心とする集落。
在家塚・竹之花遺跡	散布地	中世	溝状遺構、土坑	かわらけ、擂鉢、鉄製の鎌	御勅使川扇状地扇央部の中世集落。
坂ノ上姥神遺跡（第 3 地点）	散布地	奈良・平安時代	住居址、溝状遺構、土坑	土師器坏、皿、甕	御勅使川扇状地の末端部の奈良・平安時代の集落。

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書　第 24 集
山梨県南アルプス市
平成 20 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

発行日　2010 年 3 月 29 日
発行者　南アルプス市教育委員会
〒 400-0492
山梨県南アルプス市鮎沢 1212
TEL　055-282-7269
印刷所　鬼灯書籍株式会社
〒 381-0012
長野県長野市柳原 2133-5
TEL　026-244-0235
FAX　026-244-0210



第２−３図　坂ノ上姥神遺跡トレンチ・遺構配置図（1/250）